

立を了し四月中に其使用を開始して居ります。

二、客 車

客車の大部分は京城工場の製作にかゝり全部ボギー式を採用し、貫通式空気制動機を有し、又其多數は蒸氣燈房及電燈装置を有して居ります、定員の最も多いものは百四人であります、最近京釜京義の幹線急行用として製作せられた三等車は、旅行の安易を期する點から其定員を八十四人とし、各種の設備に改良を加へ、又幹線列車に使用される展望車六輛を始とし一等寢臺車、二等寢臺車、食堂車等何れも最新の設備を有し、特に三等旅客の長途旅行に便宜な三等寢臺車は、大正十二年一月京城工場で製作され、東洋の鐵道に於ける初ての試みとして同年二月十一日より京釜、京義直通旅客列車に使用し、其の定員は上段十八人中段二十七人下段二十七人を收容する事が出来、其の利用者も漸次増加しつつあります。

三、貨 車

貨車は日露戰爭に依り鹵獲改造したもの三百四十四輛を除き、他は全部當局各工場の製作に依るものであります、現在二千七百三十八輛の中、十噸積四輪車二百五十三輛を除く外は總てボギー車であり、空気制動機を備へ積載量十四噸から五十噸に達するものであります、其内譯は有蓋車數は一千五百四十六輛、無蓋車數は一千九百九十二輛であります。

十五年
元年度新製車輛。
次に大正十五年度中の新製落成車輛は、二等寢臺車四輛、展望一等寢臺車一輛、三等寢臺車七輛、三等客車二十一輛、無蓋車二十輛、計五十三輛で、此外機關車二輛(テンホ井ール型、テンター付)(重量百一噸六噸、汽笛牽引力二萬六千六百封度)は京城工場に於て、客車二十輛(内二輛は二年度落成)貨車三十五輛(内五輛落成)は、目下各工場に於て新造工事中であり、機關車は七八月頃落成の豫定で、當局に於ける機關車の新造作業は之が嚆矢であります。

次に車輛の累年比較及現在車輛の詳細な内譯を示します。次の通りであります。

車 輛 數 累 年 表

車 種 型 式	明治三十九年度末現在		大正元年度末現在		大正五年度末現在		大正十年度末現在		昭和元年度末現在	
	計	有蓋	計	有蓋	計	有蓋	計	有蓋	計	有蓋
機關車	計	七四	計	八八	計	一〇〇	計	一〇〇	計	九七
客 車	計	一九	計	五〇	計	七五	計	一三三	計	一五〇
客 車	有蓋	一五	有蓋	一三	有蓋	一五	有蓋	一三	有蓋	一三
客 車	無蓋	一七	無蓋	一七	無蓋	一五	無蓋	一三	無蓋	一三
貨 車	計	四七五	計	四六四	計	六五八	計	一、四八五	計	一、五四六
貨 車	有蓋	一七九	有蓋	一七九	有蓋	一七九	有蓋	一七九	有蓋	一七九
貨 車	無蓋	二九六	無蓋	二八五	無蓋	四七九	無蓋	一、三〇六	無蓋	一、三六七
計		六三六	計	五五二	計	一、一七三	計	二、六〇〇	計	二、七三六

車 輛 現 在 表 (大正十四年度末)

機 關 車 (車輪配置)	種 類	京釜鐵道より引繼入のもの		軍事費購入のもの		新 購 入 及 造 合 計		記 事
		計	有蓋	計	有蓋	計	有蓋	
モーガル	二一六—〇	四輛	—	—	—	四輛	—	減七輛は私設鐵道に讓渡に付車籍削除
プレリ	二一六—二	—	—	一八	—	一八	—	
バルチック	四一六—四	—	—	—	—	—	—	
コンソ	二一八—〇	—	—	—	—	—	—	
デーシヨ	四一六—〇	—	—	—	—	—	—	
テンホ井	四一六—〇	—	—	—	—	—	—	

第六章 電 氣 及 通 信

一 電 氣

動力 電氣動力に依る作業は明治四十二年十一月十一日京城工場内に火力發電所を設置し、原動機數二個、(此馬力

一千馬力)發電機數二個、此容量六十キロボルトアンペヤを設備し發電機一組を使用し、電動機數八組此馬力二百八十八馬力を以て、車輛其他鐵道用品の製修を行つたのが初めてでありまして、其の以前の原動力としては、主として蒸汽汽罐を使用しましたが、逐次設備を擴張するに共に、草梁、平壤の各工場其他必要の箇所之を設備し、今日に及び大正十五年三月末現在動力作業の概要は左の通りであります

A 京城附近では、十四年七月の大洪水に依り京城工場構内發電所(火力發電機七組、電動機數百二十個、此總馬力千九百三十四・二五馬力)が被害を受け其後復舊しましたが、同年九月から金剛山電氣の供給を受ける事となり、工場發電所は豫備として使用する事となつたのであります。

B 金剛山電氣の供給區域は京城及龍山構内の各所でありまして、京城工場では全部の電動機に之を使用し其總箇數百二十六個、其總馬力千九百五十六・二五馬力、直流發電機四個、總容量三九・一五キロワットであります、其他の動力又は電燈用としては變壓器容量一〇〇キロボルトアンペア三基(一次電壓六三〇ボルト二次電壓二二〇ボルト六〇サイクルデルタ接続)で供給し、動力用は工場の外龍山機關區附屬工場、工務課電氣修繕室、京城驛エレベーター、養成所實驗室、病院治療室等に使用し、電動機總箇數は四三箇、其馬力三九八・〇八馬力、直流發電機四個、總容量は五・九二五キロワットであります。

次に十四年度中金剛山電氣會社からの受電總量は五十九萬二千九百七十三キロワットアワーでありまして一キロワットアワー平均七錢に當り、工場發電所に於ける年度中の總發電量は九十二萬八千九百二十二キロワットアワー、總經費七萬二千三百三圓を算し一キロワットアワー平均七錢八厘に當り、石炭消費量は七百三十三萬九千三百五十三斤、一キロワットアワー平均七斤九に當つて居ります、尙朝鮮ホテルでは電動機十二個を備付けエレベーター洗滌器其他に使用して居りますが、其馬力は二十九・七十五馬力で、電力は京城電氣會社から供給を受けて居ります。

其他 京城以外の各地方に於ける動力は、何れも局外から供給を受け、平壤分工場では電動機七個、其馬力數百二十三・六馬力、直流發電機一個、容量四キロワット、平壤機關區電動機一個、其馬力數七十五馬力、大田機關區電動機一個、其馬力數七・五馬力、大田檢車區電動機二個、其馬力數二十二・五馬力、直流發電機四キロワット、大邱機關區電動機一個、其馬力數十馬力、草梁機關區電動機一個、其馬力數七・五馬力、釜山檢車區電動機一個、其馬力數七・五馬力、直流發電機容量四キロワットであります。

次に釜山工場に於ては電動機十二個、其馬力數二百五十三・五馬力、直流發電機一個、容量三・九キロワットを使用して居りますが、以上京城以外の地に使用されるものを合計しますと、電動機個數二六箇、馬力數四百三十九・六馬力、直流發電機個數四個其の容量一五・九キロワットに達するのであります。

照明 朝鮮線に於て驛舎其他の夜間照明に電燈を使用したのは明治三十三年南大門驛開設後でありまして、爾後仁川、釜山、平壤、元山、大田、新義州、木浦等漸次主要驛に之を使用し今日に至つて居りますが大正十五年三月末現在使用換算燭光は下の如くであります。

A 驛舎其他電燈 京城驛、龍山驛及官舎等では十燭光換算一萬七千八百七十燈でありまして龍山工場發電所から供給を受け、其他外部から供給を受けるものとしては京城工務事務場管内(京城物開間、京仁線、京元線及咸鏡南部線

の各事務所、驛舎、官舎等の電燈設備を有する箇所（京城工場供給以外のもの朝鮮ホテル及元山を含む）に使用されるものは五千百五十七燈、大田管内（同上湖南線及大田始興間）では一千九百七十六燈、草梁管内（同上釜山沃川間及馬山線）では五千五百七燈、清津出張所管内（咸鏡北部線、中部線）では一千七百二十五燈でありまして、平壤管内を除く以上の合計燈数を十燭光に換算しますと一萬九千二百三十四燈に達するのであります。

B 列車電燈 列車電燈の使用を開始したのは、大正元年十二月、京釜及京義直通列車並京仁線の客車合計九十輛に使用し、其後漸次擴張し、現在では兼二浦線及咸鏡線北部以外各線の區間列車、及混合列車を除く全部に使用するに至りました。

而して現在電燈装置車数は四百五十二輛で、内發電機装置車数三百二十七輛を算し、列車電燈の發電機に使用される機器は直流二十四「ボルト」、ストン式舊型、及リップト型を採用し、發電機容量は最大二・四キロワット最少〇・三六キロワットであり、總出力は三百五十五キロワットに達して居ります。

電球の種類は八燭光、十二燭光、十六燭光で總數八千五百十三燈、之が十餘燭光に換算數一萬三千燈であります。

次に機關車の照明は現在全部のテンダーに之を取付けあり、電燈の發電機は直流三二ボルト、發電機の標準はKI二型二〇・五キロワットで其最大は一・五キロワットを使用しヘッドライトは二五〇「ワット」の光力を有して居ります。

二 通 信

通信施設 通信に關する施設は明治三十九年七月、鐵道の經營統一以後着々其整備充實を計りましたが、其内通信線は明治四十一年十一月、釜山新義州間列車の直通を開始するに共い南大門（現京城驛）草梁間に直通電信回線を設け、後之を平壤、新義州線に延長し、爾後年を追うて各線に及ぼし、其間對滿洲線、省線と聯絡運輸に關する電報受授取扱手

續を設け又、支那各鐵道間にも國際聯絡鐵道電報取扱規程を設け、尙業務の進展又は新線の延長に適應して或は路線の變更増設、機械装置の改良、或は現字器を音響器に改め、或は單線を複線に改める等の施設を爲し、電話線は京仁線、永登浦、杻峴（現上仁川）間に之を使用したのが初めてあります、其後逐次整備し、現在では龍山交換臺の分は全部共電式を使用し其他釜山、大田、京城、平壤、新義州、元山、咸興、裡里、木浦の各主要地間に直通又は中繼に依り通話を爲し、又京城平壤、釜山の各事務所々在地では附近の數驛間を交換器に依り直接通話し得る設備とし、又大正十四年五月一日からは京釜線に於て司令電話（運輸事務所管内各驛に對し全部同時に又は或部分を指定して命令を傳へ得るもの）の使用を開始し、以て列車運轉の整理、及貨車運用等を迅速に處理せしめる等、通信の敏速正確を期する爲に各種の施設を爲して居るのであります。

次に列車運轉上の保安に關し必要な閉塞機は、統一當時には多く票券式を使用しましたが、三十九年五月京義線汶山西井（現長端）間、其他十九區間に高橋式双信閉塞器を設備し、四十一年四月京釜、京仁線の全部にタイヤー氏タブレット式單線用閉塞器を使用したのであります、爾後新線開業に際し一時一部分に於て票券式を使用した外、漸次タイヤー氏タブレット式單線用閉塞器に改良、今日では兼二浦線及博川線を除く單線區間の全部に之を使用し、京城、永登浦間及釜山釜山鎮間の復線區間には坪井式双信閉塞器を使用して居るのであります。

又乗客列車の發車を知らせる合圖として使用される驛鈴は、現今其全部を電鈴に改め、主要驛に之を設備して居りますが、以下各項に付其概要を述べます。

通信成績 明治三十九年統一當時の鐵道電報取扱箇所は總數六十九ヶ所、其内公衆電報を取扱ふもの四十ヶ所、其取扱數は鐵道電報七十四萬五千餘通、公衆電報八萬九千餘通、合計八十四萬四千餘通でありましたが、大正十四年度に於ては鐵道電報取扱驛二百ヶ所、其内公衆電報を取扱ふもの九十六ヶ所、鐵道電報四百八萬四千餘通、公衆電報三十七萬八

十餘通、合計四百六十六萬三千通に増加して居りますが、明治三十九年度以降に於ける、通信々號機及通信狀況の一覽、並大正十四年度に於ける現在狀況、施設成績左の如くであります。

通信々號機一覽表

種別	二重音響機		音響機		現字機		電話機		電鈴		タブル閉塞機		坪井式閉塞機		反應機		表示器		撰別器		聯動交換機	
	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數
明治三十九年	1	6	90	259	1	186	8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
明治四十二年	2	34	62	588	3	166	8	30	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
大正元年	4	58	60	877	4	237	8	14	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
同四年	4	87	58	998	6	273	8	22	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
同七年	4	95	53	999	8	291	8	27	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
同十年	4	98	53	1,189	11	331	10	37	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
同十三年	4	97	61	1,747	11	375	10	51	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
同十四年	4	97	60	1,703	11	375	10	51	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

通信狀況一覽表

種別	鐵道電報取扱所數		公衆電報取扱所數		同線數		電話同線數		回線數		鐵道電報通數		公衆電報通數		鐵道及公衆電報合計		公衆電報取扱料金		
	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數	取扱所數
明治三十九年	69	40	16	84	24	745,087	89,665	834,752	1,537,351	不明	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351
明治四十二年	103	56	21	133	24	1,155,730	499,027	2,754,757	1,537,351	不明	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351
大正元年	119	74	26	145	24	1,359,765	348,502	3,945,766	1,537,351	不明	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351
同四年	151	85	33	184	24	1,797,790	445,950	2,243,740	1,537,351	不明	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351
同七年	162	96	33	195	24	2,134,482	530,631	2,665,113	1,537,351	不明	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351
同十年	178	105	30	208	24	2,594,433	636,682	3,231,115	1,537,351	不明	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351
同十三年	198	97	31	229	24	3,396,871	833,267	4,230,138	1,537,351	不明	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351
同十四年	200	96	31	231	24	4,084,963	938,037	5,023,000	1,537,351	不明	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351	1,537,351

大正十四年度末現況

大正十四年度末に於ける電信取扱所、回線、通信及信號機械の現況。

電信取扱所 本年度末に於ける電信取扱所數は二百箇所、内公衆電報取扱所九十六ヶ所で、之を前年度に比べ前者は三ヶ所を増加し、後者は一ヶ所を減少して居ります、其種類別は電信機及電話機併置のもの九十六箇所、電話機のみに依るもの百四ヶ所であり、廢止された公衆電報取扱所は新義州荷扱所で、其事務は新義州郵便局に引継いだのであります。

通信回線 回線の現況は電線回線三十一、電話線八百九十四、信號回線三百六十八、合計一千二百九十三回線で前年度に比し電信回線は増減なく電話回線は五十七回線を減少し、信號回線は五回線を増加して居ります、電話回線の減少したのは水害に因り龍山局内電話回線を已むを得ず一時撤去したのに因るのであります。

通信及信號機械 年度末現在數は電信機百六十一座、電話機一千七百六十二座、電鈴二百五十五個、電話交換機二十二台、閉塞機三百八十五座、反應器五十二個、表示器一個、撰別器二個、聯動防護機二十九個、自動報時機四個、及電信監督機一台でありまして、前年度に比し電信機及反應器一個を減少し、電話機十五個、電鈴八個、電話交換機一、及電信監督機一台は孰れも増加致しました。

通信上の施設

電信回線 電信回線は陽化俗厚間(十五年度に於て新北青迄延長)新線營業開始に伴ひ、龍山陽化線及元山新浦線を孰れも俗厚驛に延長し、龍山俗厚線及元山俗厚線を構成し、又委任經營解除に伴ひ龍山奉天線、龍山安東線及平壤安東一、二番線で安東鐵道事務所裝置に係る電信機を安東驛に移設し、又龍山大田一番線の芙蓉電信機を撤去する等、必要に應じ接續驛所を變更致しました。

電話回線 新線營業開始に伴ひ前津陽化電話線ミ陽化俗厚電話線を以て前津俗厚電話一番線を構成し、又前津灰岑電話線を俗厚に延長して前津俗厚電話二番線ミし、次に咸興陽化交換電話一番線を延長して咸興俗厚交換電話線ミし同時に咸興陽化交換電話二番線は之を咸興陽化交換電話線ミ改稱致しました。

次に前年度計畫に係る京釜線司令電話は其準備全く整ひ、之が使用開始に當りまして在來の龍山大田交換電話三番線を龍山大田司令電話線に充當し、又大田大邱交換電話一番線ミ大邱釜山交換電話一番線ミを以て、大田釜山司令電話線を構成し、同時に龍山大田交換電話四番線を同三番線に、大田大邱交換電話二番線を大田大邱交換電話線に變更し、又大田釜山交換二番線を新設して在來の大田釜山交換線を同一番線ミ爲し、此の二回線を利用して電話二重法を施行し大田釜山交換電話三番線を構成致しました。

尙大邱釜山交換電話線の接續驛所中、清道驛を撤去して該線を中繼線専用ミ爲し、又新幕驛に十五人付復線用單式電話交換機を裝置し、同時に同驛構内電話一、二番線を廢止して該交換機に收容し、又清津海岸貨物取扱所設置に伴ひ、該所清津驛間に電話線を新設した外、清津會寧電話線の接續ヶ所を變更し之を清津交換機に收容して清津會寧電話線ミ爲し、裡里群山保線專用電話線ミ裡里芙蓉電話線を以て群山芙蓉電話線を構成し、尙工事用ミして會寧遊仙間に單線式電話線一回線を、又長徳川、水南間に複線式電話線一回線を新設し建設工事に充てました。

其の他京城驛移轉に伴ひ列車取扱の必要上、同構内に高聲電話機を設置して一般旅客の利便を圖つた外、必要に應じ回線の接續變更を爲したるもの亦尠くないのであります。

信號回線

簡易驛林谷一般營業を開始するこゝになりましたので在來の長城松汀里閉塞線を林谷で二分し、長城林谷及林谷松汀里の二回線ミし、又新線俗厚驛營業開始に伴ひ、陽化俗厚間に單線式閉塞線を新設した外、地境驛裝置の閉塞機を撤去して裡里群山閉塞線ミ爲し、本宮驛の簡易驛變更ミ共に同驛裝置の閉塞機を撤去して咸興西湖津間の一回線ミ爲し、又京城驛新築移轉に付設備擴張を要する爲同驛構内電鈴線中其の使用機械及裝置場所の變更を行つた外、電鈴線五回線の増設を爲し、其他釜山及林谷驛に反應線各一回線を新設し、清道構内電鈴線二回線及釜山棧橋圓板反應線は之を撤廢致しました。

通信成績

電報取扱通數 電報取扱通數は鐵道報四百八萬四千九百六十三通、公衆報三十七萬八千三十七通、合計四百四十六萬三千通で前年度に比し三分三厘を増加し、又一取扱所に於ける一日平均通數は鐵道報五六通、公衆報十一通で前年度に比し後者は増減なく前者は二通を増加しました。

尙取扱總通數の割合は發信四割、着信三割七分九厘、中繼二割二分一厘で、前年度に比し發信六厘を減少し、着信及中繼信に於て各三厘を孰れも増加したのであります。

公衆電報料金

本年度中に於ける公衆電報取扱料金總額は一萬六千七百八十圓八十一錢で一取扱所平均百七十四圓七錢一厘に當り前年度に比し、前者は六厘六毛を減少し、後者は三厘二毛を増加致しました。

回線の障礙

回線の障礙は全線を通じて、其の回数四百六十三回、障礙不通時間一萬一千七百七十八時間四分でありまして、平均一回不通時間二十五時間二十六分に當り、之を前年度に比するに回数に於て九分六厘を減少し、不通時間に

於て十六割八厘を、又一回平均時間に於て十八割八分五厘を孰れも増加致しましたのは、昨夏京城地方に於ける稀有の水害が主なる原因であります。

第七章 經 理

一 經 理 一 般

統一前に於ける京釜鐵道の經理方法は之を資本勘定、収益勘定に區別し、前者は建設費額並に財産を改良し又は財産の價格を増加すべき工事費で原價に超過する費額を支辨し、後者は普通營業に要する諸經費の外、災害復舊費及改良工事費中原價以内の金額を支辨したのでありますが、獨り京仁線の計算は全然之を區別し、其資本は政府貸下金百八十萬圓（漸次償還して買收當時百五十七萬五千圓なる）及び京釜線よりの融通金七十萬圓等でありました、而して京義馬山線は臨時軍事費支辨に屬し速成工事費、改良工事費、營業費の三費目に別ち、旅客貨物の便乗載によつて生じた収入は總て之を軍資金として受入れたのでありますが、京釜鐵道買收法の發布と同時に、韓國に於て帝國の經營する鐵道の會計に關する法律が發布せられ、帝國鐵道會計法及帝國鐵道用品資金會計法を準用するに至りました。

是より先、帝國の官設鐵道は何れも皆其の作業に關し特別會計を設け、營業上收支損益の計算を明瞭にし、又別に鐵道用品貯藏の爲一定の資金を支出し特別會計せしましたが、鐵道國有の方針決定するに共鐵道特別會計法を改正して、資本勘定及び収益勘定とし、資本勘定では鐵道創業以來の政府投資額を計上しましたので、必ずしも財産價格を一致するを要せず、災害復舊費、改良工事費等も全部資本勘定の支辨に屬せしめ、鐵道用品資金會計に在つては單に用品の購入、貯藏に止めず、本會計に於て各種の製作、修繕を經營することに致しました、是は鐵道買收實行法に於ける總資本が頗る巨額に上り、財政上重要な關係を有しますが故に、國有の結果を瞭然たらしむべき必要あるに依るものであります。而して朝鮮の鐵道も亦之に同一の方法に依つて經理するを便宜とし、此の法律を準用して京釜鐵道の買收と同時に之を

施行し、當時資本勘定で支辨すべき京釜及京義線の残工事費は、鐵道特別會計法により各第二十三議會の協賛を經、次で平南線、湖南線及京元線の建設費は第二十四及第二十六議會の協賛を經たのであります。

次に四十三年朝鮮總督府設置と同時に、朝鮮財政の統一を圖る必要から鐵道特別會計を廢し、之を朝鮮總督府特別會計中に包含する事となり、従來の資本勘定に屬した歳出は之を臨時部に、収益勘定に屬した歳入歳出は經常部に編入せられました。鐵道用品資金特別會計法は其儘存続し、一般會計からの投資額を九千五百五十七萬圓(百位四捨五入以下同じ)とし、内現金二十萬七千圓は、四十四年度朝鮮總督府會計の歳入に繰入れ、併合後地方産業の開発上京元、湖南兩線の建設は、總督始政第一年に於て従來十一年繼續事業であつたのを六箇年に短縮し其の速成を期したのであります。

滿鐵委託經營當時の經理は、建設改良費は國庫負擔の資本勘定として處理せられ、營業收支に關しては全然滿鐵會社に委任しましたが、別に總督府投資額に對し百分の六(後に百分の四に改訂)の納付金を毎年總督府特別會計に納付し、且つ年々四十萬圓以上(後に十萬圓)の補充工事を會社が施行し、用品資金七十萬圓は其儘之を繼承したのであります。十四年度から直接經營に當ることとなつたので、經理に關する事項は總て従前の如く總督府特別會計に屬し、其勘定科目は臨時部及經常部に分たれ、臨時部に於ては建設改良及び災害費、經常部に於ては營業收支に關する鐵道收入及鐵道作業費以下各項目を設ける事となり、用品資金は滿鐵から引續た七十二萬餘圓に十四年以降新に百萬圓を加へ、百七十二萬二千餘圓として其收支を行ふこととなつたのであります。

今明治三十九年以降の建設、改良費の豫算額、及建設、改良、災害費決算額並に投資額に關する概要を述べます。

建設 及 改良 費

明治四十三年十月、總督府設置以後財政の許す限り線路の延長に努め、平南線、湖南線、京元線、咸鏡線、鎮海線、平壤炭礦線、及平元線の敷設工事を起すと共に、既設線の改良工事を併せ行ひ、其の他累年車輛を増備しましたが、之れが

建設改良費は明治三十九年、第二十三議會以來逐次豫算の協賛を得、昭和元年度に於ては新に十二箇年に至る新規計畫の協賛を得、之が支出は明治四十三年度に於ける六百萬圓より始め、爾後毎年遞増して大正八年及九年度に於ては各年一千五百萬圓、同十年度及十一年度に於ては二千萬圓、同十二年度に於ては一千五百萬圓、大正十三年度に於ては一千五百萬圓の豫定を兩政整理の結果一千萬圓に止め、十四年度亦一千萬圓を支出し、十五年度一千五百萬圓を支出したのであります。

建設改良費の豫算額、建設改良及災害費の決算額、並累年投資額左の如し。

東京電報局

年次	月次	日次	種別	金額	備考
昭和十三年	一月	一	電報料	1,000.00	
昭和十三年	二月	一	電報料	1,000.00	
昭和十三年	三月	一	電報料	1,000.00	
昭和十三年	四月	一	電報料	1,000.00	
昭和十三年	五月	一	電報料	1,000.00	
昭和十三年	六月	一	電報料	1,000.00	
昭和十三年	七月	一	電報料	1,000.00	
昭和十三年	八月	一	電報料	1,000.00	
昭和十三年	九月	一	電報料	1,000.00	
昭和十三年	十月	一	電報料	1,000.00	
昭和十三年	十一月	一	電報料	1,000.00	
昭和十三年	十二月	一	電報料	1,000.00	
昭和十三年	合計			12,000.00	

昭和十三年一月一日から十二月三十一日までの電報料の明細を記載する。金額はすべて円角以下を切り上げる。備考欄には、電報料の用途や支払方法などを記載する。

年次	月次	日次	種別	金額	備考
昭和十三年	一月	一	電報料	1,000.00	
昭和十三年	二月	一	電報料	1,000.00	
昭和十三年	三月	一	電報料	1,000.00	
昭和十三年	四月	一	電報料	1,000.00	
昭和十三年	五月	一	電報料	1,000.00	
昭和十三年	六月	一	電報料	1,000.00	
昭和十三年	七月	一	電報料	1,000.00	
昭和十三年	八月	一	電報料	1,000.00	
昭和十三年	九月	一	電報料	1,000.00	
昭和十三年	十月	一	電報料	1,000.00	
昭和十三年	十一月	一	電報料	1,000.00	
昭和十三年	十二月	一	電報料	1,000.00	
昭和十三年	合計			12,000.00	

昭和十三年一月一日から十二月三十一日までの電報料の明細を記載する。金額はすべて円角以下を切り上げる。備考欄には、電報料の用途や支払方法などを記載する。

二 營業 收入

營業收支は明治三十九年經營の統一以來時に消長がりましたが、營業哩の伸長、民度の向上、産業の振興等相俟つて、年を閱して漸次良好に趣きつゝあります。左に其の概要を述べます。

□明治三十九年度（七月一日以降四十年三月末に至る間）は歳入百七十六萬九千圓（百圓以下省略以下同じ）歳出百五十五萬五千圓差、引益金二十一萬四千圓に達し、收入に對する支出の割合は八割七分九厘に當り。

□明治四十年度に於ける歳入は三百五十二萬二千圓（内用品資金繰入額一萬七千圓を含む）歳出は三百五十九萬九千圓で差引缺損七萬六千圓を生じましたが、本年度豫算編成の當初は、各種設備の擴張充實を圖る必要があつた關係上、四十八萬業五千圓の缺損を見込み、年度中暴徒の騷擾等があつたに係はらず、運輸收入二十三萬八千圓の豫算超過を示し、作費決算額の減少に相俟つて當初豫算に比し缺損四十萬八千圓を減じ得たのであります。

□明治四十一年度に於ける歳入は四百五十萬四千圓（内用品資金繰入額三萬圓を含む）歳出は四百六十八萬五千圓で、前年度同様四十三萬三千圓の缺損を見込みましたが、作業費は豫算に比し五十九萬一千圓を減少せしめた結果、差引損金十八萬一千圓となり。

□明治四十二年度に於ける歳入は四百二十四萬四千圓（内用品資金繰入額四百八十七圓を含む）歳出四百二十萬四千圓であり、差引益金は豫定額に對し二十七萬六千圓を減少した三萬九千圓であります。本年度は日露戰後の好景氣に對する反動氣配濃厚で、運輸收入豫定額に對し甚しく不足したのが其主なる原因であります。

□明治四十三年度に於ける歳入は五百十四萬二千圓（内用品資金繰入額三百十八圓を含む）歳出四百八十萬四千圓、差引益金三十三萬八千圓を算しましたが、本年度は日韓併合に對する大詔煥發、農作物の農穰、地方警備の充實等相俟つて運

輸收入漸次良好に向ひ、次に

□明治四十四年度に於ける歳入は五百七十五萬八千圓、歳出五百十二萬四千圓で、差引益金六十三萬三千圓を擧げ益金豫定額に對し一萬一千圓の増加となりましたが、其主なる原因は、湖南線及京元線の一部、並平壤炭礦線に於て營業を開始し、旅客貨物の輸送漸次活況を呈したのに依り、

□大正元年度は歳入六百八十一萬七千圓、歳出五百九十六萬四千圓、差引益金八十五萬二千圓で前年に引續き新線の延長があり、且つ旅客資金の改正は近距離來往者の利便を増大する事となり、随つて旅客輸送は嘗て見ざる程の盛況を呈し、且つ貨物運送亦順調の増加を來し、一方支出に在つては豫算額に對し二十五萬七千圓を減少せしめた等の原因に依るのであります。

□大正二年度は前年度に引續き旅客輸送活況を呈したの、湖南線の全通（三年一月）等に依り歳入七百八十五萬二千圓に達し、之を前年度に比し百三萬四千圓の増加となり、歳出は六百二十八萬三千圓、差引益金百五十六萬八千圓で前年度に比し七十一萬五千圓を増加し。

□大正三年度は 昭憲皇太皇后の御諒闇に依り、遊覽旅客の減少したの、經濟界不振、歐洲戰亂の爲運輸交通に及ぼした影響甚大なりし等の關係に依り、豫期の成績を擧ぐる事を得ず、收入七百七十三萬四千圓、支出六百五十萬一千圓、差引益金百二十三萬圓となり、之を前年度に比し收入十一萬七千圓の減少、支出二十一萬七千圓の増加となり、益金は三十三萬五千圓の減少となりました。

□大正四年度は經濟界稍回復に向つたの、始政五年記念朝鮮物産博覽會の開催、及船舶の不足に依る海上運賃の昂騰等の關係から、輸送相當の成績を呈し、收入八百九十三萬四千圓、支出七百十五萬五千圓、差引百七十七萬八千圓の益金を擧げ、之を前年度に比べます、收入百二十萬圓支出六十五萬三千圓、益金亦五十四萬六千圓を増加し。

□大正五年度は歐洲戰爭の影響に依る財界の好況は延いて運輸收入に未曾有の好成绩を來し、一方各線に至る水害復舊工事に多額の費用を要したに係らず収入一千五十八萬六千圓、支出七百九十五萬圓、差引益金二百六十四萬圓となり益金の豫定額を超過する事五十三萬六千圓、之を前年度に比べ収入百六十萬二千圓、支出七十九萬四千圓、益金八十五萬七千圓を増加したのであります。

□大正六年度 本年度は四月から七月迄を總督府、八月以後は滿鐵の委託となりましたが之を通算して、収入一千六百十六萬八千圓、支出一千三十七萬四千圓、差引益金五百七十九萬三千圓を得、其内三百六萬五千圓を總督府納付金として納付し、引續き貨客の輻輳を見、水害は比較的輕微であつた等の關係に依り、之を前年度に比べ収入五百五十八萬一千圓、支出二百四十二萬四千圓、益金三百十五萬七千圓の増加を示したのであります。

□大正七年度 時局の影響を受け、急激の發達を遂げた鐵道運輸は本年度に入り益々股盛を極め、一面鮮内事業の勃興に相俟つて客貨の輸送を増大し、創業以來未曾有の盛況を呈するに至り、一方水害應急費支出、及従事員に對する給與の改正等を行ひましたに關らず、豫定の益金三百四十五萬圓に對し二十七萬圓の増收に當り、収入一千七百九十七萬七千圓、支出一千四百二十五萬七千圓となり、總督府納付金三百四十三萬三千圓を差引き益金二十八萬七千圓を擧げ、納付金との合計額は三百七十二萬圓に達したのであります。

□大正八年度 輸送狀況は依然として股盛でありましたが、一方では物價及勞銀の昂騰により諸般の支出に大膨脹を來し、收支の均衡を失すべく豫想され豫算編成の當所は損金二百七十六萬四千圓を計上し、其後旅客貨物運賃の引上を行ひましたが、生活必需品其他に對する割引率の適用等に依り、其效果著しからず、結局収入二千三百九十六萬六千圓、支出二十七十二萬五千圓、益金三百二十四萬一千圓となり、總督府納付金の四百一萬七千圓を差引七十七萬七千圓の缺損を生じ、

□大正九年度は各種の狀況に依り當初豫算編成に際しては三百三十二萬三千圓の缺損を見込、六月一日更に貨物賃率の改

正を斷行して多少の増收を企てましたが、偶々經濟界激變の影響を受け収入は著しく減少し、其上七八月の水害及惡疫等の災厄に會ひ、一段の不況を極め、營業上實に未曾有の難局に際會したのであります。依つて収入豫算に大減少を豫定するに同時に、經費に大制限を加へ列車運轉の整理、石炭使用上の研究、物品節約、工事の繰延、従事員の整理等極力經費の緊縮に努めた結果、収入二千七百七十七萬四千圓、支出二千三百三十二萬九千圓、差引益金三百八十四萬五千圓となり、總督府納付金四百九十二萬一千圓を差引き、百七萬六千圓の缺損に止める事が出來ましたが、之を前年度に比べるに六十萬圓の増收となり、収入に對する支出の割合は八割五分八厘で前年度より七厘を減じて居るのであります。

□大正十年度 本年度も亦九十二萬二千圓の缺損を豫定したのであります。前年來の不況に鑑み、極力支出の緊縮を圖るに同時に材料諸品の調達使用にも意を注ぎ、輸送の必要上餘儀なく施設を要するもの等に就き多少の經費は増加しましたが、幸にして通有の水害も極めて輕微に止り、更に期末に至つて客貨の輸送好況を呈した等の關係から意外の好成绩を擧げ、収入二千八百十萬九千圓、支出二千六百六十二萬九千圓、差引益金六百四十八萬圓となり、總督府納金の六百十七萬六千圓を除き尙ほ六十萬六千圓の超過益金を擧げ得たのであります。

□大正十一年度 本年度は七、八月の水害に次で物價調節の關係上生活必需品の運賃割引、又は沿線市日に於ける近距離運賃の割引等社會施設に對し相當の犠牲を拂ひ、一方經營費に對しては上半期輸送繁忙に伴ひ増費三十餘萬圓、水害應急費、其他従事員整理の爲退職慰勞金の支出等、數十萬の増額を要しましたが、豫備金を之に當て一方營業上の緊縮を圖つた結果、収入三千六十八萬六千圓、支出二千三百八十六萬三千圓、益金六百八十二萬二千圓となり、總督府納付金の六百六十萬三千圓を除き二十一萬八千圓の餘剰を示して居ります。

□大正十二年度 本年度亦七八月に至り京釜京義兩幹線に水害を受け、又九月一日關東地方に未曾有の大震災が勃發しましたのこ、十月一日から實施の貨物賃引下等に依り相當の減收を豫想されましたが、其後震災復舊材料の輸送滿洲粟の輸

入等に依り、意外の増収を見、且つ一般經費の節約に努めた結果、收入三千三百七萬五千圓、支出二千五百四十八萬四千圓、益金七百五十九萬圓で總督府納金の七百四十八萬圓を除き差引十一萬二千圓の餘剰を見たのであります。

□大正十三年度 前年來引續く財界の不況に、水害及旱魃が相次で起り、各般の施設に對し出來得る限り緊縮を圖り極力經費の節約に努めましたが、偶々朝鮮鐵道委任經營は本年度限り解除されることとなり、従つて從來翌年度所屬して支出して居た従事員に對する十三年度下半年賞與金、及三月下半月分日給者給料等を會社が負擔する事となつたので、總督府納付金を含む益金八百十萬圓の豫算に對し百三十七萬の減收となり、收入三千百四十三萬四千圓、支出二千四百七十萬九千圓、差引六百七十二萬五千圓となり、總督府納付金八百九萬圓に對する不足額百三十六萬四千圓は滿鐵の缺損となつたのであります。

十 四 年 度

本年度歳入歳出豫定額は歳入五千九十三萬五千圓、歳出四千二百十六萬六千圓、差引歳入超過額(益金)八百七十六萬九千圓を豫定しましたが、引續く一般經濟界不況の影響により、其後歳入減少の見込限度に於て歳出を緊縮する方針の下に實行豫算を編成し、歳入歳出各二百九十四萬二千圓を減額し、營業上支障を來さない程度に努めて經費の節約を圖り、保存補充工事の如きは眞に緊急止むを得ないものに止め、豫定の益金を減少しないことに努力致しましたが、七八月の降雨は朝鮮未曾有の大氾濫を來し、本局所在地の龍山を初め殆んど各線に亘り大被害を受け、之が應急並復舊費の支出は臨時支出に掛る災害費の外、經常費中より六十九萬二千圓を差繰支辨するの止むなきに至つたので、一層各種經費の節約を實行し、且つ收入増加に關する各種の方法を講じた結果、其決算額は歳入四千七百三十萬二千圓、歳出三千九百七萬九千圓、差引益金八百二十二萬二千圓(假收支差益五萬九千圓を含む)となり、豫定の益金に比し五十四萬四千圓を減少しましたが、益金總額に於ては前年度に比し百五十萬圓(十三年度總督府納付金八百九萬餘圓より滿鐵損失額百三十六萬餘圓を差

引いた額を前年度の益金(す)の増加となり之が收支計算は左の通りであります。

歳 入

科 目	豫 定 額	調 定 額	收 入 濟 額	收 入 未 濟 額	豫 定 額 比 比 收 入 濟 額 の 増 減 (△)
鐵道收入	五〇,九三四,八五六〇	四七,三四一,三四八〇	四七,三〇一,二七九六	四〇,〇六八,三三	△ 三,六三三,五七六
運輸收入	三五,〇六〇,〇六七〇	三〇,八七〇,四二二・三六	三〇,八四四,七三六・六二	二五,六八四,七四	△ 三,二二五,三三〇・三八
旅客收入	一七,〇六八,四五四〇	一五,三三八,八九二・三〇	一五,三三四,五九〇・一八	四,三〇一,二二	△ 一,七四三,八六三・八一
貨物收入	一六,九九一,六一三〇〇	一五,五四一,五二九〇六	一五,五〇〇,一四六・四四	二,三三二,六二	△ 一,四七一,四六六・五六
雜收	一,七八一,七八九〇〇	一,四六八,〇六七・五九	一,四五三,六八三・七〇	一,四三三,三五九	△ 三,八一〇,五三〇
假收入及立替金受	一五,〇九三,〇〇〇〇〇	一五,〇〇二,八九三・六	一五,〇〇二,八九三・六	—	△ 九〇,一四〇・六四
連帶運輸收入	六,五三七,〇〇〇〇〇	五,三三二,五八一・八六	五,三三二,五八一・八六	—	△ 一,二〇四,四一八・四
荷物引換	六,三五六,〇〇〇〇〇	六,二二二,五九一・八二	六,二二二,五九一・八二	—	△ 一四二,四〇八・八
代金受入	一一,一〇〇,〇〇〇〇〇	三,四五六,六八五・六八	三,四五六,六八五・六八	—	△ 一,二五六,六八五・六八
立替金受入	—	八五七・七九	八五七・七九	—	△ 八五七・七九
朝鮮鐵道用品資	—	—	—	—	—
金過剩金受入	—	—	—	—	—
合 計	五〇,九三四,八五六〇	四七,三四一,三四八〇	四七,三〇一,二七九六	四〇,〇六八,三三	△ 三,六三三,五七六

歳 出

科 目	豫 定 額	流用増減(△)額	豫 定 現 額	支 出 濟 額	不 用 額
鐵道作業費	四二,一六五,六〇〇〇	—	四二,一六五,六〇〇〇	三九,〇七五,四五七・一五	三,〇九〇,一六二・八五
俸 給	一一,九二〇,〇〇〇	—	一一,九二〇,〇〇〇	〇,一八九三,九〇二・二	二,九八八,〇三九・八
勅任俸給	三,三三〇,〇〇〇	—	三,三三〇,〇〇〇	一,七三四,〇〇八	一,三,五五九・一
奏任俸給	二五,一八四,六〇〇	△ 一四,一〇九,〇〇〇	一三,七七七,七〇〇	一四,八八八,八八一	八八八,四七二・九

列任俸給	1,908,800.00	1,908,800.00	1,713,069.23	1,957,307.87
休職俸給	14,109.00	24,109.00	14,109.00	1
事業費	2,467,324.00	2,467,324.00	2,203,878.63	2,568,578.7
總係費	988,674.00	988,674.00	760,754.80	2,271,911.00
保存費	6,292,777.00	6,292,777.00	5,721,541.85	5,167,351.5
車輛修繕費	3,208,541.00	3,208,541.00	2,694,801.09	4,305,214.1
汽車費	7,343,790.00	7,343,790.00	6,241,981.74	8,201,190.6
運輸費	4,046,458.00	4,046,458.00	4,301,883.50	1
旅館費	833,179.00	833,179.00	779,480.54	5,369,846
特別給與金	1,900,000.00	1,900,000.00	974,381.00	2,561,900
接待費	10,000.00	10,000.00	8,768.08	1,131.92
補充費	600,000.00	600,000.00	366,575.48	2,334,245.2
共濟組合給與金	266,806.00	266,806.00	179,618.05	69,187.95
諸拂戻立替金及	1,536,300.00	1,536,300.00	1,514,276.00	2,235,310.00
諸損補填金	6,537,000.00	6,537,000.00	5,332,581.86	1
連帶運輸收入	270,000.00	270,000.00	198,786.73	71,213.27
過誤納拂戻及制	6,356,000.00	6,356,000.00	6,228,088.57	149,911.43
荷物引換代金	2,100,000.00	2,100,000.00	3,482,858.46	1
立替金	3,300,000.00	3,300,000.00	473,338	2,826,662
缺損補填金	3,300,000.00	3,300,000.00	4,011.00	2,987.00
諸支出金	3,300,000.00	3,300,000.00	4,011.00	2,987.00
死亡賜金	2,267,000.00	2,267,000.00	2,266,666	0.34

官吏療治料	11,043.00	11,043.00	1,744.64	2,983.6
合計	42,199,930.00	42,199,930.00	39,079,468.45	3,097,461.55

損益計算

損	金額	損失	利益	金額
---	----	----	----	----

鐵道作業費	39,079,468.45	鐵道收入	47,301,279.68
諸支出金	4,011,300	朝鮮鐵道用品	47,301,279.68
小計	39,079,468.45	資金過剩金繰入	85,779.00
差引益金	8,322,669.01	合計	47,301,279.68
合計	47,301,279.68		

十 五 年 度

當年度營業收支頭初の豫算は歳入五千百十六萬七千圓、支出四千百八十一萬四千圓、差引九百三十五萬四千圓の益金を豫定しましたが、産米増殖計畫に依る事業其他各種事業の興隆に伴ひ、之等建築材料の輸送及産米の移出に伴ふ粟、肥料等の荷動相當多く、七月南鮮に於ける水害の爲豫定外の復舊費を支出せるに拘はらず良好な成績を示し、昭和二年五月上旬の概算に依れば、収入は豫算を超過する事約四十萬圓の豫定でありますから、豫定の益金九百三十五萬三千圓は裕に之を擧げ尙幾分の超過を示すべき計算であります。

三 私設鐵道補助

元線寒灘江橋梁の破壊、龍山官舎其他諸建物の被害、並京城工場發電機の破壊、貯藏物品の流失、毀損等其の被害甚大であり此の復舊及應急費に多額の經費を要しましたが、内六十九萬二千圓（工事費）は經常費中保存費及補充費から差繰支辨し其他五十三萬七千圓を第二豫備金から、八十六萬三千圓を追加豫算に計上し、計百四十萬圓は豫算外に仰ぎ、尙水害に鑑み、復舊と同時に改良を要する漢江橋梁其他に對しては經費三百八十九萬餘圓を元年度以降三箇年間の繼續費とし、要求し昭和元年度百萬圓、二年度二百萬圓を支出し、殘額八十九萬餘圓は三年度に支出する豫定であります。

三、鐵道投資額

本年度投資額決定は鐵道建設及改良の爲め支出した金額九百九十萬七千圓、災害費百四萬九千圓補充工事費三十六萬六千圓、鐵道用品資金繰入百萬圓でありますから、合計一千二百三十二萬二千圓を増加しましたが、鐵道建設及改良費所屬物品、及土地賣却代として歳入に編入した爲減少した金額は三十萬四千圓を算し、差引一千二百一萬八千圓を増加し、十四年度末投資總額は二億七千六百六十七萬三千圓となりました。

四、鐵道用品資金

本會計に屬する資金は曩に大正六年滿鐵に經營を委託した際、本府より同社に引繼だ元朝鮮鐵道用品資金七十二萬二千圓に相當する用品の貯藏材料及、大正十四年度總督府特別會計から繰入れた百萬圓の合計百七十二萬二千圓でありまして鐵道用品費豫算額一千七百五十一萬八千圓の運轉資本としては頗る少額であり、此の點が本年度鐵道經理上最も困難を感じた所ではありますが、殊に本年度は朝鮮國有鐵道經營委託解除契約に基き、引繼當時在庫の貯藏品總額四百二十三萬圓中七十二萬二千圓を控除した殘額、三百五十萬八千圓は直に滿鐵に支拂はなければならぬので、年度初に忽ち支拂元金の不足を告ぐるに至り、爲に建設費其他から二百八十六萬圓の前金拂を受け之により漸く前記の支拂を完了し、資金回収の爲極力在庫品の消化に努めましたが、建設改良費は既定年割額一千萬圓に對し、滿鐵が其の經營中に立替支辨した工事

費額を控除すれば三百萬圓に過ぎず、到底豫期の物品消化困難でありますから、成るべく在庫品を充當代用配給するに共に一方新規物品購入を極力手控へた結果、貯藏品殘高は九月末漸く二百二十五萬圓に減少せしむる事を得、更に進んで年度末には百七十萬六千圓に激減せしむることを得たのであります。

以上の如き苦境裡にあり猶常に國內産業振興を念じし萬難を排して石炭を始め主要物品の供給を鮮内に仰ぐことに努力し、就中石炭は其の配給及使用上の改良工夫に依り大正十三年度は鮮内産購入總額の三割八分に過ぎなかつたものを、十四年度は實に四割八分に増加せしむるを得たのは豫想外の成績を示したものと云ふべきであります。

而して本年度決算額は歳入九百九十九萬八千圓及收入未済額十二萬七千圓、合計一千十二萬五千圓、歳出一千八十二萬四千圓、同未済額六萬三千圓、合計一千八十七萬七千圓となり、差引歳入七百三十九萬四千圓、歳出六百六十四萬一千圓の減少となり、歳入合計額と歳出の合計額とを對比すれば、歳出の歳入に超過すること七十五萬二千圓であります。翌年度に繰越した物品の價格二百二十九萬八千圓、新に用品資金に繰入れた七十二萬二千圓及前受金の未精算額八十二萬三千圓を控除した額は七十五萬三千圓となりますから、差引八百五十七圓餘の剩餘を生じ、此の剩餘金は朝鮮總督府特別會計に納付し、本會計の決算を完了したのであります。

五、物品購入

十四年度に於て購入した主要物品の數量及金額は別表の通りであります。總額五百八十一萬二千圓を前年度に比べますと六十八萬五千圓を減少し、其内譯は一口千圓以上の隨意契約に依るもの四百九十六萬二千圓、同競争契約に依るもの五千圓、一千圓未満隨意注文をしたもの八十四萬六千圓であります。

尙千圓未満の小口隨意注文額は從來購入總額の五分乃至九分であつたのが一躍二割五分に激増したのは、十四年七月中大洪水罹災當時、復舊應急材料調達に當り普通の契約手續に依るを得ず、分割小口注文したのに依るのであります。

十四年度購入物品内譯 (産地別ト主トス)

種別	朝鮮産		内地産		滿洲産		外國産		計	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額
石炭ノ部										
塊及切込炭	110,733.00 <small>噸</small>	9,310,104.86 <small>円</small>	2,522.00 <small>噸</small>	3,766,000.00 <small>円</small>	128,700.00 <small>噸</small>	1,313,322.00 <small>円</small>	1	2,000.00 <small>噸</small>	130,755.00 <small>噸</small>	13,392,132.86 <small>円</small>
骸炭	27,556	8,576,500	1,295.6	3,556,000	1	4,533,500	153.3	4,533,500	29,146	17,496,500
煉炭	22,251.00	15,348,500	1	1	1	1	1	1	22,252.00	15,349,500
(石炭計)	159,539.00	38,245,104.86	3,818.6	7,325,500	130,000.00	5,853,000	155.3	5,853,000	163,513.90	51,476,604.86
枕木ノ部										
並枕木	67,695 <small>挺</small>	12,559,995 <small>円</small>	7,000 <small>挺</small>	1,355,000 <small>円</small>	1	1	1	1	74,696	13,914,995 <small>円</small>
轉轆器用枕木	1,000	7,355,700	1	1	1	1	1	1	1,001	7,356,700
橋上用枕木	300	1,308,800	1	1	1	1	1	301	1,309,800	
(枕木計)	70,995	21,164,495	8,001	1,356,000	2	2	2	8,003	22,522,495	
セメント	13,000 <small>噸</small>	671,000.00	17,000 <small>噸</small>	9,860,000.00	1	1	1	1	30,001	10,631,000.00
地金	20,000 <small>噸</small>	1,344,000.00	2,273 <small>噸</small>	3,777,777.77	1 <small>噸</small>	1,966,666.66	1	2,551,818.18	25,047	8,729,652.44
木材	69 <small>噸</small>	5,522,400	1 <small>噸</small>	3,949,777.77	1 <small>噸</small>	98,300.00	9 <small>噸</small>	2,551,818.18	79	14,072,305.92
油	69 <small>噸</small>	1,899,350	279,999 <small>升</small>	9,333,350	1 <small>升</small>	46,399.66	1 <small>升</small>	392,399.99	280,777	14,678,050
電気用品	3 <small>點</small>	189,935	1 <small>點</small>	6,641.66	1 <small>點</small>	5,280.00	2 <small>點</small>	5,280.00	6	201,136.66
絲屑	1,623 <small>點</small>	322,115.54	19,077 <small>點</small>	1,440,566.65	2 <small>點</small>	1,298,644.00	8 <small>點</small>	1,451,657.5	20,730	6,462,923.69
雜品	1	1,714,771.11	1	2,546,820.00	1	1,717,852.00	1	3,564,672.00	3	5,839,043.11
合計										
	159,539.00	38,245,104.86	3,818.6	7,325,500	130,000.00	5,853,000	155.3	5,853,000	163,513.90	51,476,604.86

而して本所に本科、工作科、電信科、及講習科を置き、本科は高等小學校卒業を入学資格とする三箇年課程でありまして、之を分つて業務科、運轉科及土木科とし、業務科は主として鐵道の運輸營業の業務に關する事項、運轉科は主として機關車の運轉に關する事項、土木科は主として鐵道線路の建設及保存の技術に關する事項を授け、其卒業者は文官任用令第六條、徵兵令第十三條に據る資格、並に専門學校入學者檢定規程に於ける無試験檢定の特典を有して居ります。

次に工作科は尋常小學校を入学資格とする四箇年課程で、工場の技術に關する事項を授け、電信科は高等小學校卒業を入学資格とする七箇月課程であり、電氣通信を中心として鐵道業務に關する智識技能を受け、講習科には驛務、旅客專務、車掌、機關、檢車、保線、經理、機械の八種があり、年數回從事員を入学せしめ、一箇月乃至四箇月で業務上必要な事項を習得せしめます、尙講習科には此外夜學部を設け、普通科は高等小學校卒業を入学資格とする三箇年課程で局員及局外の希望者を收容し、中學程度の補習教育を爲し、別に中學卒業程度の専修科を設け特殊の講習を爲しつゝあります。

次に十四年度各科に屬する入退、在學及卒業者の數は別表の如くであります、本科に屬する土木科は當局業務の都合に依り十三年度以降生徒の募集を行はなかつた結果、本年度に於ては卒業者のみ三十三名を出し、講習科に於ては驛務講習科を五月(期間六箇月)及十二月(期間五箇月)の二回に實施し、運轉、旅客、貨物、營業法、車輛、統計、鮮語、通信、保線、會計、倉庫に關する學課を授け、同機關講習科に在りては七月から(期間三箇月)之を開始し、機械、機關車制動機、電信、保安、並及裝置、熱學及石炭、製圖、規程等の學課を授け、夜學部に在つては普通科の外英語専修科を設けたのであります。

今十四年度に於ける生徒入退學者及志願者數を示せば左の通りであります。

歷 年 幹 部 表

科 別	前年度末	入 學	退 學	卒 業	年度末現在	應 募 人 員		應募人員百 人=付入學 者比
						内地人	鮮 人	
業務科	九六	五〇	三	四五	九八			
運轉科	五九	三〇	一	二八	五六			
土木科	三四	一	一	三三	一			
電信科	二七	五一	一〇	三五	一三三			
工作科	一	五八	一	二六	三一			
講習科	一	三七	一	二一	一六			
驛務科	一	三二	一	三二	一			
機關科	一	四〇	一	一三	一三一			
夜學科	一	五八	一	二二	一			
合 計	三八九	三五六	一三六	三三五	三八四			
局員	四〇	四〇	五二	一三	一九			
局外員	三三	三二	五	二二	一			
本 科	五〇	二八四	三七五	六五八	八%			
運 轉	三〇	七四	五七	一三一	二三			
工 作	五〇	一八二	一〇一九	二、二〇一	四			

次に三十九年度以降に於ける朝鮮鐵道の經營に従事した幹部の氏名は左の通りであります。

職名	明治十五年	明治十六年	明治十七年	明治十八年	明治十九年	明治二十年	明治二十一年	明治二十二年	明治二十三年	明治二十四年	明治二十五年	大正	大正六年	大正十一年
長官	大屋權平	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	大屋權平	同	久保井要藏
總務課長	兒玉秀雄	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	鷲尾弘準
營業課長	三本武重	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	三本武重	安藤又三郎	安藤又三郎
工務課長	岡村初之助	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	川江秀雄
建設課長	小城齊	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	加藤正美
汽車課長	橫井實郎	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	黑澤明九郎
經理課長	加藤正美	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

職名	明治廿九年	明治四十年	明治四十一年	明治四十二年	明治四十三年	明治四十四年
長官	古市公威	同	同	同	同	大屋權平
工務部長	大屋權平	同	同	同	同	瀧脇熊太郎
總務部長	大屋權平	同	同	同	同	三本武重
運輸部長	岡正矣	同	同	同	同	橫井實郎
臨時鐵道建設部長	石川石代	同	同	同	同	同
長官	大屋權平	同	同	同	同	同
庶務課長	同	同	同	同	同	同
運輸課長	同	同	同	同	同	同
工務課長	同	同	同	同	同	同
建設課長	同	同	同	同	同	同
工作課長	同	同	同	同	同	同
計理課長	同	同	同	同	同	同
長官	大屋權平	同	同	同	同	同
庶務課長	同	同	同	同	同	同
營業課長	同	同	同	同	同	同
運輸課長	同	同	同	同	同	同
工務課長	同	同	同	同	同	同
建設課長	同	同	同	同	同	同
工作課長	同	同	同	同	同	同
計理課長	同	同	同	同	同	同
長官	大屋權平	同	同	同	同	同
庶務課長	同	同	同	同	同	同
營業課長	同	同	同	同	同	同
運輸課長	同	同	同	同	同	同
工務課長	同	同	同	同	同	同
建設課長	同	同	同	同	同	同
工作課長	同	同	同	同	同	同
計理課長	同	同	同	同	同	同
長官	大屋權平	同	同	同	同	同
庶務課長	同	同	同	同	同	同
營業課長	同	同	同	同	同	同
運輸課長	同	同	同	同	同	同
工務課長	同	同	同	同	同	同
建設課長	同	同	同	同	同	同
工作課長	同	同	同	同	同	同
計理課長	同	同	同	同	同	同

職名	局 長								
	局 長	理事	庶務課長	監督課長	營業課長	運輸課長	機械課長	工務課長	經理課長
大正十四年度	大下(兼) 村 卓一	戸 田 直 温	石 崎 頼 久	澤 崎 修	戸(兼) 田 直 温	戸(兼) 田 直 温	岩 崎 眞 雄	新 田 留 次 郎	林 茂 樹
大正十五年度	大 村 卓 一	同	同	同	戸(兼) 田 直 温	同	同	同	同
昭和元年度	同	同	同	同	同	同	同	同	同
昭和二年現在	同	同	同	同	同	同	同	同	同

考備 同一欄内に併記せる人其は年内に迭交は又臨時兼務せるを示す

職名	局 長						
	局 長	庶務課長	運輸課長	工務課長	經理課長	工場長	秘書室主任
大正七年度	久保要藏	鷺尾弘準	安藤又三郎	川江秀雄	加藤正美	黒澤明九郎	若曾根當五
大正八年度	同	(秘書室) 同	同	同	大内	同	同
大正九年度	同	同	同	同	同	同	同
大正十年度	同	同	同	同	同	同	同
大正十一年度	久保要藏	川江秀雄	大(兼)内 要	佐藤三郎	石川眞三	黒澤明九郎	中野 深
大正十二年度	安藤又三郎	黒澤明九郎	大(兼)内 要	岩崎廣太郎	大(兼)内 重平	中野 深	中野 深
大正十三年度	安藤又三郎	石崎頼久	同	岩崎廣太郎	中野 深	同	(十二年六月工務課トナル)

朝鮮總督官房鐵道部 (大正七年度鐵道局、八年度以降鐵道部となる)

大正七年度	局長 人見次郎	工務課長 新田留次郎	監理課長 和田駿
同八年度	局長 人見次郎 青木戒三 和田一郎	工務課長 新田留次郎	監理課長 和田駿 澤崎修
同九年度	和田一郎 弓削幸太郎	同 人	澤崎修
同十年度	弓削幸太郎	同 人	同 人
同十一年度	同 人	同 人	同 人
同十二年度	同 人	同 人	同 人
同十三年度	同 人	同 人	同 人

二 從事員 共濟

從事員共濟の制度は鐵道業務經營の變遷に伴ひ、時勢の進運に促され數回の改廢を見、明治四十三年四月初めて從事員の相互救濟を目的とする職員救濟組合を設け、内地人たる鐵道從事員の內、雇員及傭人は加入を強制し、判任官以上のものは希望者のみを加入させ其の死亡、養老及傷害保險(公務に因る傷病に限定す)の制度を併せ行ひ、之に要する費用を以て毎月前者は給料額の百分の三、後者は百分の五の掛金を徴し政府は組合に對し、前者の給料總額百分の二相當額の補助を交付しました。

而して其後朝鮮人たる従業員の數漸次増加し、之に對する救濟制度の必要に迫られ、他方朝鮮人に對する死傷率其他の統計が略出來ましたので、大正四年四月以降朝鮮人も各組合に加入させ、等しく其の惠澤に均霑する事としましたが、朝鮮人に對しては生活程度其の他の事情に鑑み各種の給與額及其の負擔額も内地人の半額に止めました。

然るに大正六年七月偶朝鮮國有鐵道の經營は南滿洲鐵道株式會社に委託せられ從事員は擧げて滿鐵會社に引繼がれたので、右組合は同月末日を以て解散し、同年十二月から社員共濟の制度を實施し傭員、雇員及本俸七十圓未満の職員を強制共濟社員とし七十圓以上の職員は希望者のみを共濟社員として、前者は本俸額の百分の五後者は百分の七を醜金し、會社は醜金總額と同額を支出して共濟基金とし、別會計として年六歩の利息を附し之を各種共濟給付の資に充てました。

之を前組合の制度と比べますと、會社員自ら保險者の地位に立つの形式になつたのは組織上大なる相異でありまして、又其の制度の内容に就て見ますに、救濟の範圍を擴大し災害及家族の死傷に迄及ぼし、從來組合で負擔した職務上に對する救濟は別途直接社費の負擔とし、共濟基金の負擔から切離し以て救濟慰安の程度を深甚にする事になりました。

而して其後共濟社員の範圍は大正十一年九月之を改め傭人、雇員及本俸百圓未満の職員を強制共濟社員とし、本俸百圓

以上百五十圓未満の職員は希望者のみを共済社員とする事とし其の醜金額は日給者日給一日分、月給雇員及本俸七十圓未満の職員本俸百分の五、本俸七十圓以上百圓未満の職員百分の六、本俸百圓以上の職員百分の七としました。其後大正十四年四月一日委託經營の解除に伴ひ、滿鐵會社々員共済規程の適用を受けない事となつたので、舊職員救済組合の制度を採長補短し鐵道局現業員共済組合の組織を見ました。

現行鐵道局現業員共済組合の組織の大略は組合員を甲種（鐵道手及雇員以下の現業員）乙種（前項以外の職員）とし、甲種は強制乙種は任意加入とし其掛金は甲種組合員給料月額百分の六、乙種組合員給料月額百分の十一で給付の種類及其額は、

- 一 公傷給付 年金給料四箇月分乃至九箇月分、一時金給料一箇月分乃至一年六箇月分
- 二 廢疾給付 年金給料三箇月分乃至六箇月分、一時金給料三箇月分乃至一箇年分
- 三 療養給付 相當の額
- 四 疾病給付 醫療金は一日一圓以下、休養金は給料の半額
- 五 退職給付 年金加入後十五年以上の者で給料年額四分の一以上、一時金加入後一年以上のもので給料二十日分以上
- 六 遺族給付 年金給料四箇月以上、一時金給料六箇月乃至一年六箇月、葬祭金給料一箇月又は三箇月

右新舊組合の内容を比較しますと舊制度に於て見なかつた年金制度を創め、尙公務に因らない傷病に屬する救済の制度を設くる等、救済の範圍を著しく擴張しました結果、資金の増額を要するので強制組合は給料月額百分の六、任意組合員は百分の七、又は百分の十一を徴し、政府は強制組合員給料總額の百分の五相當額を組合に交付する事になりました。尙ほ組合員の保護救済、福利増進を圖る爲其の附帶施設として貯金部、金融部、消費部及授産部（滿鐵時代の共勵社）

を設け之に要する事業資金は組合基金其他から融通し、貯金部は組合員に貯蓄を奨励する爲組合員の貯金事務を行ひ、金融部は組合員不慮の災厄に困り窮乏の場合之を救済する爲低利貸付をし、消費部は組合員に對し生活必需品の廉價供給をし、授産部は組合員の子弟で家庭に於て教 困難な者を收容し、之に業を授け傍ら家計の助けを圖らしめる事としました。

今現業員共済組合の共済表を掲げて大正八年度以降の共済の業績を示せば左の通りであります。

現業員共済組合諸表

一、人 員 (大正十四年度)

種別	身分別	大正十四年四月一日現在			増 加			減 少			大正十五年三月末現在		
		日現在	加入	昇格	昇格	甲種ヨリ	計	脱退	死亡	昇格	乙種ニ	計	
甲組合員	傭人	九六〇八	八八七	—	八八七	—	—	—	—	—	—	九一九三	
	雇員	二〇三	八二	—	八二	—	—	—	—	—	—	一、八〇五	
乙組合員	鐵道手	二〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二五	
	計	一一七五九	九七〇	—	九七〇	—	—	—	—	—	—	一一、一三三	
乙組合員	判任官	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
合 計		一一七五九	九七〇	—	九七〇	—	—	—	—	—	—	一一、一三三	
二、收 入		二、七五九	九七五	一八六	二二	一八四	一五九	七〇	一八六	三三	一七九四	二、二四九	

種 別	大正十四年度末現在			大正十五年九月末現在			合 計
	人員	金額	一人平均	人員	金額	一人平均	
政府給與金		二四三,九七七 ^円		一〇一,四三 ^円	三四五,三九五 ^円		三四五,三九五 ^円
組合員掛金		二九六,八四五,〇七		一四七,二〇九,六九	四四四,〇五四,七六		四四四,〇五四,七六
収入利息		一二七,六一八		一七,四七一,六七	二九,七四七,八五		二九,七四七,八五
計		五三三,一〇〇,九九		二六六,〇九四,八三	八一九,九五,八二		八一九,九五,八二

三、支 出

種 別	大正十四年度末現在			大正十五年九月末現在			合 計
	人員	金額	一人平均	人員	金額	一人平均	
公傷年金	九	八九七,四〇	九九七,二	一〇	一六七,〇八〇	一六七,〇八	二,五六八,二〇
公傷一時金	九	一六七,六一八	二二,八二	七〇一	七,三三六,七五	一〇,四七	二四,〇九八,〇三
療養金	一三〇七	一六七,六一八	二二,八二	四	四,四二〇,二〇	一〇六,〇五	三,〇〇八
特別症金	—	—	—	—	—	—	—
醫療金	四八五	七,三七七,六〇	一五,二二	一九四	二,三三九,三五	一二,〇一	六七九
休養金	三五七	六,七四一,四九	一八,八八	一四二	二,五三〇,九〇	一七,九七	九,二七二,三九
退職一時金	七七三	一三,七三五,三三	一七,七七	三四二	七,六五一,〇〇	二二,三三七	二二,三八六,三三
遺族年金	一四	三五八,九九	二五,六四	二九	一一五,〇〇	三,八四五	一,四七三,九九
遺族一時金	六九	一五,三五五,二〇	二二,二五四	三三	一〇〇一,六三三	三三,三〇一	一〇一
葬祭金	八三	四一,五四〇,〇〇	五〇,〇五	三八	一九一,七八七	五〇,四七	一一一
合 計	三,〇九七	六五,三八一,一八	二二,一一	一,四九二	三五,二九一,四七	二二,六五	四,五八九

第九章 圖書館及局友會

一 鐵道圖書館

鐵道圖書館は大正八年滿鐵經營時代龍山に創設され、業務の進展に應じ各種參考書を網羅し、従事員研究心の向上、及徳性の涵養等に資し、傍ら一般に之を公開する事としました。

而して大正十四年四月之を朝鮮總督府鐵道局圖書館と改稱し、大體従前の方針に依り其經營を繼續して居りますが、施設の主なるものを舉げますと、圖書閱覽に際しては館内閱覽を中心とせず、館外帶出主義に依り、各種の機會を利用して各地在住従事員に帶出せしめ、尙約五百箱の巡回文庫、三百の家庭文庫並釜山奉天間急行列車に列車文庫を備付け、其他ホテル滞在客の爲めにはホテル文庫を設備し、尙別に兒童圖書館を經營して一般子弟の利用に資しつゝあります。

十四年度末に於ける備付圖書總數は、七月の被害に依る被害圖書一萬〇六百十冊を除き五萬六千五百二十五冊でありまして、其内譯は本館三萬六千八百六十五冊、巡回文庫用圖書一萬千二百冊、兒童圖書館千八百八十五冊、各課備付約六千六百七十三冊、特に鐵道並工學に關するものは細大を蒐集してあります。

尙當年度に於ける成績を見ますと、開館日數は二百七十五日、館内閱覽者一萬一千六百九十三人、同閱覽圖書一萬九千七百七十二冊を算し、帶出者一萬二千五百九十八人、帶出圖書二萬六千二十九冊で、八月には被害に依る圖書整理の爲事務を休止しました。

次に兒童圖書館開館日數は百十九日、閱覽者九千四百十六人、閱覽圖書一萬五百六十一冊に上り八、九、十、十一月は被害圖書整理の爲、十二月は疫病流行の爲休館し、巡回文庫の發送冊數は一萬九千二百五十五冊であり、閱覽圖書二萬九

千五百八十四冊(八、十一、十二月は休止す)に達し、家庭文庫の發送冊數は一千四百四十三冊であり、閱覽圖書二千五百四十七冊を算し(八月より三月迄休止す)尙圖書取次販賣は注文者一千四百六十人、注文書籍四千九百七十九冊、發送冊數五千三百五十冊で其の金額七千八百二十二圓に達して居ります。

二 局 友 會

沿革及組織の概要

大正六年滿鐵委任經營後、同八年四月在來の鐵道青年會及鐵道俱樂部を解散し、同時に局員全部を會員とする社友會を創立し會員各自の心身の修練、生活の向上を圖り、兼ねて相互の和親睦睦を進め、隣保共助の實を擧ぐるのを目的とし、相談部、講演部、運動部、調辨部、娛樂部の五部を設け、本部を龍山に支部を各沿線主要地釜山、大田、平壤、元山等十二箇所に置き、九年七月鐵道圖書館設立と共に本會講演部所屬文庫事業を同館に、十一年五月局の職制改正に依り社會係新設と共に本會相談部の事業を同係に移管し、十二年十一月會則を改正して、講演部を文藝部、調辨部を消費部と改稱し、新に庶務係りを設けましたが、十三年四月成興に支部を設置し、講演部所屬兒童、及娛樂部所屬演藝事業を、局の社會係に移管しました。

十四年四月朝鮮總督府鐵道局局友會と改稱し、會則を制定しましたが、以前のものに比し其の一部を改正したに止まり大體に於て同様であります。消費部は現業員共濟組合の附帶施設となつて局友會から分離し、慰安、兒童事業は本會に還元され、新に保健事業を追加し庶務部所屬しました。

今其大要を述べます。本會は鐵道局全員を以て組織し、會員及其の家族の心身の修練、生活の向上並親睦を圖るもので本會に (一)運動部 (二)文藝部 (三)娛樂部 (四)庶務部を置き各所管事業を管掌し、會長、評議員、部長、委員、



支部長等の役員を置き、本會の經費は會費、諸料金、局釀出金、寄附金及雜收入を以て支辨する事とし、會費は會員の身分に應じ差等を設け、現在支部設置箇所は釜山、大邱、大田、裡里、木浦、新幕、平壤、定州、福溪、元山、成興、城津、清津の十三箇所であります。

十四年度事業概況

今年七月龍山地方未曾有の大水害に禍され、本部に於ける諸般の施設を失ふに至り、之が復舊其の他に不尠支障を來し豫期の事業を遂行する事が困難であつたのは遺憾であります。以下各部の概況を述べます。左の通りであります。

運 動 部

漕 艇 第一回鐵道局全鮮競漕大會を五月十七日漢江橋畔に當部後援朝鮮新聞主催の下に開催し、秋季は水害の爲本部端艇の被害甚しく豫定の各課レースは中止の止むなきに至る。

陸上競技 第一回朝鮮神宮競技大會、第七回極東大會及第二回明治神宮競技大會等に選手を派遣し、又は出場せしめ其他各所と對抗レースを行ふ。

野 球 本部選手は寶塚、立教其他と試合し十七戦十勝七負の記録を示す。

庭 球 朝鮮體協主催其他各種大會に選手を派遣し、其他支部内リーグ戦等相當行はれ練習盛んなり。

水 泳 今夏は水害の爲催しを休止。

氷 滑 漢江人道橋下にスケーティンググラウンドを設け局員を初め一般に開放す。

相 撲 恒例に依り天長の佳節を卜し各支部は夏季に於て大會を開催す。

遊 獵 本支部に於て春秋二回大會を開催す。

蹴 球 局内チームの練習試合及對外練習試合を行ひ、尙一月中旬から三週間毎朝寒中稽古を行ふ。

乘馬 野外騎乘、競技會を爲し、會員百餘名、乘用馬六頭を有し各種遠乗會參加、及軍隊に付馬術の教習を受く。
遠足 京城々壁巡り北漢山登山、扶餘探勝を試む。

武 道

劍道 滿鐵本社軍を迎へ試合をなし、平時の練習盛んなり。

柔道 大連に於ける第三回鮮滿柔道對抗試合に選手を派し其他各種大會に参加す。

弓道 滿鐵對抗試合の爲選手十三名を派し支部は春秋大會を開催す。

文 藝 部

雜誌 機關雜誌「局友」を内鮮兩文に分つて毎月一回發行し、會員に無代價を以て配付す、掲載記事は本會各部の事業概況、鐵道業務の研究、講演、談叢、家庭、文藝及講談等で原稿の多くは會員の投稿に依り、年度末に於ける發行部數は一萬三千三百五十部なり。

講演 知名の士又は専門家を委嘱し講演會を開催した事本支部を通じ七十餘回、其他婦人の爲の講演會、英、鮮語講習會研究會を設く。

美術 東洋畫及洋畫に分ち各教師指導の下に研究し春秋二回展覽會を開催す。

音樂 和樂洋樂の二とし本支部を道じ十數回の音樂會を開催す。

文藝 毎月一回俳句會を開く外「詩及歌の會」を開催す。

娛 樂 部

撞球 本支部共春秋二回大會を催す。

圍碁 大會及小會を開催した外臨時に教師を聘し指導を受く。

將棋 毎月の例會の外春秋二回大會を開催す。

寫眞 春秋二回の大會の外野外撮影會、印畫品評會を本支部に開催す。

謡曲 觀世流及賣生流の二つあり各每週二回稽古をなす。

園藝 官舎居住者並に京城驛構内及食堂車に貸盆栽をする外官舎の空地等に花壇を作り又菊花品評會を開く。

庶 務 部

運動會 本支部に於て會員及家族慰安を主とする運動會並に野遊會を數回開催す。

慰安 (一)娛樂機關の設備なく平素慰安の機會乏しき中間驛所在勤従事員及家族の爲、本部から百三十一箇所に慰問隊(落語、手踊、浪花節等)を巡演さす(二)本支部會場に於て毎月講談、活動寫眞、其他各種の演劇團等を招聘し慰安會を開催す(三)一徳社主宮本東樹氏に委嘱し沿線主要地に於て修養に關する講演會を開く(四)別府御伽俱樂部主幹梅田凡平一行の講演活動寫眞會を本、支部に開催す(五)一燈園主西田天香師を聘し總督府合同主催の下に沿線主要地に於て講演托鉢を依頼す(六)修養團理事坂本到氏に沿線各地の巡回講演を委嘱す(七)支部管内慰問の爲蓄音機の巡演を實施す(八)本支部所在地に於て家族の爲服裝料理等に關する講習會を數回に亘り開催す。

保健 醫療機關の施設のない中間驛所在勤従事員並其家族の爲、七月一日慰問婦巡回機關を設置し、最初の試みとして先づ大邱、大田、龍山、平壤、咸興、清津の六箇所に各一名の慰問婦を駐在させ、受持巡回區域内の妊婦の相談、助産、病氣看護等に當らしめ實施後日尙淺きに拘らず、各地共相當利用せられ良好な成績を示し、十四年七月から十五年三月迄の取扱延件數は大體次の如し。

妊婦診察及助産 三三四件
病氣看護 三一件

兒童保護 兒童保護の精神に基き學校並に家庭教育に相俟つて、兒童心身の健全な發達を期するを目的とし、其主たる事業は學齡未滿の保育並に託兒を爲し、尙兒童を一團とする「子供の會」を開く、現在兒童遊園開設箇所は龍山、西大門、平壤の三箇所なり。

會 計

概況右の如くでありまして其會計は收入の部、會費四萬一千三百二十七圓、局釀出金二萬五千圓、收入利息一萬二千四百二十圓、撞球一萬七百七十四圓、前年度繰越金八千三百三圓、其他各收入を合して十萬一千三百五十四圓、支出の部總體費三萬七千九百四圓、運動部費一萬八千五百四十五圓、文藝部費一萬九千二百二十九圓、娛樂部費一萬六千七百四十三圓、水害復舊費三千九百十四圓、計九萬六千二百三十六圓で、差引五千百十八圓は之を次年度に繰越したのであります。

第二編 私設鐵道及軌道

第一章 沿革

一、私設鐵道の發達

私設鐵道は舊韓國政府時代に國有鐵道の前身である京釜鐵道の外、僅に釜山鎮東萊間の蒸氣鐵道に過ぎない状態でありましたが、總督府設置以後、私設鐵道普及の必要を認めたとで職員を各地に派し、將來普設を必要とする私設鐵道豫定線路、及交通經濟狀況の調査を行ひまして企業に資する所がありました。

次で大正三年度以降は、必要に應じ一定條件の下に補助金を交付し之が助長發達を圖りましたが、元來鮮内は企業資金に乏しく資金は之を遠隔な内地に俟たなければならぬ状態にあり、其發達は極く幼稚で、少しも振はなかつたので、從來年六分であつた補助率を同七年度に至つて年七分に増加し、更に八年九月から年八分に引上げた所、時恰も歐洲戰後に於ける財界の盛況に遭遇し、資金の横溢を見、爲に内地の企業が最も旺盛であつた大正八年度に於ては、新に免許した線路の延長千二百五十七哩七分に達し、會社の新設せられたもの同年度内に於て七會社に達し、其後九年度に一會社を増加し大正十二年度の初に於ける私設鐵道會社の數は十一會社(内補助會社十社)でありましたが、同年九月中六社が合併した爲に現在私設鐵道經營者數は七會社(内補助會社六社)であります。

二、現在 哩數

昭和二年四月三十日現在に於ける私設鐵道の開業線は四百九十八哩八分に達し、未開業線は千三百十三哩で開業及未開業線哩數の合計は千八百一十一哩八分であります。

而して右の中十四年度に於て新に開業したものは二社二十二哩五分昭和二年四月中、一社十一哩五分であり、未開業線の中工事中に屬するものは四十四哩三分、工事施行の認可を経て未だ工事に着手しないものは八十五哩二分であります。

三、法 規

私設鐵道に關する法規は以前朝鮮輕便鐵道令と其の附屬命令とがありましたが、斯業の發展に従ひ改正の必要を認め、大正九年六月朝鮮私設鐵道令を制定して大體内地地方鐵道法に依ることとし、其附屬命令としては朝鮮私設鐵道令施行規則とあります。鐵道營業に關する法規としては鐵道營業法を内容とする制令があり、同令は八年六月一部の改正を行ひ朝鮮私設鐵道令と同時に同年十一月から之を實施し、其附屬命令としては朝鮮私設鐵道建設規程、同運輸信號保安規程、鐵道運輸規程及鐵道係員職制とあります。

私設鐵道の資金調達融通の利便を増進する方法としては、大正八年三月朝鮮財團抵當令を制定し、鐵道財團を設定して之を抵當となし得る便法を認むるに至り、其の附屬命令として鐵道軌道抵當取扱規則があり、續いて大正九年十一月には擔保附社債信託法が朝鮮にも施行せらるゝことになり、同時に附屬命令として其の施行規則を制定して資金融通上に一層利便を得るに至つたのであります。

四、補 助

鐵道會社に對する補助に關しては從來法規の據るべきもなく、唯毎年豫算に私設鐵道補助費を計上して補給をなすに過ぎなかつたのであります。大正十年四月一日から朝鮮私設鐵道補助法施行せられ補助の基礎始めて確定したのであります。

第二章 線 路 延 長

明治四十三度から昭和二年四月末に至る十八箇年間に於ける私設鐵道の線路延長を開業未開業別に表示すれば次のやうであります。

私設鐵道累年免許線哩表

昭和二年四月三十一日現在

年 度	開 業 線	未 開 業 線	合 計
明 治 四 十 三 年 度	五・八	一・二	五・八
同 四 十 四 年 度	五・八	一・二	一七・九
大 正 元 年 度	五・八	一・二	一三三・一
同 二 年 度	五・八	一・二	一六六・六
同 三 年 度	二・三	一・四	一六五・九
同 四 年 度	三〇・一	一・七	一五七・二
同 五 年 度	四九・七	一・三	一八一・二
同 六 年 度	七九・七	二・五	三三七・一
同 七 年 度	一四二・一	四・二	五七〇・〇
同 八 年 度	一七七・五	一・六	一、八六一・五
同 九 年 度	一九〇・九	一・六	一、八四八・二
同 十 年 度	二二二・八	一・四	一、六六九・四
同 十 一 年 度	二七六・六	一・三	一、六六九・八
同 十 二 年 度	三三三・五	一・三	一、六七〇・八

同	十三年度	三三三・四
同	十四年度	四五〇・六
昭	和元年四月末	四九八・八
		一、二八七・四
		一、二五八・五
		一、三三三・〇
		一、六七〇・八
		一、七〇九・一
		一、八一・八

次に現在私設鐵道の開業、未開業哩數を動力及軌間の種類別に表示すれば左の如くで、蒸氣鐵道哩數は九割を占め、廣軌鐵道は四割五分、狹軌鐵道(二呎六吋及三呎六吋)は五割五分に當つて居ります。

私設鐵道動力別哩數表

昭和二年四月末日現在

種別	開業線			未開業線			合計
	蒸氣	蒸氣併用電氣	電氣	蒸氣	電氣	計	
哩數	四五・〇	五・八	三・〇	四九・八	一一・五七〇	五六〇	一、三三三・〇
經營者	五	一	一	七	六	一	八

備考 一經營者であつて開業線、未開業線を有し、又動力を異にする鐵道軌道を併有するものありますから本表中經營者數の合計と内課とは一致しません。

私設鐵道軌間別哩數表

昭和二年三月三十一日現在

種別	開業線			未開業線			合計
	四呎八吋半	六吋	計	四呎八吋半	六吋	計	
哩數	二四・四	一・一	二五・五	一九・八	六・七	二六・五	九一・〇
經營者	三	一	四	七	一	八	一二

備考 前表備考と同じ

累年營業哩及開業線路、次に累年の營業哩及開業線路を表示すれば左表の如く、大正六年度に於て全營業哩は七十

九哩六分過ぎなかつたのが、七年度に於て五十七哩九分、又八年度には四十哩を開業し以後年々に營業哩を増加し、十二年に於ては七十二哩五分、十三年度に於ては六十五哩、十四年度に於ては六十六哩二分、又昭和元年中に於ては二十二哩九分、昭和二年四月十一哩五分の開業を見ました。

今私設鐵道の最近五箇年に於ける開業線路延長を比較すれば、國有鐵道百五十一哩七分に對し私設鐵道二百五十九哩であつて私設鐵道は國有鐵道の約一倍七分に當るのであります。

私設鐵道累年營業哩表

鐵道名	自明治四十四年度至大正三年度末		大正三年度末		大正四年度末		大正五年度末		大正六年度末		大正七年度末		大正八年度末		大正九年度末		大正十年度末		大正十一年度末		大正十二年度末		大正十三年度末		大正十四年度末		昭和元年度末	
	哩數	哩數	哩數	哩數	哩數	哩數	哩數	哩數	哩數	哩數	哩數	哩數	哩數	哩數	哩數	哩數	哩數	哩數	哩數	哩數	哩數	哩數	哩數	哩數	哩數	哩數	哩數	哩數
朝鮮瓦斯會社	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八	五・八
全北鐵道																												
咸北鐵道																												
南滿鐵道																												
長豐里線																												
計																												
价川輕便鐵道																												
忠北線																												
全南線																												
朝鮮鐵道																												
慶北線																												
慶東線																												
慶南線																												
株式鐵道																												
慶南線																												
黄海線																												

株式會社	慶南線		黃海線		咸南線		圖們鐵道	朝鮮京南鐵道	金剛山鐵道	電氣鐵道	合計
	哩	分	哩	分	哩	分					
慶南鐵道株式會社											
黃海鐵道株式會社											
咸南鐵道株式會社											
圖們鐵道株式會社											
朝鮮京南鐵道株式會社											
金剛山鐵道株式會社											
電氣鐵道株式會社											
合計	五・八	一五・五	八・五	一九・六	二九・九	五七・九	四〇・〇	一四・一	四二・二	五三・八	七二・五

備考 一、咸南鐵道西湖津線は國有鐵道同區間の開業、長豊里線は朝鮮鐵道株式會社咸南線の開業に伴ひ廢止す。

二、朝鮮鐵道株式會社は、大正十二年九月一日に朝鮮中央鐵道株式會社外五社の合併に依つて成立したので、其の忠北線及慶東線は朝鮮中央鐵道株式會社、全南線及慶東線は南朝鮮鐵道株式會社、黃海線は西鮮殖産鐵道株式會社、咸南線は朝鮮森林鐵道株式會社が經營しておつたのであります。

三、昭和二年四月十六日から京南鐵道、京畿線中安城竹山間十一哩五分を新に開業す。

四、十四年度以降新に免許したものは、金剛山電鐵線に於て昌道より分岐して長淵里に至る三十哩、及南朝鮮鐵道會社線の本浦對岸、龍塘に起り順天を経て麗水に至る間、並龍沼より分岐して榮山浦に至る間計百三十三哩、並咸鏡南部線文川箭難間龍潭里に起り川内里に達する三哩の、川内里鐵道會社線であります。

株式會社	慶南線		黃海線		咸南線		圖們鐵道	朝鮮京南鐵道	金剛山鐵道	電氣鐵道	合計
	哩	分	哩	分	哩	分					
慶南鐵道株式會社											
黃海鐵道株式會社											
咸南鐵道株式會社											
圖們鐵道株式會社											
朝鮮京南鐵道株式會社											
金剛山鐵道株式會社											
電氣鐵道株式會社											
合計	五・八	一五・五	八・五	一九・六	二九・九	五七・九	四〇・〇	一四・一	四二・二	五三・八	七二・五

私設鐵道累年開業線路表

鐵道名	自明治四十二年	大正三年	同四年	同五年	同六年	同七年	同八年	同九年	同十年	同十一年	同十二年	同十三年	同十四年	同十五年	同十六年	同十七年	同十八年	同十九年	昭和元年
慶東線																			
慶北線																			
全南線																			
忠北線																			
价川鐵道																			
長豊里線																			
西湖津線																			
咸南線																			
朝鮮會社																			
電氣鐵道																			
全北鐵道																			
合計																			

馬山—郡北 一八・三
郡北—曹州 二二・三
沙里院—觀峯 觀峯—保川 八・四
内土—上海 九・四
咸興—長豊里 一七・七
花山—木力 木力—下聖 五・〇
西老上通聖上 西新與—二七・六
天安—安城 一七・七
鐵原—金化 金化—金城 金城—甘里 一七・八
天安—福山 福山—廣川 二五・二
上三輪—健城 六・〇
鐵城—漣川 四・六
天安—安城 一七・七
鐵原—金化 金化—金城 金城—甘里 一七・八

第三章 私設鐵道各種事業概況

一 總 況

一 沿 革

朝鮮に於ける各私設鐵道會社は、孰れも成立後年日淺く、概して大正九年頃から事業漸く其の緒に執き其後財界未曾有の變動に際會し、事業の進捗上幾多の障礙を蒙りましたが、鐵道事業は朝鮮開發上最も緊要なる基礎的施設でありますので、官民一致の眞摯な努力の結果に相俟ち辛ふして此の難關を通過し、今や各社の事業は着々として進捗し、漸次新線を開業して居る事前述の通りであります。

二 經 營 者

昭和二年四月現在に於ける私設鐵道の經營者は七株式會社であつて、外に線路敷設の免許を受け未だ會社の成立に至らないものか四社あり。現在經營業者中の七會社は朝鮮鐵道株式會社、全北鐵道株式會社、朝鮮京南鐵道株式會社、朝鮮瓦斯電氣株式會社、金剛山電氣鐵道株式會社、圖們鐵道株式會社及价川鐵道株式會社であります。而して未設の三社は北鮮鐵道、朝鮮京東鐵道、全羅鐵道及南朝鮮鐵道の各株式會社であります。

三 投 資

現在私設鐵道株式會社の中朝鮮瓦斯電氣を除く他の六社は私鐵補助法に依る補助を受け、其の資本金總額は七千四百四十萬圓、内拂込額は三千三百四十萬圓でありまして他に資金として社債及借入金二千八百五十八萬二千圓あります。之等會社の株式の分布は其の大部分は内地に在る内地人の所有で約八割四分に上り、残り一割六分の中朝鮮居住の内地

人の所有は約一割四分、朝鮮人の所有は約二分の状態に在ります。

二 朝鮮鐵道株式會社

本會社は大正十二年九月一日朝鮮中央鐵道、南朝鮮鐵道、西鮮殖産鐵道、朝鮮森林鐵道、朝鮮産業鐵道及兩江拓林鐵道の六株式會社の合併に依り成立し、本社を京城に支社を東京に置き、清州、光州、金泉、大邱、馬山、沙里院、咸興及古茂山の八箇所に出張を設け、資本金は五千四百五十萬圓、内拂込一千七百六十五萬圓であつて外に社債及借入金二千五百五十萬五千餘圓を有し。免許線は京畿、平南、江原を除く他の十道内に之を有し其の哩數一千八百八十三哩八分であつて私設鐵道總免許線の七割を占め現在開業線三百五哩四分、工事中線二十六哩二分、工事施行の認可を受けたものは八十五哩二分であります。

各線概況 今左に其の各線の概況を述べます。

(イ)忠北線 本線は京釜線の鳥致院驛に起り忠清北道廳所在地の清州を経て忠州に至る免許線延長五十七哩六分、四呎八吋半の蒸汽鐵道であつて元朝鮮中央鐵道株式會社に屬したものであります。

本線中鳥致院清州間十四哩一分は、大正九年三月起工して同十年十一月一日開通し、清州清安間十四哩九分は同十一年五月起工十二年五月開通し、目下の營業區間は鳥致院清安間二十九哩で、本線は國有鐵道との連絡運輸を爲す外に終端驛清安より槐山忠州寧越間自動車との聯絡運輸を施行して居ります。

目下鳥致院清州間五往復、清州清安間四往復の列車を運輸し、大正十四年度に於ける運輸成績は旅客三十四萬人、貨物五萬二千噸に上り一日一哩、平均收入二十五圓を算してゐます。

未開業區間である清安、清州間二十八哩六分は曩に工事施行の認可を受けましたが未だ之が着手の運には至りません。

(口)全南線(政府買收豫定線) 本線は湖南線松汀里驛に起り、全羅南道廳所在地光州を経て馬山に至る、南朝鮮橫斷線延長百五十七哩の西方面の一部を成す四呎八吋半の蒸氣鐵道であつて、馬山に起る慶南線と共に元南朝鮮鐵道株式會社に屬したものであります。

尙本線は途中院村から分岐して南原、任實を経て全州に至る四十七哩の支線を有して居ります。

大正七年七月に敷設の免許を得、同十年四月松汀里光州間を起工し次いで同年十二月光州潭陽間の工事に着手し松汀里光州九哩三分は同十一年七月より、光州潭陽間十三哩四分は同年十二月より何れも運輸營業を開始し、國有鐵道と聯絡運輸を爲すの外、終端驛潭陽より淳昌、南原及全州間自動車との聯絡運輸を施行して居ります。

列車の運轉は目下松汀里光州間六往復、光州潭陽間四往復で、大正十四年度の運輸成績は旅客四十二萬四千人、貨物四萬六千噸に達し一日一哩平均収入二十五圓を算して居ります。

未開業區間中潭陽石現間三哩二分は曩に工事施行の認可を受けて目下工事中に屬します。

(ハ)慶北線 本鐵道は京釜線金泉驛より分岐して慶尙北道の北部を橫斷し安東に至る免許線延長七十三哩、四呎八吋半の蒸氣鐵道であつて、大正八年十月元朝鮮產業鐵道株式會社が敷設免許を得て、十一年四月先づ金泉尙州間二十二哩四分の工事に着手し次いで十二年五月尙州咸昌間十一哩八分、同年八月咸昌江間三哩三分の工事に着手し、金泉尙州間二十二哩四分は十三年十月一日、尙州店村間十四哩八分は同年十二月何れも運輸營業を開始し、國有鐵道と聯絡運輸を爲すの外尙州洛東間店村よりは安東、春陽間及聞慶忠州方面と自動車聯絡運輸を施行して居ります。

目下金泉店村間四往復の列車を運轉し、大正十四年度に於ける運輸成績は、旅客二十六萬六千人、貨物五萬八千噸に上り一日一哩平均収入二十二圓を算して居ります。

(ニ)慶東線(買收豫定線) 本線は京釜線大邱驛に起り東海岸浦項及鶴山に至る間、及途中西岳から分岐して蔚山を経南下して東萊に至る間、及蔚山長生浦に至る間の、免許線延長百三十一哩七分、軌間二呎六吋の蒸氣鐵道であつて、大正五年二月元朝鮮輕便鐵道株式會社に於て敷設の免許を得て、大正六年二月先づ大邱より起工し、同年十一月大邱河陽間を開通し爾來漸次工を進めて大正七年十一月東海岸浦項に達し、同十年十月蔚山線を開通して、目下九十二哩の營業線を有して居ります。

現在開業線の十四年度に於ける運輸成績は旅客人員は五十三萬人、貨物は五萬三千噸に上つて一日一哩平均収入十五圓を算し、國有鐵道と聯絡運輸を爲すの外、永川驛同邑内間の自動車及浦項に於て穩城汽船會社經營の濱田航路と聯絡運輸を施行して居ります。

目下大邱浦項間五往復、蔚山線三往復の外數箇の區間列車を運轉して居ります。

未開業區間たる蔚山東萊間三十四哩六分、蔚山長生浦間五哩一分は曩に工事施行の認可を受けましたけれども未だ著手の運に至りません。

(ホ)慶南線(買收豫定線) 本線は四呎八吋半の蒸氣鐵道であつて、馬山線の終端馬山に起り晉州、河東、求禮、谷城を経て全南線に聯絡する延長百五十七哩の幹線の一部を成し、元南朝鮮鐵道株式會社の經營に屬したものであります。

大正十一年六月先づ馬山郡北間十九哩を起工し同十二年七月郡北晉州間の工事に著手し馬山郡北間十八哩三分は十二年十二月、郡北晉州間二十五哩二分は同十四年六月何れも運輸營業を開始して一日四往復の列車を運轉して居ります。

本線は國有鐵道と聯絡運輸を爲すの外馬山内地諸港間を航行する大阪商船會社及朝鮮郵船會社汽船との聯絡運輸、及終端驛晉州より陝川、居昌、咸陽、河東、昆陽、三千浦等に至る自動車との聯絡運輸を施行し大正十四年度に於ける運輸成績は旅客二十九萬六千人、貨物二萬六千噸であつて一日一哩平均収入二十一圓を算して居ります。

(ヘ)黄海線 本鐵道は京義線沙里院驛から鎮南浦對岸の猪島に至る五十一哩と、同區間の上海驛から分岐して銀山面に

至る九哩四分、銀山面線石灘内土間の途中花山驛から黃海道廳所在地海州に至る三十二哩四分、同線佳菊里(新院)より分岐して下聖面に至る三哩二分、猪島、線信川より分岐して海州を経て其の海港たる龍塘浦に至る四十七哩四分、信川の稍南方梨木より分岐して長淵に至る十八哩六分、合計百六十二哩八分の免許線を有する二呎六吋の蒸氣鐵道であります。本鐵道は元西鮮殖産鐵道株式會社が經營せるもので、右の内銀山面線九哩四分は三菱製鐵株式會社の經營に依る銀山面鐵道を同社に於て大正九年四月買収したものであります。

沙里院信川間二十二哩は大正九年六月工事に著手し内沙里院載寧間十四哩は同年十二月、載寧信川間八哩四分は同年十一月、銀山面線花山より分岐する海州線中未力迄五哩は十三年九月、未力下聖間九哩五分は十四年九月何れも開通して目下全線四十五哩七分の運輸營業を爲し、列車は沙里院信川間四往復上海下聖間三往復花山内土間二往復を運轉して居ます。本線は國有鐵道に聯絡運輸を爲すの外、載寧江水運に依り鎮南浦港に貨物聯絡運輸を、又新院海州間の自動車に旅客聯絡運輸を爲し、以て地方交通の便利を圖つて居ります。本線の大正十四度に於ける運輸成績は旅客三十萬五千人、貨物約九萬三千噸であつて一日一哩平均収入は二十圓を算して居ります。

(ト)平北線 本線は京義線孟中里驛より熙川に至る七十七哩四呎八吋半の蒸氣鐵道であります但未だ工事未着手であります。

(チ)咸南線 本免許線は咸鏡線南部咸興驛に起り國境厚州古邑及滿浦鎮に至る二百十八哩の幹線に、五老里より分岐し漢堡里に至る六十一哩、及豊上里長豊里間一哩七分の支線から成る軌間二呎六吋の蒸氣鐵道であつて、元の朝鮮森林鐵道株式會社の經營に係り大正十一年四月咸興五老里間同十二年三月五老長豊里間の工事に着手し、大正十二年六月十日萬歲橋五老間九哩、同八月二十五日咸興萬歲橋間一哩六分、五老長豊間七哩二分、大正十五年十月一日豊上西新興間九哩四分及五老上通間八哩二分の運輸營業を開始いたしました。

目下咸興西新興間四往復、五老上通間及豊上長豊間三往復の列車を運輸し、國有鐵道に聯絡運輸を爲すの外西新興驛富田間自動車に聯絡運輸を爲し、又朝鮮水電會社専用鐵道に貨物の直通運輸を爲します。大正十四年度に於ける運輸成績は旅客十六萬二千人貨物五萬五千噸、運輸收入一日一哩平均は十八圓に達して居ります。

未開業區間中上通古土間十六哩九分は曩に工事施行の認可を受け未だ工事着手して居りませんが、今後同地本鐵道は鴨綠江上流地方森林地帯の木材を搬出するのを主たる目的として計畫せられたものであります、今後同地帯に達する迄には尠からざる日子を要することに豫想せられて居ります。

(リ)咸北線 本線は元兩江拓林鐵道株式會社に屬し咸鏡北道豆滿江上流の森林地帯に有る木材搬出を主たる目的として計畫せられたものであります、免許線は吉州から同江岸惠山鎮に至る間途中合水より分岐して清會線古茂山に至る間であつて延長二百五哩の蒸氣鐵道であります。

大正八年六月其の免許を得當初軌間三呎六吋の計畫であつたが、森林及線路調査の結果二呎六吋を適當に認めて不取敢古茂山三河口間を軌間二呎六吋に變更し、目下古茂山新站間二十三哩を工事中であります。

三 朝鮮京南鐵道株式會社

本鐵道は群山對岸に起り忠清南道海岸を北進して京釜線天安驛に出て、更に進んで京畿道驪州に至る免許線延長百三十七哩、軌間四呎八吋半の蒸氣鐵道であつて、大正七年七月群山對岸安城間九十九哩を出願し翌八年九月其の敷設免許を得同九年二月會社を創立いたしました、更に十四年九月安城より長湖院を経て驪州に至る三十八哩の追加免許を得、其の内安城長湖院二十五哩七分は目下工事中であります。

大正九年十二月先づ天安溫陽溫泉間十哩の工事に着手し、次いで同十年五月溫陽溫泉禮山間十六哩を起工し共に同十一

年六月を以て運輸營業を開始し、次いで禮山廣川間二十一哩六分の工事に着手し、其の内禮山供城間十三哩七分は十二年十一月、供城廣川間七哩九分、同年十二月天安安城間十七哩七分は十四年十一月何れも其の運輸營業線延長六十四哩五分あります。

大正十四年度に於ける運輸成績は旅客二十五萬九千人、貨物七萬一千噸に達し一日一哩平均収入は約十七圓であります目下天安廣州間、及天安安城間各三往復の列車を運轉して居ます。

本鐵道は本社を天安に、支店を東京に置き公稱資本金一千萬圓中六百萬圓の拂込を爲し、外に社債及借入金四百七十二萬三千圓を有します。

四 全北鐵道株式會社 (買收豫定線)

本鐵道は湖南線裡里驛から全羅北道廳所在地全州に至る十五哩五分、二呎六吋の蒸汽鐵道であつて大正二年一月敷設の免許を受け、大正三年二月會社を設立し、爾來建設工事に約十箇月を費し同年十一月全區間運輸營業を開始して今日に至つたのであります。

當初の資本金は三十萬圓であつたが、開通後貨客の激増に依り車輛の増加其の他設備改善の必要を認め、大正九年三月六十萬圓に増資し目下拂込總額は四十五萬圓であつて此の外に二萬八千圓の借入金を爲し事業資金に充當して居ります。

本線の一日一哩平均収入は開業當初九圓内外より始まつて十二年度に入りては四十圓を超過するに至り、大正十四年度に於ける旅客は四十五萬三千人、貨物は七萬三千噸に達し一日一哩平均収入は四十八圓であつて、大正三年度以來補助を受けしておりますが、營業状態逐年良好の成績を收め五年下半年期に至る間及七年下半年期以降は殆ど補助金を受けず、裕に六分乃至一割の配當を爲し現在一日六往復の列車を運轉して居ります。

五 价川鐵道株式會社

本鐵道は京義線新安州驛から价川を経て泉洞に至る延長二十二哩、軌間二呎六吋の蒸汽鐵道であつて、最初北海道製鐵株式會社が价川に在る會社所有の鐵山から鐵鑛石を搬出する目的の下に敷設した専用鐵道でありましたが、大正五年五月から一般の運輸營業を開始し大正十三年度末に於ける建設費は七十九萬三千圓であります。

其の後北海道製鐵株式會社は株式會社日本製鋼所に合併せられ本鐵道は同所の所有に歸しましたが、鐵道及附屬物件一切は藤野葛樹が之を借受け同氏の名義の下に營業し、大正十五年十一月二十五日之を株式會社組織に變更し本社を東京に其の營業所を平安南道軍隅里に置く事になりました。

本鐵道輸送貨物は鑛石を大部分とし、大正十四年度に於ける運輸成績は一般貨物を合せて一箇年約八萬四千噸に上り、旅客約十萬六千人、現在一日一哩平均収入約十六圓あります。目下全線に亘り四往復の列車を運轉します。

六 金剛山電氣鐵道株式會社

本鐵道は江原道化川に於て水力電氣を起し、之を動力として京元線鐵原驛より金剛山附近化川に至る六十三哩間に軌間四呎八吋半の電氣鐵道を敷設し、兼ねて電氣事業を営まむとするもので、大正八年三月に之が敷設の出願を爲し同年八月其の免許を得、同年十二月會社を設立し爾來事業の進捗に努め、既に鐵道線路の一部鐵原金化間十七哩九分の線路竣工し發電送電等の設備も亦竣成を告げましたが、這般の關東地方大震災の爲東京に註文した電動機器燒失の爲同十三年區間蒸汽列車を以て運輸營業を開始し、次て同年十一月電車を運轉するに至り、翌十四年十二月金化、金城間十三哩八分、十五

二年九月金城炭甘里間五哩三分を開業し、目下三十七哩の營業線となり鐵原炭甘里間五往復の運轉を爲しつつあります。大正十四年度に於ける運輸成績は旅客十八萬八千人貨物二萬七千噸、一日一哩平均収入は十四圓であります。未開業區間中炭甘里道間三哩九分は目下工事中に屬し、同社は昭和元年十二月中更に昌道より分岐して長淵里に至る三十哩の鐵道敷設を願して同月二十七日に免許を得、本社を鐵原に出張所を京城に置き其の公稱資本は五百萬圓で全額拂込を了し、外に社債二百二十五萬圓(五百萬圓中二百七十五萬圓は電氣事業資金)を有しましたが、昭和元年十二月中更に七百萬圓を増資したので公稱資本一千二百萬圓を稱ふるに至りました。

七 圖們鐵道株式會社 (買收豫定線)

本鐵道は、當初南滿洲太興合名會社が大正八年二月、會寧から圖們江々岸を東進して上三峯に至る延長二十五哩、軌間二呎六吋の蒸汽鐵道の敷設を願し、同年三月之か免許を受け同九年一月其の全線を開通したものであります。同社は次て大正八年十二月上三峯より潼關鎮に至る十哩の敷設を願し翌九年三月其の免許を得、内上三峯鍾城間五哩九分は同一年十二月、鍾城潼關鎮間四哩九分は大正十三年十一月一日夫々運輸營業を開始し、更に大正十二年十月潼關鎮穩成間二十一哩の敷設を願し同年十一月之か免許を得。目下會寧潼關鎮間三往復の列車を運轉しつつあります。同社に於ては大正十年三月、其の事業から鐵道業を分離し圖們鐵道株式會社を設立して、事業の進展を圖るこころなり其の公稱資本三百三十萬圓は全額拂込済で本社を東京に支店を咸鏡北道會寧に置きます。

大正九年一月開業當時は一日一哩平均収入七圓餘に過ぎなかつたが、其の後漸次發達を爲し同十四年度に於ては旅客十萬八千人 貨物七萬二千噸に達し、一日一哩平均収入二十九圓餘に達し國境地方交通の利便を圖る爲に鐘成、穩成、慶源間に自動車運輸を營みつつあります。

本鐵道は上三峯に於て支那の間島に於ける天圖鐵道に聯絡しますが、天圖鐵道は吉林省及飯田延太郎氏の官商合辦會社である天圖輕便鐵路股份公司の經營する所であつて、既の上三峯對岸から間島龍井村に至る三十六哩一分は大正十二年十月龍井村老頭溝間二十六哩八分(以上本線)朝陽川延吉(局子街)間六哩二分(支線)は十三年十一月何れも運輸營業を開始して、目下營業線總延長六十九哩に達し老頭溝天寶山間は近く起工の豫定であります。同鐵道は目下上三峯對岸龍井村間及延吉支線は一日三往復朝陽川老頭溝間は二往復の列車を運轉して居ります。次に以上概述した所に依り之を私設鐵道一覽表として示せば左の如くであります。

一 總 況 昭和二年三月三十一日末現在

經營者	主たる事務所在地	線			資本金又 は建設費 千円	拂込資本 借入及社債
		免 業 哩分	未 開 業 哩分	計 哩分		
朝鮮鐵道株式會社	京城	三五・四	八七・四	一二三・八	五五、五〇〇	借入 一七、六五七 社債 三、九三三 一七、五〇〇
朝鮮京南鐵道株式會社	天安	六四・五	七三・二	一三六・七	一〇、〇〇〇	借入 一、三六〇 社債 四、〇〇〇 六、〇〇〇
全北鐵道株式會社	全州	一五・五	—	一五・五	六〇〇	借入 四、〇〇〇 元
金剛山電氣鐵道株式會社	鐵原	三七・〇	五・〇	六三・〇	一一、〇〇〇	社債 二、五〇〇 〇、〇〇〇 二、五〇〇
圖們鐵道株式會社	會寧	三六・一	二・〇	五七・一	三、〇〇〇	借入 三、〇〇〇
价川鐵道株式會社	軍隅里	三三・〇	—	三三・〇	一、〇〇〇	借入 一、〇〇〇
以上補助鐵道計		四八・五	九七・六	一、四七・一	八一、四〇〇	借入 二、七四七 社債 五、四八〇 八、二二七
朝鮮瓦斯電氣株式會社	釜山	五・八	—	五・八	八三六	借入 八三六

×株朝 式鮮 會鐵 社道												
線 南 咸		線 海 黃				線 南 慶		線 東 慶				
咸鏡南道		黃海道				慶尙南道		慶尙北道				
五老上通	長咸豐興	下末聖力	未花力山	信載川寧	載沙里寧院	上內海士	晉郡北州	郡馬北山	蔚佛國山寺	佛西國寺岳	鶴大邱山	
一七・六	一七・七	九・五	五・〇	八・四	一三・四	九・四	二五・二	一八・三	一八・六	八・三	六五・一	
二・六		二・六				四八・五		二・六				
同		同				同		同				
一一・六九	九・八六・一三 一一・一〇	八・一〇・一〇				八・五・一六	七・七・一三	五・一・一五	一〇・一〇・二五	七・一〇・三一	六・一・二五	五・四・〇〇
一五・一〇・一	一一・六・一〇 一一・三・五	一四・九・一	一三・九・一	一〇・一・一六	九・一・二二	八・五・一〇	一四・六・一五	一一・一一・一	一〇・一〇・二五	七・一〇・三一	六・一・二五	五・四・〇〇
												一七・五・七〇

線 北 慶		線 南 全		線 北 忠		經 營 者
慶尙北道		全羅南道		忠清北道	忠清南道	道 區 名 間
店尙	尙金	潭光	光松	清清	清鳥	地 名
村州	州泉	陽州	汀州里	安州	致州院	哩 程
一四・八	二二・四	一三・四	九・三	一四・九	一四・一	哩 分
四・八五	同	四・八五	同	四・八五	四・八五	哩
同	同	同	同	蒸	氣	動 力
八・一〇・一三	七・七・一三	六・八・一八	六・八・一八	六・八・一八	六・八・一八	敷 設 免 許 年 月 日
一三・一一・二五	一三・一〇・一	一一・一一・一	一一・七・一	一一・五・一	一〇・一一・一	運 輸 開 始 年 月 日
						資 本 額 又 是 建 設 費
						拂 込 額 又 是 建 設 費

二、開

業

線

昭和二年三月三十一日現在

以上非補助鐵道計	※全羅鐵道株式會社	※朝鮮京東鐵道株式會社	※北鮮鐵道株式會社	※以上未設立會社計	合 計
五・八	三三・〇	四三・一	八五・〇	一〇七・〇	四七・三
—	—	—	—	—	一、一八・七
—	—	—	—	—	一、六七・〇
—	—	—	—	—	建
—	—	—	—	—	九七、四〇〇
—	—	—	—	—	八三、八
—	—	—	—	—	借入
—	—	—	—	—	三三、四〇〇
—	—	—	—	—	五、四八八
—	—	—	—	—	三三、七五〇
—	—	—	—	—	八三・六

備考 一、朝鮮瓦斯電氣株式會社の建設費には軌道四哩九分のみを含みます。
 二、×印は補助鐵道・※印は非補助鐵道なり以下各表之に同じ。

線南慶					線東慶		線北慶	線南全		線北忠	經營者	計
慶尙南道		慶尙南道		慶尙北道	全羅北道	全羅南道	忠清北道		忠清南道			
院晉	長蔚	東蔚	安店	全州	石潭	石潭	忠清		忠清			
村州	生浦	萊山	東村	州村	峴	峴	州安		州安			
七〇・五	五・一	三〇・六	二五・二	六三・七	三・二	二・六	二八・六		二八・六			
四・八	二・六		同	同	同	同	四・八		四・八			
同	同		同	同	同	同	同		同			
七・七	五・二		八・〇	七・七	七・七	六・八	六・八		六・八			
昭和二三年三月三十一日現在												
敷設免許												
年月日												
建設費豫算												
資本金又け												
拂込金又け												
建設費豫算												

三、未開業線

昭和二三年三月三十一日現在

×金剛山電氣株式會社			×价川鐵道株式會社		朝鮮瓦斯電氣株式會社		×全北鐵道株式會社		×朝鮮京南鐵道株式會社				
江原道			平安南道		慶尙南道		全羅北道		忠清南道				
上會	炭金	金金	金鐵	泉新	東釜	全裡	安天	廣洪	洪禮	禮溫	溫陽	天溫	
三峯	甘里	城化	化原	洞州	山鎮	州里	城安	川城	城山	山泉	山泉	安泉	
二五・三	五・三	一三・八	一七・九	二三・〇	五・八	一五・五	一七・七	七・九	一三・七	一六・一	九・二		
		四・八		同	同	二・六			四・八				
		電氣		蒸氣	電蒸	同			同				
八・三		八・八		六・二	五・五	二・九			八・九				
讓本暇		二四・二	一三・八	六・二	四・二	三・一	一四・一	二・二	二・二	一・六	二・六		
一〇・三	一五・九	二四・二	一三・八	七・二	四・二	三・一	一四・一	二・二	二・二	一・六	二・六		
		一〇〇〇		一〇〇〇	同	六〇〇			一〇・〇〇〇				
		五・〇〇〇		一〇〇〇	同	四〇〇			六・〇〇〇				

計	※全羅鐵道株式會社	※北鮮鐵道株式會社	※朝鮮京東鐵道株式會社	×圖們鐵道株式會社	×金剛山電氣株式會社	×朝鮮京南鐵道株式會社	
	全羅南道	咸鏡北道	京畿道	咸鏡北道	江原道	京畿道	忠清南道
	法松聖汀浦里	訓羅戎津	驪水州原	穩渣關城鎮	昌化炭甘里 昌道、長淵	驪安州城	廣山對岸
	一、二八、七	三三〇	八五〇	四三一	二六〇 三〇〇	三六〇	三四三
		同					
	二、六		四、八五	二、六	四、八五		四、八五
	同	同	蒸	蒸	電	同	同
			汽	汽	氣		
	一五、三三	九、二七	九、三三	二二、二六	八、八、二 九、二、二	一四、九、三	八、九、三〇
				同	同		前
	一六、〇〇〇	一〇、〇〇〇	五、〇〇〇	同	同		出
	同	同	未設立	同	同		前
							出

×株朝式鐵會社道												
線北咸		線南咸			線北平		線海黃					
咸鏡北道		咸鏡南道	平安北道	咸鏡南道		平安北道	黃海道					
惠吉山鎮	合新水砮	新古砮山	漢西里興	厚州古邑	長津(東門)巨里	古土里	古土里通	熙孟川里	長梨湍木	龍信塘浦川	海新州院	猪信島川
八五〇	九七〇	二三〇	三六三	五二〇	一三三	一六九	七七〇	一八六	四七四	二二九	二九三	
一輪												
二、六	三、六			二、六		四、八五		二、六				
蒸				同		同		蒸				
汽				同		同		汽				
八、六、二				九、二、〇		八、六、二		八、一〇、六		八、一〇、一〇		

二 車 輔

備考 一時間平均速度は停車時分を含む

軌間	鐵道名	線名	區	間	最急勾配	最小半徑	軌條重量	平均速度
四呎八吋二分ノ一	朝鮮京南鐵道	慶南線	馬山、晉州間	天安、廣川間	六十分ノ一	一五	六〇	一八強
二呎六吋	朝鮮鐵道	慶東線	天安、安城間	鐵原、炭甘里間	六十六分ノ一	一五	六〇	一六強
			大邱、浦項間	浦項、鶴山間	六十分ノ一	七	六〇	一七強
			西岳、佛國寺間	佛國寺、蔚山間	同	五	三〇	一四弱
		黃海線	沙里院、信川間	同	五	三〇	一二	一三強
			上海、下聖間	同	五	三〇	一〇弱	一一強
			花山、內土間	同	六	三五	六	一〇弱
		咸南線	咸興、西新興間	同	六	三五	一〇強	九強
			五老、上通間	同	六	三五	一一弱	一一弱
			豐上、長豐間	同	六	三五	一一弱	一一弱
		全北鐵道	全州、裡里間	同	五	三五	一一弱	一一弱
			新安州、价川間	同	五	三五	一一弱	一一弱
		价川鐵道	价川、泉洞間	同	七	三〇	一二	一二
			會寧、渣關鎮間	同	五	二五	九弱	九弱

次に之等列車の速度は軌間四呎八吋半の廣軌線に在つては、一時間平均(途中停車時分を含む)十六哩至二十二哩、二呎六吋の狹軌線に在つては六哩乃至十四哩であつて、軌間別、各線列車速度は左の通りであります。

私設鐵道各線列車速度表

昭和二年三月三十一日現在

軌間	鐵道名	線名	區	間	最急勾配	最小半徑	軌條重量	平均速度
四呎八吋二分ノ一	朝鮮鐵道	慶南線	馬山、晉州間	天安、廣川間	六十分ノ一	一五	六〇	一八強
			大邱、浦項間	浦項、鶴山間	六十分ノ一	七	六〇	一七強
			西岳、佛國寺間	佛國寺、蔚山間	同	五	三〇	一二
		黃海線	沙里院、信川間	同	五	三〇	一〇弱	一一強
			上海、下聖間	同	五	三〇	一〇弱	一一強
			花山、內土間	同	六	三五	六	一〇弱
		咸南線	咸興、西新興間	同	六	三五	一〇強	九強
			五老、上通間	同	六	三五	一一弱	一一弱
			豐上、長豐間	同	六	三五	一一弱	一一弱
		全北鐵道	全州、裡里間	同	五	三五	一一弱	一一弱
			新安州、价川間	同	五	三五	一一弱	一一弱
		价川鐵道	价川、泉洞間	同	七	三〇	一二	一二
會寧、渣關鎮間	同		五	二五	九弱	九弱		

圖們鐵道	金剛山電氣鐵道	价川鐵道	全北鐵道
會寧、渣關鎮間	鐵原、炭甘里間	龍興、泉洞間	新安州、价川間
同	同	同	同
混合	貨物	貨物	混合
三	五	三	四
一	五	一	二

鐵道名	並		貨物營業哩割増率	始終端間實一哩一噸ニ付	記 事
	旅客一人一哩ニ付	特等			
忠北線	五	七	一二、〇	九〇〇	
全南線	五	七	一二、〇	九三四	
慶北線	五	七	一二、〇	八三六	
慶東線	五	七	二〇、〇	八四四	大邱、鶴山間
慶南線	五	七	一二、〇	七六八	
黃海線	五	七	一二、〇	八六七	沙里院、信川間
咸南線	五	七	一三、〇	九一〇	咸興、西新興間
朝鮮鐵道	四	八	七、〇	七九九	天安、廣川間
全北鐵道	五	八	七、〇	七九四	
川鐵道	五	八	七、〇	七〇四	

私設鐵道旅客貨物運送貨率表

昭和二年三月三十一日現在

じであります、國有鐵道との聯絡運輸に便利の爲に特殊の事情あるものを除き同一の運賃規則に依つて居ります。

一、普通貨率

貨率は旅客一哩に付並等五錢又は四錢、特等八錢又は七錢で平均並等五錢特等七錢三厘に當り、貨物は營業收支の均衡を圖る爲に内地地方鐵道の例に倣ひ實哩に七割乃至二十割増の貨物營業哩を設けて之の哩程に國有鐵道と同一の貨率を適用して居るのであります。

今各線別の旅客貨率及貨物營業哩割増率を示せば左の通りであります。

次に現在營業中の私設鐵道に使用して居る車輛を示せば左の通りであります。

私設鐵道車輛表

昭和二年三月三十一日現在

車輛形式	朝鮮鐵道		京南		全北		川金剛山圖們		計
	忠北線	全南線	慶北線	慶東線	慶南線	黃海線	咸南線	京南全北	
機關車	四輛	四輛	四輛	六輛	五輛	二輛	九輛	六輛	三九輛
四輪ボギー	八	九	八	七	七	五	四	六	五二輛
四輪ボギー	八	九	八	七	七	五	四	六	五二輛
電動車	計	計	計	計	計	計	計	計	計
有蓋	六	九	八	七	七	五	四	六	五二輛
無蓋	二	二	二	二	二	二	二	二	一六輛
四輪車	八	五	八	六	五	三	四	六	四三輛
四輪車(鐵車)	二	二	三	二	二	二	二	二	一六輛
計	二〇	二二	二六	二六	二六	二六	二六	二六	一七六輛

二 客 貨 貨 率

私設鐵道の運賃は、旅客に在つては距離比例法(對哩)を、貨物は遠距離遞減法(對哩)を採用すること國有鐵道と同

圖 們 鐵 道	計		備考
	同 十一年度	同 十一年度	
同 十一年度	三・五	七〇、六九六	年度末營業哩合計には朝鮮瓦斯電氣會社鐵道線五哩八分を含む
同 十二年度	三・五	一〇九、〇一一	一日一哩平均運輸收入には運輸雜收を含む
同 十三年度	三・一	一〇七、三六九	
同 十四年度	三・一	一〇七、六六五	
大正九年度	一九・六	一、二三六、〇九七	
同 十年度	二三・八	一、二九五、九四一	
同 十一年度	二六・六	一、六九八、九三三	
同 十二年度	三三・五	一、九五五、二五九	
同 十三年度	三六・二	二、七〇七、八三三	
同 十四年度	四六・四	三、四三七、八八四	
合 計			
同 十一年度	三・五	七〇、六九六	(營業哩)
同 十二年度	三・五	一〇九、〇一一	(客運)
同 十三年度	三・一	一〇七、三六九	(貨物)
同 十四年度	三・一	一〇七、六六五	(客車)
大正九年度	一九・六	一、二三六、〇九七	(貨車)
同 十年度	二三・八	一、二九五、九四一	(計) 円
同 十一年度	二六・六	一、六九八、九三三	(一日一哩) 円
同 十二年度	三三・五	一、九五五、二五九	
同 十三年度	三六・二	二、七〇七、八三三	
同 十四年度	四六・四	三、四三七、八八四	

第六章 補助

一 補助法規

一、沿革

私設鐵道に對する補助は大正三年度に初まり、其方法は各企業者に對する補助命令を以てし、會社拂込株式金額に對し年々の益金が一定の割合に達しない場合に其の不足額を補助することとし、歩率は同六年度迄は年六分とし七年度から之を年七分に上げ、更に八年九月から年八分に高めましたが、十年に至り同様の趣旨を法律に制定しまして、同年四月一日から朝鮮私設鐵道補助法を施行し、更に十二年四月一日改正を加へ從來の補助期限十年を十五年とし、補助金年額二百五十萬圓を三百萬圓とし、更に大正十四年四月一日之を四百五十萬圓に増額したのであります。

二、補助法の要旨

現行法の要旨は左の通りであります。

- 一、補助を與ふべき企業者は事實上株式會社多かるべく、又實際比較的多額の資金を必要とする爲株式會社の企業とするを便利と認め之を株式會社に限ることとした。
- 二、鐵道益金が鐵道の經營に要する拂込株金及鐵道の建設に要する社債、借入金に對し年八分の割合に達せない時其の不足額を補助する。
- 三、補助期間は會社設立登記の日より十五年以内とし、區間を分ち補助を爲す場合に於ては、該區間の爲に増加した拂込金額變更登記の日、又は増資登記の日、社債登記の日、若は借入金を爲した日より十五年以内とする。

四、補助金の年總額は四百五十萬圓とし其毎年度の豫算殘額は逐次之を翌年度に繰越し使用する。
 五、補助會社鐵道免許を取消され、又は免許の効力を失ひ、若は營業開始前解散したときは補助金を償還せしめる。

三、他 法 と の 比 較

本法は樺太地方鐵道補助法と同時に施行せられたものでありまして、補助金年總額に於て、樺太の補助法は五十萬圓であります。本法は之を四百五十萬圓と爲すの差異がある外、他は同一内容であり之を内地地方鐵道法と比較して左の如き差異があります。

内地法に於ては建設費に對し年七分の補助を運輸營業開始の日より爲す、但し補助金は年五分を超へ得ない。

朝鮮法に於ては拂込株金に對し年八分の補助を會社設立登記の日より爲す、但し補助金は年八分を超へることが出来ない。

朝鮮法に於ける補助期間は十五年であるが内地法は十年である。

右の如く本法に依る補助が内地補助法に比較して稍保護の厚いのは、兩地に於ける事情の相違に因るもので、其の差異を附することを必要とする事由は左の通りであります。

一、内地の私設鐵道は多く其の地方の土地關係者に依り企業經營せられるから、其經營より生ずる直接利益のみならず有形無形の間接利益を受けるのに反し、朝鮮では其民力未だ豊でない爲に土地關係者に於て企業能力少く、其の投資者は主として内地に於ける内地人で、殆んど此の間接利益を受けることがない。

二、投資者は多く内地在住者で遠隔の地である朝鮮の事情に付明確な知識を持つて居らない爲に、投資に不安を感ずることが多いので相當有利の補助を爲す必要がある。

三、内地私設鐵道の延長は大抵短距離であるから、會社設立から營業を開始する迄には多くの時日を要しないので、開業

前に補助を受けずとも苦痛が少ないが、朝鮮は私設鐵道の延長は長距離であることを普通とするから全通する迄長期に亘つて資金を固定さす不利がある。

二 補 助 成 績

一、沿 革

私設鐵道補助は大正三年度から開始しましたが、同年度に於ては補助金を交付するに至らず、同四年度に於て始めて全北輕便鐵道に對し一萬餘圓の補助金を交付し、次で五年から朝鮮中央鐵道(當時朝鮮輕便鐵道と稱す)を加へ同八年度迄の補助會社は此の兩者のみで、其の補助金額は同五年度三萬九千餘圓、同六年度四萬八千圓、同七年度十二萬六千餘圓、八年度二十一萬三千餘圓と年々遂増して大正九年度に入り新に南滿洲大興合名會社(後圖們鐵道株式會社と改稱す)、西鮮殖産鐵道、金剛山電氣鐵道、南朝鮮鐵道、朝鮮京南鐵道、朝鮮産業鐵道、朝鮮森林鐵道、兩江拓林鐵道の八社を加へ補助會社は十社を算し、同年度に支出した補助金は六十九萬圓、十年度は百三十四萬圓、十一年度は百八十三萬圓、十二年度は二百七十五萬圓、十三年度は三百二十五萬圓となり、十四年度は三百八十九萬圓、昭和元年度に於ては四百三十萬圓を豫算に計上したのであります。が大正十二年上記會社中、朝鮮中央鐵道外五社が合併して、朝鮮鐵道株式會社となりましたので、現在に於ては補助會社は六社であります。

二、補 助 成 績 表

大正七年度以降の各社別補助成績、並現在補助會社の要項を示せば各左表の通りであります。

私 設 鐵 道 補 助 成 績 表 (△ハ決損ヲ示ス)

同十二年	同十一年		同十年		同九年		同八年	
	上半年	下半年	上半年	下半年	上半年	下半年	上半年	下半年
同十二年 (自四月至八月)	1,500,000	1,500,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
同十一年	1,500,000	1,500,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
同十年	1,500,000	1,500,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
同九年	1,500,000	1,500,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
同八年	1,500,000	1,500,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
同十二年 (自四月至八月)	1,500,000	1,500,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
同十一年	1,500,000	1,500,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
同十年	1,500,000	1,500,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
同九年	1,500,000	1,500,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
同八年	1,500,000	1,500,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

朝鮮產業鐵道株式會社

南朝鮮鐵道株式會社

同十二年	同十一年		同十年		同九年		同八年	
	上半年	下半年	上半年	下半年	上半年	下半年	上半年	下半年
同十二年 (自六月至八月)	1,500,000	1,500,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
同十一年	1,500,000	1,500,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
同十年	1,500,000	1,500,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
同九年	1,500,000	1,500,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
同八年	1,500,000	1,500,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
同十二年 (自六月至八月)	1,500,000	1,500,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
同十一年	1,500,000	1,500,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
同十年	1,500,000	1,500,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
同九年	1,500,000	1,500,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
同八年	1,500,000	1,500,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

西鮮殖産鐵道株式會社

朝鮮中央鐵道株式會社

會社名

年度社會別計

平均資本額

收入

支出

差引益金

補助金

平均資本ニ對スル割合

益金

補助金

割合

朝鮮京南鐵道株式會社

同十一年	同十二年	同十三年	同十四年	同十五年	同八年	同九年	同十年	同十一年	同十二年	同十三年	同十四年	同十五年
上半期	上半期	上半期	上半期	上半期	上半期	上半期	上半期	上半期	上半期	上半期	上半期	上半期
1,971,233	3,164,658	3,059,153	4,097,534	4,377,835	1,510,000	2,510,000	3,464,848	995,351	1,848,255	2,339,135	3,239,135	3,500,568
下半年期	下半年期	下半年期	下半年期	下半年期	下半年期	下半年期	下半年期	下半年期	下半年期	下半年期	下半年期	下半年期
2,590,685	2,809,589	3,115,051	4,264,354	4,377,835	2,510,000	2,510,000	3,464,848	995,351	1,848,255	2,339,135	3,239,135	3,500,568
(平均資本) 7,194,000	(收入) 7,194,000	(支出) 6,826,000	(金) 5,126,000	(補助) 110,839	(金) 5,126,000	(補助) 110,839	(金) 5,126,000	(補助) 110,839	(金) 5,126,000	(補助) 110,839	(金) 5,126,000	(補助) 110,839

金剛山電氣鐵道株式會社

同十一年	同十二年	同十三年	同十四年	同十五年	同八年	同九年	同十年	同十一年	同十二年	同十三年	同十四年	同十五年
上半期	上半期	上半期	上半期	上半期	上半期	上半期	上半期	上半期	上半期	上半期	上半期	上半期
1,971,233	3,164,658	3,059,153	4,097,534	4,377,835	1,510,000	2,510,000	3,464,848	995,351	1,848,255	2,339,135	3,239,135	3,500,568
下半年期	下半年期	下半年期	下半年期	下半年期	下半年期	下半年期	下半年期	下半年期	下半年期	下半年期	下半年期	下半年期
2,590,685	2,809,589	3,115,051	4,264,354	4,377,835	2,510,000	2,510,000	3,464,848	995,351	1,848,255	2,339,135	3,239,135	3,500,568
(平均資本) 7,194,000	(收入) 7,194,000	(支出) 6,826,000	(金) 5,126,000	(補助) 110,839	(金) 5,126,000	(補助) 110,839	(金) 5,126,000	(補助) 110,839	(金) 5,126,000	(補助) 110,839	(金) 5,126,000	(補助) 110,839

圖們鐵道株式會社

同十一年	同十二年	同十三年	同十四年	同十五年	同八年	同九年	同十年	同十一年	同十二年	同十三年	同十四年	同十五年
上半期	上半期	上半期	上半期	上半期	上半期	上半期	上半期	上半期	上半期	上半期	上半期	上半期
1,971,233	3,164,658	3,059,153	4,097,534	4,377,835	1,510,000	2,510,000	3,464,848	995,351	1,848,255	2,339,135	3,239,135	3,500,568
下半年期	下半年期	下半年期	下半年期	下半年期	下半年期	下半年期	下半年期	下半年期	下半年期	下半年期	下半年期	下半年期
2,590,685	2,809,589	3,115,051	4,264,354	4,377,835	2,510,000	2,510,000	3,464,848	995,351	1,848,255	2,339,135	3,239,135	3,500,568
(平均資本) 7,194,000	(收入) 7,194,000	(支出) 6,826,000	(金) 5,126,000	(補助) 110,839	(金) 5,126,000	(補助) 110,839	(金) 5,126,000	(補助) 110,839	(金) 5,126,000	(補助) 110,839	(金) 5,126,000	(補助) 110,839

備考 一、政府補助率は全北鐵道は七年三月迄は六分、八年九月迄は七分、同年十月以降は八分、朝鮮中央鐵道は七年三月迄は六分八年六月迄は七分、同年七月以降は八分、外八會社は八分とします

二、本表中圖們鐵道に對する九年度分は當時南滿洲太興合名會社經營に屬し政府補助率は建設費を標準としました。

第七章 軌道

一 沿革

一、電氣軌道

朝鮮の電氣軌道は韓國政府時代に米國人「コールブラン」が特許を得て設立した韓美電氣會社に依り、明治三十二年四月京城西大門内から東大門を経て清涼里に至る線路を開通したのが嚆矢であります。同社は其の後京城府の内外に線路の増設をしましたが、明治四十二年度に至り邦人の組織に係る京城電氣株式會社（舊稱日韓瓦斯電氣會社）で之を買収し、爾來同社が新線路及復線工事の増設をなし現在營業線十九哩六分であります。

京城に次で電氣軌道を敷設した都市は釜山で、釜山電氣軌道は大正四年朝鮮瓦斯電氣株式會社が釜山郵便局前、釜山鎮間の線路を敷設し、之より前明治四十三年釜山軌道株式會社から買収した釜山鎮東萊間（私設鐵道の適用を受く）に電氣動力を併用することとし、其の後市内に軌道を増設し、現在軌道五哩五分で釜山鎮東萊間五哩八分を併せ合計十一哩三分であります。

京城及釜山以外の都市では久しく電氣軌道の敷設を見なかつたのでありますが、大正十二年に至り平壤府經營の下に同府内に電氣軌道敷設計畫があり、同年五月第一期線たる平壤驛前、新倉里間二哩を開通し、次いで同年十一月郵便局前から分岐し大同江橋梁を経て對岸に至る零哩八分を開通し、十四年七月新倉里大神宮前間零哩六分、同八月大神宮前箕林間零哩八分、及大同橋船橋里驛前間、零哩四分の延長線を開通しました。

二、瓦斯倫軌道

瓦斯倫軌道は咸平軌道株式會社が大正十五年五月許可を得昭和元年一月鶴橋咸平間四哩開通した外蘆島軌道株式會社が元年三月京城府外往十里蘆島間二哩に敷設の許可を得ました未だ工事に着手して居りませぬ。

三、手押軌道

一般運輸を營む手押軌道は韓國政府時代に平壤人車軌道が有つたのみですが其の後各地に之が敷設を見、現在咸北、倭館、金堤、清津、江景の各軌道敷設せられ、其の多くは停車場邑内間を連絡する一哩内外のものであります。

四、法規

軌道に關する監督法規としては、從來輕便鐵道令（明治四十五年制令第二十五號）を準用せられ、大正九年に至り同令は朝鮮私設鐵道令の制定に依つて之を廢止せられましたが「公衆の用に供する爲公共道路上に敷設する軌道に付ては仍從前の例に依る」この規定に依り、現在仍舊朝鮮輕便鐵道令を準用せられ其の附屬命令たる同令施行規則（府令）輕便鐵道及軌道の建設運輸其の他業務に關する件（府令）の適用があります。

右の如く軌道法規を暫定的に存続しましたのは最近内地に於て施行せられる軌道法及其の附屬命令に準據し適當の規定を制定せむとするもので目下之が調査中であります。

二 線路延長

昭和二年三月末現在に於ける軌道經營者の數は、電氣軌道二會社、一公共團體瓦斯倫軌道二會社、手押軌道二會社四個人で其の開業線哩數は三十九哩八分であります。

軌道哩數 明治四十三年度以降の軌道哩數は左の通りであります。

軌道累年哩數表

年 度	開 業 線	未 開 業 線	合 計
明 治 十 三 年 度	一四・五	一五・四	二九・九
同 十 四 年 度	一四・七	一四・九	二九・六
大 正 元 年 度	一六・五	二三・〇	三九・五
同 二 年 度	一七・九	二〇・四	三八・三
同 三 年 度	二二・二	二八・六	五〇・八
同 四 年 度	三四・八	一七・三	五二・一
同 五 年 度	三四・七	三・一	三七・八
同 六 年 度	二八・一	二・二	三〇・三
同 七 年 度	二八・四	六・九	三五・三
同 八 年 度	三五・一	〇・七	三五・一
同 九 年 度	三一・六	二・六	三三・〇
同 十 年 度	三三・〇	〇・七	三三・〇
同 十 一 年 度	三三・〇	二・六	三五・六
同 十 二 年 度	三六・八	〇・八	三六・八
同 十 三 年 度	三六・八	〇・八	三七・六
同 十 四 年 度	三九・二	二・〇	四一・二
昭 和 元 年 度	四三・六	三・五	四七・一

動力及軌間區別哩數表

(昭和二年三月末日現在)

次に現在軌道の開業線哩數を動力及軌間の種類別に示せば左の通りであります。

三 事 業 概 況

種 別	動 力			軌 間		
	電 氣	瓦 斯 倫 人 力	計	三 呎 六 吋	二 呎 六 吋	二 呎
哩 數	二九・五	三・八	一〇・三	二七・八	五・五	一〇・三
經 營 者 數	三	一	五	三	一	五
計	四三・六	四三・六	九	二七・八	五・五	一〇・三

朝鮮に於ける軌道の内、電氣軌道は都市の發達と共に漸次事業の進展を見、大正十五年に入り京城電氣軌道の延長線〇哩八分を加へ、其の開業線延長二十九哩八分となり、營業成績も逐年良好に向ひ、三電氣軌道共其の建設費に對する利廻は約一割に上つて居ります。手押軌道は鮮内各地道路の修築比較的發達し自動車營業盛んであり、且牛馬車運賃概して低廉なるため其の發達は頗る微々たるものであります。

各軌道に付事業の概況を略述すれば左の通りであります。

一、京 城 電 氣 軌 道

京城電氣株式會社の經營で開業線は複線十哩七分、單線八哩九分、合計十九哩六分に達し、軌間三呎六吋、軌條は大分六十封度を使用し、一部に四十五封度七十五封度又は百十四封度を使用して居ります。電氣方式は單線架空式で電力は自社發電所及金剛山電氣より供給を受け、客車輛數は五十八人乘電車九十一輛七十五人乘電車三十輛合計百二十一輛を有し、一日平均使用車輛は幹線七十九輛支線及郊外線三十一輛合計百十輛内外で乗車賃は府内を五錢均一にして麻浦、清凉里、往十里の郊外に至る線亦各五錢であります。

二、釜 山 電 氣 軌 道

本軌條は釜山府内五哩五分で私設鐵道の取扱を受ける釜山鎮東萊間五哩八分三合せ營業し、其の經營者は朝鮮瓦斯電氣株式會社であります。同軌道は全線を通じて單線でありましたが十三年度に至り府内線の過半を復線に改築し、軌間は二呎六吋、軌條は府内線の大部分に六十封度を、其の一部に四十五封度を使用し、東萊線は全部六十封度を使用して居ります。電氣方式は單線架空式で電力は自社發電所から供給して居ります。

車輛は三十六人乗電車七輛、四十人乗電車七輛、五十人乗電車十輛、計二十四輛で、運轉回数は一日平均府内線百六十回、東萊線五十三回、乗車賃は府内線を三區、東萊線を三區、合計六區に分ち一區各五錢であります。

三、平壤電氣軌道

平壤府營の本軌道は開業線復線二哩五分、單線一哩九分で軌間は三呎六吋、軌條は全線六十封度を使用し、電氣方式は單線架空式で電力は朝鮮電氣興業會社より供給を受けて居りましたが、本年より電氣府營を實行し、車輛は四十人乗電車十三輛、其の運轉回数は一日平均三百回とし、乗車賃は全線を四區に分ち一區五錢であります。

四、咸平瓦斯倫軌道

咸平軌道株式會社經營の本軌道は、開業線鶴橋咸平間單線四哩で、軌間三呎六吋、軌條は大体二十封度を使用するも一部に二十五又は三十封度を使用し、動力は「ガンリン」で車輛は三十二人乗二台を有し、運轉回数は一日八回、乗車賃は並等二十五錢であります。

五、各手押軌道

何れも單線で軌間二呎、軌條は倭館軌道の十八封度を除く外十二封度を使用し車輛は何れも臺車で客車は三人乗乃至六人乗、貨車は半噸積乃至一噸半積を使用して居ります。

軌道一覽表 次に軌道現況の一覽は左の通りであります。

軌道一覽表 (昭和二年末日現在)

經營者及主たる事務所所在地	區名	地名	哩程	軌間	動力	免年月日	許開年月日	建設費	記事
京城電氣株式會社 (京城)	京城	京城府内	一九・六	三・六	電氣	明治三二	米國人經營時代	三、二五、三三	最近ノ豫算ヲ計上ス
朝鮮瓦斯電氣株式會社 (釜山)	釜山	釜山府内	五・五	二・六	同	大正四、五、八	大正四、二、一	前出	私設鐵道欄ニ計上ス
平壤府	平壤	平安南道 驛前、箕林、新倉里、大同江支線	四・四	三・六	同	大正二、七、三	一一、五、三〇	六八〇、〇〇〇	
江景米穀信託株式會社 (江景)	江景	忠清南道 同邑内	一・〇	二・〇	人力	八一、一一	一〇、五、一一	一〇、〇〇〇	
奥村竹三郎 (金堤)	全羅北道	同邑内	一・三	二・〇	同	八、九、二	八、九、三	四、七、三三	
山形定衛門 (倭館)	慶尙北道	洛東江岸	〇・七	二・〇	同	九、三、七	九、三、七	三、五〇〇	
松木勝太郎 (清津)	咸鏡北道	清津府内	〇・六	二・〇	同	六、七、四	七、一、三六	四、四、九	
生氣炭粘土石炭株式會社 (生氣炭)	同	鏡城、生氣炭、鏡城獨津	四・七	二・〇	同	七、五、三	八、四、二	九、〇〇〇	
咸平軌道株式會社 (咸平)	全羅南道	鶴橋驛咸平	四・〇	三・六	ガンリン	一五、五、三	昭和一、二、一一	一〇〇、〇〇〇	
計			四・六					三、二七、五八五	

備考 此の外朝鮮軍經理部所有の清津羅南間十哩三分の手押軌道あり。

(二) 未開業線

經營者及主たる事務所在地	區名	道名	地名	哩程	軌間	動力	許年月日	建設費豫算	記事
崔順 貞外一名		咸鏡南道	自靈武驛至六拾里	二・	二〇	人力及牛車	一四、七、三	10,700	
嶽島軌道株式會社		京畿道	自往十島至嶽島	一・五	三六	ガソリン	昭和三十三、三	100,000	
計				三・五				110,700	

四 營業成績

軌道の十四年度に於ける營業成績は、旅客人員四千三百九十二萬五千六百八十九人、貨物噸數七萬六百四噸で、收入二百十萬三千四百圓、差引益金五十八萬七千六百六十九圓に上り、營業收入に對する支出の割合は七割二分であります。

各軌道運輸成績

各軌道最近五箇年の運輸成績は左の通りであります。

軌道名	年度	營業哩	乗客人員	貨物噸數	收入	支出	益金	一日一哩平均收入
京城電氣軌道	大正九年度	一七・四	三三、〇〇、七五四	三、〇五、〇五	一、一〇、〇〇七	九三、八〇四	二六、二〇三	一、九一四
	同十年	一七・八	三七、四七、七四〇	三、六六五	一、三六、一七六	九七、一〇七	三九、〇六八	二、一六五
	同十一年	一七・八	三三、〇六、九三四	八、七〇	一、五三、一五六	一、〇六〇、七六六	四三、三九二	二、三五六
	同十二年	一八・八	三三、〇五、四六八	一三、四五	一、六四、四七八	一、〇七四、〇二二	五四〇、四六六	二、四三九
	同十三年	一八・八	三三、六二、五九九	八、八五	一、五九、四五三	一、〇六六、九三五	五三、五八八	二、三九四
同十四年	一八・八	三三、八六、八四七	五、三〇	一、五七、四四六	一、〇五五、八〇八	五六、六三八	二、三〇三	

軌道名	年度	營業哩	乗客人員	貨物噸數	收入	支出	益金	一日一哩平均收入
朝鮮瓦斯電氣會社	大正九年度	一〇・七	二、三六、三三七	—	一五九、八〇九	一四三、六五六	一七、一五二	四〇、九二
	同十年	一〇・七	三、〇四、一五二	—	一九九、〇〇〇	一五、五六七	四三、四三三	五〇、九五
	同十一年	一〇・七	三、九七、七六三	—	二四八、六九一	一七、〇〇八	七、六六三	六三、六八
	同十二年	一〇・七	四、四〇、七五六	—	二七三、八七	一九九、一九八	七四、六九	六九、八五
	同十三年	一〇・七	四、七七、一三五	—	二六六、五八	二六、三三五	四八、三三	七三、三七
平壤府電氣軌道	大正十二年度	二・八	二、三二、七〇七	—	一一、五〇七	一一、〇四二	一、〇四二	一五、一三
	同十三年	二・八	二、五六、〇〇三	—	二四、七九七	二八、二〇八	三、四一一	二四、三三
	同十四年	四・三	二、九八、一六七	—	一九〇、九七二	一四七、八〇八	四六、八六	八九、八〇
	大正十年度	一・〇	一、八、七九二	—	二、二四五	二、四二二	一、一六八	六、九一
	同十一年	一・〇	五、〇八三	—	一、六三四	三、三四	一、六〇〇	四、四五
江景軌道	同十二年	一・〇	九〇七	—	三三	三〇〇	三	三、六八
	同十三年	一・〇	四、三三	—	二、九六一	一、一五三	一、八〇八	三、四〇
	同十四年	一・〇	一〇、五三五	—	二、二四一	二、二六五	△	五、八七
	大正九年度	一・三	一一、三六二	—	七、三〇七	六、九〇七	一三〇	一五、六三
	同十年	一・三	一一、一七	—	五、四九四	五、一三六	三五八	一一、五七
金堤軌道	同十一年	一・三	九、二五五	—	七、六六六	七、〇八八	五九八	一六、二〇
	同十二年	一・三	八、四〇九	—	七、八〇六	六、五六四	一、二三三	一六、四五
	同十三年	一・三	五、四七五	—	六、八三〇	六、五〇三	三二七	一四、三九
	同十四年	一・三	五、六〇九	—	八、〇六四	七、五〇〇	五六四	一八、四一

第三編 朝鮮鐵道の將來

第一卷 朝鮮鐵道の概況

第二卷 朝鮮鐵道の發展

Faint, illegible text on the right page, possibly bleed-through from the reverse side.

第三編 朝鮮鐵道の將來

第一章 線路調査

朝鮮に於ける統一的鐵道網を確定する事は、各種の事情よりして、夙に其必要を認められましたので、總督府は一定の年限内に實現を要するに認められる範圍で、線路數六十五延長約五千哩の調査選定を必要とし、大正六年度以降經常部の餘力を以て之を實施し、十一年度に至り臨時部の事業として施行する事となり、線路調査部を設け六ヶ年内に完了する豫定でありましたが、十二年兩整理の結果二ヶ年を繰延べ、八ヶ年の繼續事業として一ヶ年約六百哩の調査を爲さむ計畫で進み、十四年度に至り再び經常部の一部となり、差當り調査班二班を設け約四百哩（難區間は三百哩）を調査する事となつたのであります。

而して大正十五年十一月迄に地形調査を完了した本線は約三千二百三十哩、外に比較線約四百四十哩、計三千六百七十里に達しますが之を北部、中部、南部に分ちて主なる線の内譯を示せば次の如くであります。

(イ) 北部朝鮮に於て

輪城より羅津、慶興、慶源、穩城、鍾城を経て會寧に至る間

會 寧 古 乾 原 間

羅 津 鍾 城 間

鍾 城 慶 源 間

吉 州 惠 山 鎮 間
 咸 興 江 界 間
 順川より熙川、江界を経て滿浦鎮に至る間
 定州より龜城、朔州、清城鎮を経て新義州に至る間
 新義州又は南市より多獅島に至る間

(口) 中部朝鮮に於て

葛麻より襄陽、蔚珍、盈德、浦項、蔚山を経て釜山鎮に至る間
 京城より春川を経て金化に至る間
 京城より楊原、横城を経て江陵(東海岸)に至る間
 京城より忠州、安東を経て大邱に至る間
 春川、長湖院間
 水原より驪州、原州を経て横城に至る間
 安東、盈徳間

(ハ) 南部朝鮮に於て

大邱より高靈、居昌を経て南原又は仙川に至る間
 木浦或は羅州より河東に至る間
 松汀里、寶城間
 光州、筏橋間

金泉より居昌、晋州を経て三千浦に至る間
 裡里より全州、南原、順天を経て麗水に至る間
 裡里より全州、仙川、安義、高靈を経て大邱に至る間
 以上の外狭軌を以て調査したもの各所合計約百六十一哩あり、尙本線の經濟調査は鋭意其の歩を進め、大正十五年 度迄に左の區間を終了しました。

葛 麻	釜 山 鎮 間	三 八 七 哩
雄 基	潼 關 鎮 間	九 七 哩
吉 州	惠 山 鎮 間	八 八 哩
順 川	滿 浦 鎮 間	一 七 八 哩
晋 州	全 州 陽 州 間	一 五 六 哩
院 村	麗 水 間	二 四 哩
順 天	麗 塘 間	八 四 哩
順 天	龍 榮 間	二 四 哩 七 分
龍 沼	三 榮 間	一 五 哩 四 分
唐 津	海 南 間	四 六 哩 四 分
筏 橋	光 州 間	三 五 哩 七 分
寶 城	光 州 間	

尙大邱より安東、醴泉、丹陽を経て忠州に至る間は既に其調査を了し目下其延長線である忠州京城間を調査中でありま

鐵原南川間	四六〇〇
土城より海州、猪島に至る間	一三九〇
春川杆城間	七三〇〇
清風より堤川、都麻に至る間	九八〇〇
丹陽寧越間	三二〇〇
醴泉蔚珍間	七二〇〇
義城永川間	四二〇〇
金泉三千浦間	一〇七〇〇
泗川統營間	三〇〇〇
釜山鎮永登浦間	二七三〇〇
京城南市間	二八一〇〇
計	一、九九〇〇

復線添設調査

羅津輪城間	五三〇
古茂山山間	三四〇
合水茂山間	九二〇
長津甲山間	五四〇
北青甲山間	九九〇
長津より原州、古邑に至る間	五一〇
新安滿浦鎮間	一一四〇
溫井寧邊間	七一〇
北倉軍隅里間	六〇〇
勝湖里岐倉間	四三〇
南川五柳洞間	七七〇
新溪三登間	四九〇

地形調査未済豫定線路

區

間

線路延長

記

事

線路延長は概略の數字なり以下同じ

然るに約五千哩を目的とする朝鮮鐵道網を設定しようとするには、昭和二年度以降に於て、尙地形調査を要するもの約二千哩比較線其他二割を加へ計二千四百哩であります。概して難區間に屬しますから、調査班は從來の如く之を二班に分け、作業日数を延長して一ヶ年約六百哩宛、四ヶ年を以て終了し、此間別箇の班を以て經濟調査をも完了せんとする豫定で、將來調査を實施すべき見込線路は左の如くであります。

第二章 國有鐵道新規計畫

一 概 說

朝鮮の開発は産業の振興を第一義とし、産業の隆興は交通機關の普及に俟つ所極めて大なるものがあり、上述の如く從來鐵道の普及速進に對しては相當努力したのでありますが、十四年度末に於ける營業哩が本州、北海道、臺灣等と比較して甚だ幼稚の域を脱しない事、總說に於て之を述べた通りであります。

朝鮮の面積は一萬四千三百二十方里で本州の約九割五分に當り、陸には五百萬町歩に餘る農牧の適地を有するのみならず、國境及脊髓山脈には千古斧鉞を入れざる鬱蒼たる處女林を擁し、是れが蓄積量約十億尺縮を算し、地下に埋藏する石炭は其經濟的有效量十億噸以上と稱せられ、又到る處金銀其の他の金屬を藏し延長一萬餘哩に亙る沿海には幾多の魚介棲息し、内部山地には無限の水力を藏し低廉なる勞力と相俟つて工業發達の餘地多大なるに拘らず、全鮮總産業の年額が、尙未だ十六億圓に過ぎないで、僅に資源の一部が開發の緒に就いた程度を出ないのは、主として鐵道普及の密度が甚だ稀薄である爲に、天與の富源も空しく埋藏せられ、之が開發の途なきに因るのであつて、加ふるに八百餘哩の長きに亙る露支邊疆の國防、警備亦交通機關の整備を急いで居るのであります。

抑も朝鮮産業の開発は、獨り半島二千萬の民衆を安定せしむる所以なるのみならず、帝國の人口食糧、及燃料問題を解決し、進んで現時の輸入貿易を轉換せしめ得るもの亦尠くない、而して産業の開発を圖るには鐵道の普及を前提としなくてはならない、即ち朝鮮鐵道の普及速進を圖るに云ふ事は、獨り朝鮮内に於ける急務であるばかりでなく、實に帝國喫緊の要務に屬するので、本府は大正六年以來將來敷設を必要とする諸線に就き着々調査の歩を進め、茲に昭和二年度以降十二年間の鐵道敷設計畫を樹て、幸にして第五十二議會に於て上下兩院の協賛を経、之が實現に向つて進む事になりましたが、右は帝國財政の現状に鑑み最低限度の計畫でありまして、將來國運の進展に伴ひ更に本計畫を擴張せしむるの必要があるものであります。

以下新規計畫の要領を述べます。

一、新線の建設

新線路の建設は、比較的少額の經費を以て、其の効果の大なるものを選び次の五線を豫定しました。

圖 們 線	雄 基	潼 關 鎮 間	九 十 七 哩
惠 山 線	吉 州	惠 山 鎮 間	八 十 八 哩
滿 浦 線	順 川	滿 浦 鎮 間	百 七 十 八 哩
東 海 線	蔚 元 山 山 村	釜 浦 山 項 間	三 百 四 十 一 哩
慶 全 線	晉 院 村	潭 全 州 陽 間	百 五 十 六 哩
合 計			八 百 六 十 哩

右建設線中圖們線、惠山線及滿浦線は主として石炭、木材の搬出に便し、隣接地帯に經濟上の接觸を爲し、併せて國防警備上貢獻する所あらしめむとするもの。

東海線は、主として脊髓山脈の石炭、木材、礦物、及東海の海産物の開發搬出に便し、以て東海岸未發の地を拓き、咸鏡線と連絡して、東部縦貫線を形成せしめむとするもの。

慶全線は釜山方面と湖南方面とを連結して、慶南と全南及全北の寶庫の交通に便し、南鮮に於ける横斷線を形成せしめむとするものであつて、新線の建設は拓殖鐵道の使命を果たす事を第一義とするものでありますから、其工事は地方の状

況に應じ多少の小曲線、急勾配を使用し、可成隧道等の難工事を避け木材の豊富な地方に在つては、橋梁其の他の建造物を假構造とし、務めて建設費の低減を圖る事致しました。

二、私設鐵道の買収

次に新線建設に伴ひ、其の間に介在する現在の私設鐵道線左記二百十哩を買収して、國有の經營に移せんとするものであります。

朝鮮鐵道會社所屬	慶南線	馬山晉州間	四十三哩五分
同	全南線	松汀里、潭陽間	二十二哩七分
同	慶東線	大邱、蔚山間 西岳、蔚山間	九十二哩
全北鐵道會社線		裡里、全州間	十五哩五分
圖們鐵道會社線		會寧、潼關鎮間	三十六哩一分
計			二百九哩八分

上記買収線中、朝鮮鐵道會社所屬慶東線、及全北並圖們鐵道會社線、合計百四十三哩六分は狹軌でありますから、買収後之を廣軌に改築し、右買収は總費額約二千六百七十餘萬圓で、各線の事情及政府財政の都合を斟酌し、昭和二年度以降五ヶ年間に之を實施せんとするものであります。

三、既設線路及車輛改良

既設線は概して開業當時の運輸狀態に適應せしめ、速成を期したものでありますから、運輸の發展に伴ひ之が改良を要するもの頗る多いのですが、今回の計畫中には既設線に於ける車輛の整備改良、並軌條の更換、船車連絡、各線擴張等の眞に緊急止を得ないもののみを計上したのであります。

四、建設及改良費

次に本計畫に屬する建設改良費は、既定計畫に屬するもの八千九百九十萬八千六百六十圓の外、新規計畫に屬するもの二億三千九萬一千八百四十圓總計三億二千萬圓で、其の内譯は下の如くであります。

建設費總額	二五、一、五七、一、二六六 <small>(内車輛建設費二五、五六二、一〇〇圓を含む)</small>
内譯	
既定建設費	七、七、四二八、九三二 <small>円</small>
新規建設費	一、七、四、一四二、三三四
圖們線	一、七、〇八三、三五八
惠山線	一九、二七四、二九五
滿浦線	四六、六三九、三七九
東海線	六三、〇〇〇、一七四
慶全線	二八、一四五、一二八

改良費總額	六八、四二八、七三四
内譯	
既定諸改良費	一、二、四七九、二二八 <small>円</small>
新規改良費	五五、九四九、五〇六

買收線改良	一五、七五四、一五七 ^四
既設線改良	二二、一九五、三四九
既設線車輛増備並改良	一八、〇〇〇、〇〇〇

右建設改良費の總額三億二千萬圓は、年額一千九百萬圓乃至三千萬圓にして、昭和二年度以降十三年度に至る十二ヶ年間に支出せむとするものでありまして、各線の概要は次の如くであります。

二 圖 們 線

圖們線は、雄基鐘關鎮間を連絡する延長九十七哩の線路で、其建設費一千七百八萬三千圓（百圓以下四捨五入以下同じ）内車輛費百四十五萬五千圓を含むを以て二年度以降六年度迄に支出し、四年度に於て雄基阿吾地間二十八哩六分を建設し、爾後之を延長して六年度に於て買收線會寧鐘關鎮間を併せ全通せしめる豫定で、線路の最急勾配八十分の一、最少曲線半徑の十五鎖とし、江岸其他小曲線の利用に因り隧道等の難工事を除き得る區間は、最少半徑を十鎖迄低減し、十五鎖未満の區間に於ける線路建造物、及特に適當に認めらるる橋梁は之を假構造とし、軌條重量は本線に於て一碼七十五封度、側支線に於て六十封度を使用する豫定であります。

而して本線の通過地域は、朝鮮北端の開港場である雄基を起點とし、大約圖們江岸に沿つて、北西に進み、阿吾地、慶源、訓戎、穩城を経由して、圖們鐵道の終點鐘關鎮に達するものであり、沿線には頗る豊富な石炭、木材を有し、未耕地の開拓に依る農産物の増産額亦豊富なるべきあり、完成の曉に於ては間島及琿春地方無盡藏なる木材並農産物を搬出し、將來吉會鐵道の完成に相俟つて北滿地方に連絡し、經濟上は勿論、國防及警備上頗る重要な線路であります。

今本線圈内に於ける各種資源の状態を概述すれば

一、石 炭 (有煙炭)

現在稼行せる炭礦は、清津以北に於て七箇所に達し、其内年額一千噸以上を産出するもの十四年度に於て、會寧炭一萬八千噸（千以下四捨五入以下同じ）鳳儀炭四千噸、鷄林炭一萬六千噸、竹浦炭二千噸等でありまして、新線開通に依り將來稼行を開始すべく豫想される炭田の主なるもの、及其埋藏量の概約は

穩 城 炭 田	一 千 四 百 萬 噸
訓 戎 炭 田	二 千 七 百 萬 噸
開 拓 洞 炭 田	三 千 三 百 萬 噸
古 乾 原 炭 田	五 千 萬 噸
阿 吾 地 炭 田	三 千 五 百 萬 噸

等、計約一億六千萬噸であり、現在稼行せる各炭礦亦益々其産出を増加すべく、加ふるに間島及琿春の各炭田あり、之等産炭の品質は内地茨城炭及宇部炭に比し、同等以上に位するを以て、將來需要を激増するに至るべく、會寧以南咸鏡沿線に於ける産炭に相俟ち、裏日本との至便なる交通に依り内地燃料問題解決の一助に資せんとするものであります。

二、木 材

木材の本線沿線に於ける生産高は大正十四年度に於て四十六萬八千尺に達し、之が搬出の方法は多く水流即ち流筏に依るものであります。朝鮮の如き晴雨の偏する所では運搬の確實性に乏しく、旱魃時は流筏が激減し或は之を不能ならしめ、雨期は洪水多く流筏不能なるか或は全然流失するに至り、適當なる水位を得難く、従つて其供給頗る不安を免れず、且つ流筏に適するものは針葉樹のみで闊葉樹は殆んど流下されない状態であり、概略の調査に依れば、對岸支那を含む會寧下流の圖們江流域に於ける畜積は約三億尺に達し、其多くは老齡に達して居りますから、將來の需要増加に伴ひ

之を安價なる鐵道運賃に依り搬出し、鮮内の自給自足を圖るのみならず、更に東滿洲に於ける豊富なる木材を本鐵道に依り北鮮の港灣に達せしめ、海路之を裏日本に送り得るのであります。

三、農 産 物

本線の圏内の面積は百五十七方里餘で、大正十四年十月一日現在に於ける人口八萬二千餘人、一方里當り五百二十一人に過ぎず、既耕地四萬二千町歩、未墾地七萬二千町歩を有し、其内米産額のみを見れば、水田の既墾地僅に九百五十四町歩（十五年七月現在、以下同じ）に過ぎず、未墾地二萬二千町歩を有し、將來の推定に掛る米産額の増加は約四十萬石、麥は同じく現在約一萬四千町歩の既耕地を有し、尙未耕地二萬二千町歩あり、此増産見込額約二十九萬石で、何れも新設計畫線中の第一位を占め、其他大正十四年末現在の調査に依る農産物の生産額は、豆類四十萬八千石、馬鈴薯一千二百五萬八十貫、雜穀九十七萬四千石、大麻二萬四千貫、綿麻布二萬六千反、畜牛九千六百頭等でありまして、將來本線の完成に依り其前途は頗る囑目に價するものであります。

四、其 他

其他本線内に於ける鑛産物は金、銀、銅、鐵、等の鑛區十四年末現在に於て十六區を有し、新線の建設に依り益々増加の傾向に在り、如上鮮内に於ける各種の産物に加へ更に東滿洲の各種無盡藏なる富源を控へ、一方其人口密度は咸鏡北道平均に於て四百七十四人にして全線第一の下位に在り、加ふるに、雄基、清津、羅津等の各港灣は、日本海を通じて裏日本との捷徑に至れるを以て、帝國の人口、食糧、及輸入貿易の轉換等に甚大の關係を有すべく、本線の使命は極めて重大であります。

三 惠 山 線

本線は咸鏡線吉州に起り鴨綠江岸惠山鎮に達する延長八十八哩の線路で、其建設費は一千九百二十七萬四千圓（内車輛費百三十二萬圓を含む）を昭和二年度以降十二年度迄に支出し、八年度に於て吉州合水間三十三哩を開通し、十二年度に於て完成せんとするもので、線路の最急勾配三十分の一、最少曲線半径十鎖とし、合水、安所間南雲峯の峻嶮には一部ス井ツチバツクを使用し、特に適當に認むる橋梁其他の建造物は之を假構造とし、軌條の重量は本線七十五封度、側支線五十封度を使用するであります。

而して本線は、圖們鴨綠兩江上流に於ける大森林を、直ちに日本海岸に結ぶ交通路となり、地方の開発、及國防並警備上重要な線路であります。今大正十四年末調査に掛る本線の勢力圏内に於ける主要物産の品目數量を擧げます。

木材蓄積量、一億五千萬尺縮（對岸支那を含まず）で圖們線と同様、内鮮木炭問題の解決に資する爲其搬出を容易ならしめんとし、農産物に於ては米は現在の耕地僅に四百六十町歩に過ぎず、未墾地一萬八千町歩を有し、將來の推定増加量三十三萬二千石に達し、麥は現在一萬七千町歩の既墾地、及八萬六千石の産額を有するも新線開通の曉に於ては、未墾地一萬八千町歩の開拓に依る增收二十三萬九千石を豫想され、其他燕麥十六萬七千石、豆類三萬六千石、雜穀二十萬石、馬鈴薯八百七十七萬九千貫、大麻九萬二千貫、畜牛二萬七千頭、牛皮四萬斤、麻布五萬八千反を算し、工業品としては陶磁器五萬四千箇、鐵鑄物二萬九千箇、澱粉六萬二千斤木製品二千箇を産し、其他石炭鑛區五、砂金鑛區二、雲母鑛區三を有し、其面積四百六方里、人口十萬二千人で一方里當りは僅々二百四十八人に過ぎず、農産物の増加、木材工業の勃興等に依り帝國の人口及食糧問題に對し相當の貢獻を爲すべき豫定であります。

四 滿 浦 線

本線は目下建設工事中に屬する平元線順川を起點として、滿浦鎮に達する延長百七十八哩の線路で、其建設費四千

六百六十三萬九千圓(内車輛費二百六十七萬圓を含む)は二年度以降十三年度迄に支出し、線路は昭和七年度に於て順川軍隅里間二十四哩を開通し、以後順次之を延長して十三年度に全區間を開通する豫定であります。線路の最急勾配は八十分の一、最少曲線は半徑二十鎖を標準とし、狗峴嶺の峻険を通過する區間は、最急勾配を三十分の一として勾ス井ツチバックを使用し、又小曲線の利用に依つて隧道等の難工事を避け得る區間は、最小半徑を十鎖迄低減し、特に適當な橋梁及小曲線使用區間の線路建造物は假構造とし、軌條重量は惠山線同様七十五封度及六十封度であります。

本線の通過地は、順川より北進して軍隅里(价川附近)に出で、清川江に沿ひ更に北上し新興、熙川を経て狗峴嶺を突破し、夫より鴨綠江支流の禿魯江岸を下り、武坪、江界を経て江岸浦浦鎮に達するもので、沿線並奥地に於ける石炭、礦物、木材、農産物を搬出するのみならず、通化を経て滿洲中部に通する要路を形成し、地方の産業を開發するに共に、國防及警備上極めて緊要な線路であります。今本線勢力圈内に於ける各種富源の概要を述べます。

一、石 炭 (無煙炭)

本線圈内に於ける石炭は多く無煙炭で、其埋藏總量約三億五千萬噸を稱せられ、礦區は順川、盈山、徳川、价川、寧遠の五郡に亘り、其面積一億坪、炭層の露出四十餘里に亘り、品質は良好で漆黒色を呈し光澤強く質滑かな不粘結性で、多くは粉狀を呈し、固定炭素分に富み發熱量大で、粉炭の儘或は之を煉炭として有効に利用せられるものであります。將來本線の開通に依り漸次採掘されるに至るべく、主なる炭鑛別の埋藏概量は左の通りであります。

順川	炭田	一億噸
价川	炭田	八千萬噸
寧邊	炭田	二千萬噸
徳川	炭田	一億五千萬噸

二、木 材

木材は本線圈内に於ける官、私所有林其の他を合して其の蓄積量概算一億三千万尺締(對岸支那を含まず)を稱せられ、其の多くは相當老齡に達し、其中營林廠江界支廠の管區に屬するものは、潤葉樹四千五百五十一萬尺締(管内蓄積量の三分の二)を占め、鴨綠江水運に依る流筏不可能で、大部分のもの亦鐵道輸送を行ふに至るべく、本線の開通に依り、用材及薪炭材として鮮内の需要を満し得るのみならず、圖們線、惠山線と相俟つて帝國の木材問題にも關連を有し、十四年に於ては木材五十六萬六千尺締、薪炭二億二千四百二十七萬六千斤の生産額を示して居ります。

三、鑛 物

大正十四年調査にかゝる本線圈内に於ける鑛區は、鐵鑛二十九、金鑛二十一、砂金十、黑鉛二十四、金、銀、鉛、亞鉛鑛其他を合して二十八鑛區あり、其内价川鐵鑛は十四年度六萬三千噸の産額あり、輕便鐵道に依り三菱兼二浦製鐵工場に輸送し、黑鉛一千三百餘噸の生産を示して居りますが、本線開通の曉は各工區の産額を増し又は新に鑛區を設定するものも生ずべく、鑛業の勃興に寄與する所亦尠くないのであります。

四、農 産 物 其 他

大正十四年末調査に掛る圈内農産物の生産額は、米十萬六千石、麥四萬七千石、豆類二十四萬五千石、雜穀六十七萬三千石、棉花十萬二千斤、蓄牛六萬六千頭、牛皮八萬七千斤、繭一萬六千石、麻綿布二十二萬一千反に達し、現在耕地面積二十七萬三千町歩、其内番(水田)一萬四千町歩、田(畑)十五萬八千町歩を有し、將來既耕地の改良及未墾地の開拓を合して、米の増産見込額十六萬七千石、麥同じく三十八萬二千石を算し、圈内一方里人口密度は僅に五百二十三人に過ぎず、以上各種資源の開拓は本線の使命とする所であります。

五 東 海 線

本線は朝鮮東海岸を走り、元山釜山間を通せんじするもので、葛麻、浦項間二百九十七哩、釜山鎮蔚山間四十四哩、計三百四十一哩を新規に建設し、別に蔚山浦項間四十六哩、大邱慶州間四十二哩の狹軌線を買収し之を廣軌に改良し以て、東海線を完結し半島第二の從貫線を形成するに共、良港に乏しき此地方の豊富なる海産物の集収に便し、通川炭其他の礦産物及白頭連峯林産物の搬出を容易ならしめ沿線を開拓し、旁々金剛山の探勝に便するものでありまして、新線の建設費六千三百萬圓（内車輛費五百一十一萬五千圓）は之を昭和二年度以降十三年迄に支出し、昭和二年度に於て一部の土工を起し、爾後南北より漸次工を進め十三年度に於て之を全通せしめ、線路は最急勾配八十分の一、最少曲線半徑二十鎖し小曲線の利用に因つて隧道其他の難工事を避け得る區間は其半徑を十鎖迄低減し、其他假構造するもの及軌條重量は前項各線と同様であります。

次に本線の通過地、沿線物資及之が敷設を必要とする理由の概略を述べます。通過地は、京元線葛麻に起り安邊、通川、高城、襄陽、江陵、三陟、蔚珍、盈徳、迎日、慶州、蔚山、東萊の十二郡を從連し、釜山鎮に於て京釜線に結ぶものでありまして、其勢力圏内面積は、元山釜山兩府を除き實に七百三十方里に及び、九州本地（二千三百二十方里）の三割二分、四國本地（千五百一十方里）の六割三分に相當するのであります。

大正十五年三月の調に依れば、私設鐵道及軌道を含み九州には一千六百七十九哩、四國には三百七十五哩の鐵道を有しますが、東海線は僅に一小局部に五十餘哩の狹軌鐵道を有するに過ぎずして、交通の不便、産業の不振、文化の低級、民度の貧弱なる事推して知るべく、東は日本海に面すも雖も良港なく、海岸線の延長二百餘里中、港灣を稱し得るものは、釜山、元山二港の外に之を見出し得ず、朝鮮郵船會社の寄港地及指定港は所々ありますが港灣の設備なく、少しく風浪高

ければ碇錨する事が不可能なのであります。

人口は大正十四年十月一日現在にて、元山、釜山を除き九千九萬二千人、一方里二千三百六十人でありましたが、猶増加の餘裕綽々たるものがあり、耕地面積は尙七萬九千町歩、田七萬八千町歩あり、其主なる生産は最近の調査に依れば、米七十八萬石、麥六十九萬石、豆二十三萬石、雜穀二十一萬二千石、生牛十萬六千頭、牛皮十三萬五千斤、麻綿布三十三萬八千反、棉花百七萬九千斤、大麻十四萬九千貫、馬鈴薯三百七十二萬二千貫、繭九千石、麩子（朝鮮麩）五萬二千個、葉煙草十四萬七千貫等であつて、尙未墾地七千七百町歩を有し土地肥沃、氣候溫暖でありますから、將來土地及農事の改良に依り米麥を合して百萬石を増收し得べき見込充分あるのであります。

次に、海には暖寒交流し、種々の魚介棲息し到る處漁港あり、其水揚高は確たる數字不明であります。十四年の調査に依れば、魚類約三千四百四十萬貫、海藻百四十萬貫、魚肥七十三萬四千貫、魚油四千石、罐詰四千打、食鹽二百二十七萬斤の産額を稱せられ、陸上交通不便の爲其漁獲物の處理困難であつて、空しく抛棄するの已むなきに至るもの多々あり。云ふ、魚額の産高増加は實に東海岸地方開發の爲のみならず、帝國の保健食糧品問題として看過すべきではないのであります。

木材は白頭連峯及其附近に多く、本線に搬出見込蓄積概算一千五百萬尺綿あり、十四年調査に掛る林産品は四十三萬二千尺綿、木炭百二萬四千貫、薪二十三億四千四百八十七萬斤、朝鮮紙七千塊等であります。木材は水運を利用して搬出するもの僅少なので、多くは枯死を傍觀するの已むを得ざる状態であります。

次に礦産物としては通川産、江陵炭、三陟炭、所達炭、黔川炭、寧海炭、迎日炭、長鬚炭、等調査中に屬するもの多きも、殆んど無盡藏を稱せられ、特に黔川及所達炭は無煙塊炭でありますから、燃料問題解決上重要な使命を有し、其他、金、銀、黑鉛、亞鉛、砒等があり、已に許可せられたもの八十九礦區に達して居りますが、交通不便の爲稼行中のもの二

三鐵區、十四年度調査に依れば石炭七千噸、鑛石十一萬四千貫を産したに過ぎず、尙漸次新に發見せらるゝもの多く、本線開通の曉には死藏せる天然物の開發を激増するに至るべきでありませうが、以上の状態にて、該地方は文化の恩澤に浴せず、産業亦頗る幼稚でありますから、本鐵道は地方の開拓は云ふに及ばず、人口、食糧、燃料及木材等の諸問題の解決に對して重要な使命を有して居るのであります。

猶本線は咸鏡線と相俟つて第二の從貫線となり、咸鏡南道と釜山方面を結ぶ要路を成し、現在の京元及京釜線經由に比し二十六哩を短縮し、此方面に於ける貨客の負擔を軽減すること甚大であり、從つて咸鏡線の活動力を増加し、將來吉會線が全通して北滿地方の貨客を輸送する場合が來ましたならば、現在の最急勾配四十分の一である京元線では、輸送力の不足を告げるに至るべく、或は京釜線に事故あるに際し、滿洲一圓の間は確實にして迅速な輸送を要する場合に、本線を利用する事は最も有利な事なのであります。

六 慶 全 線

本線は朝鮮鐵道慶南線晉州に起り、南江支流に沿ひ西進し、河東、光陽、順天を経て北上松峙を貫き、谷城、院村、南原、任實を経て全北鐵道の全州に達し、全北線の廣軌改築と相俟つて、湖南線裡里を経て群山に直通し、一方院村より分岐して西進し朝鮮鐵道全南線潭陽に達し、松汀里を経て木浦方面に連絡し、南鮮に於ける東西を接続する捷路を形成するもので、慶尙南道及全羅南道三道の産業を開發し、多島海の豊富な海産物の輿地移送に便し、木浦、群山及釜山の三大要港を連絡する重要線であります。

本線の建設は之を晉州全州間百三十二哩、院村潭陽間二十四哩計百五十六哩とし、建設費二千八百十四萬五千圓（内車輛費二百三十四萬圓を含む）は之を昭和二年度以降九年迄に支出し、四年度に於て買收線全北鐵道の萬傾江橋梁改築、廣

軌改築等に依り、五年度、裡里仙川間十三哩を開通し、爾後潭陽及晉州の兩方面より工を起し、九年度之を全通せしむべき豫定でありまして、線路最急勾配四十分の一、最小曲線半径十五鎖とし、小曲線の利用に因り隊道其他難工事を避け得る區間は最小半径を十鎖迄低減する事とし、軌條の重量は新規各線と同様であります。

次に本線圏内に於ける各種物産の状況を見ますと、大正十四年農産物の生産高は、米二百萬石、麥百萬七千石、豆類百十五萬二千石、雜穀三萬八千石、棉花一千二百二十四萬八千斤、大麻四十九萬九千貫、果物十五萬六千貫、蕤叭八十三萬四千枚、繩七十二萬三千貫、葉蓼三十二萬五千貫、生薑二十萬六千貫、蓄牛六萬頭、牛皮八萬六千斤を算し、右の内米は現在耕地面積八萬町歩あり、尙將來開拓し得べきもの七千町歩、兩者を合し農事改良に伴ふ米産増加豫想八十四萬三千石に達し、麥は現在作付反別一萬六千町歩、未墾地一千町歩あり、同じく増收豫想九萬六千石を算し、頗る有望であります。其他工産品としては麵子九十八萬九千個、朝鮮紙五千塊、竹細工品七十四萬個、麻綿絹布六十八萬四千反、繭一萬五千石を産し、水産品の漁獲高百十萬四千貫、水産製造高三十八萬八千貫、製鹽二萬七千斤、海苔代價二十萬四千圓に達し、金銀其他の鐵區は合計三十四鐵區でありまして、何れも本線開通の曉に於ては其生産高を増加すべき事、疑を容れないのであります。

七 私設鐵道の買收及改良

前述國有鐵道新規建設線竣成の曉に於て、其中間に介在する私設鐵道五線二百九哩八分を算しますが、運轉、營業其他の見地よりして之を買收し、統一經營を行ふの必要がありますので、買收費二千六百七十餘萬圓は、昭和二年度以降五年に亘り交付公債に依り支辨し、其内狹軌線に對しては之を廣軌に改築せんとするものであります。其内譯は左の如くであります。

朝鮮鐵道會社所屬	慶南線	馬山晉州間	四十三哩五分
同	全南線	松汀里潭陽間	二十二哩七分
同	慶東線	(大邱鶴山)間 (西岳蔚山)間	九十二哩
全北鐵道會社線		裡里全州間	十五哩五分
圖們鐵道會社線		會寧潼關鎮間	三十六哩一分
計			二百九哩八分

右の内慶東線、全北及圖們的三線計百四十三哩六分は何れ狹軌でありまして、差當り標準軌間の列車運行に差支なき程度に於て半徑十鎖以下の小曲線を改築し、將來改良を要する區間に於ける橋梁其他の建造物は之を假構造とし、軌條は大體既設線に於て重軌條を交換すべき七十五封度及六十封度軌條を再用充當し、此改築費豫算額一千五百七十五萬四千圓(内譯、全北線二百十五萬圓、慶東線九百萬圓、圖們線四百六十萬二千圓)は、昭和二年度以降十一年迄に之を支出し、以て新規建設線の開通に應ぜしむべき豫定であります。現在に於ける私設鐵道は其二三の會社を除き何れも成立後多くの時日を有せず、事業資金の多くは建設に投資せられ、財界の不況に伴ひ今後建設資金の調達極めて困難な事態に在りますので、買収に依り資金を得せしめ、更に私鐵として新線の延長をも促進せしむべき豫定であります。

八 既設線の改良

既設線の改良は、既に議會の協賛を経て之が實施を爲しつゝあるものゝ外、新に十二年計畫に依り行ふべきもの概ね左の如くであります。

(イ) 停車場設備の改良

停車場設備の改良は、列車運輸回数の増加、支線及私設鐵道との連絡關係頻繁なるに伴ひ、作業能率を増進せしむる爲、連絡設備、貨物作業場の擴張、貨物及乗降場上屋の新設、第一種聯動裝置、給水設備の改良、機關車庫改築其他諸設備の改良を行ひ、以て業務の進展に適當せしめんとするのであります。

(ロ) 線路の改良

線路の改良は、將來重量機關車の運轉、速度及列車回数の増加に適應せしめ、京釜、京義線中七十五封度軌條の約半數を百封度軌條に敷替へ、之により發生すべき七十五封度軌條を利用し、湖南及平南線に於ける六十封度軌條を交換し、京城、龍山間を復々線、永登浦、仁川間及釜山鎮、三浪津間の一部に復線敷設し、尙各年出水被害の状況及解氷期に於ける状態に鑑み、線路基面上昇、及橋梁徑間増設、切取内に於ける土石墜落防止、及隧道延長工事等を施行し且つ京釜、京義本線中、急曲線區間に緩和曲線を挿入し、以て線路及列車運轉の保全を期せんとするものであります。

(ハ) 木材防腐設備

線路枕木及電柱等の耐久年限の延長を計る爲、一年約二十萬挺の枕木及其他の防腐濟注入設備を行ふ豫定であります。

(ニ) 停車所其他の新設

列車回数増加の必要に應じ、各驛間長距離の箇所信號所を設置し、尙簡易驛に於ける列車行違ひ設備を爲す豫定であります。

(ホ) 通信設備改良

列車回数増加に伴ひ、配車及運轉整理等の迅速を期する爲、京義線に指令電話を設置し、且京釜、京義、京元、咸鏡の各線に長距離電話を増設し、其他通信設備の改善を計らんとするものであります。

(ハ) 海陸連絡及貨物集配設備

船車連絡及貨物集配上必要な引込線、操車線、待合所其他の諸設備を施行する豫定であります。

(ト) 工場設備

工場設備は、車輛の増加に伴ひ之が製修作業能力を増進せしむる爲、現在の京城工場を擴張し、釜山工場の移築を行はんとするものであります。

九 車輛の増備及改良

一、車輛の増備

車輛の増備は既定計畫に屬するもの(新線に使用するもの及既設線に増備するものを含む)、及將來計畫に屬するもの(同上)を合して、將來機關車二百二十四輛、客車五百三十一輛、貨車二千三百五十三輛(新線に要する車輛で豫算の基礎を哩當りとしたものは推定輛數に依る)でありまして、此豫算總額三千九百九十一萬八千圓は、昭和二年度以降十三年度迄に支出し、新線の開通並に既設線の運輸數量の増進に對應し、遂次之を設備する計畫であります。之が京釜鐵道引繼車輛其他を合した現在數の合計數量は、機關車四百七十輛、客車一千五百五十二輛、貨車五千九十一輛となり、之を昭和十三年度末豫定營業哩二千六百哩に對し使用する豫定であります。

二、車輛改良

車輛改良は他線と連絡の必要上、車輛連結器移上工事を爲し、其他朝鮮炭使用の爲機關車の火室改造、石炭の消費を節約する爲機關車に過熱器の裝置、制動裝置完備の爲機關車に空氣唧筒増設、客車内の電燈裝置なきものに對する新規裝置、客車電燈用蓄電池統一の爲之が改造、並在來蓄電池單式のものに復式に改造、及畜類輸送に使用する爲有蓋車に換氣並

に採光窓を設備する等各種車輛の改良、及改造を施行し、此豫算一千八百萬圓を以て昭和二年度以降十三年度迄に完成せんとするものであります。

第三章 私設鐵道の將來

昭和二年四月末現在に於ける私設鐵道の免許哩中未開業線の哩數は一千三百十三哩を算し、將來國有鐵道の建設に相俟つて、漸次延長せられ、朝鮮に於ける鐵道網を形成し、以て地方開發の先驅を爲すべきであります。一面私設鐵道の延長は、建設資金其他の關係に依り的確なる豫想を下す困難であり、右の内朝鮮鐵道株式會社線は、同社所屬線一部の買収に依り、相當資金の餘裕を得、之に依り約二百哩を建設し、各線共其經濟地點に達せしむるを得べく、其他京南鐵道、金剛山電鐵の未設線、及今後設立さるべき私設鐵道を合して十二ヶ年間に約六百哩を建設する見込であり、之に要する資金は概算六千六百萬圓であります。現在工事施行免許を受け居るもの左の通りであります。

朝鮮鐵道會社所屬

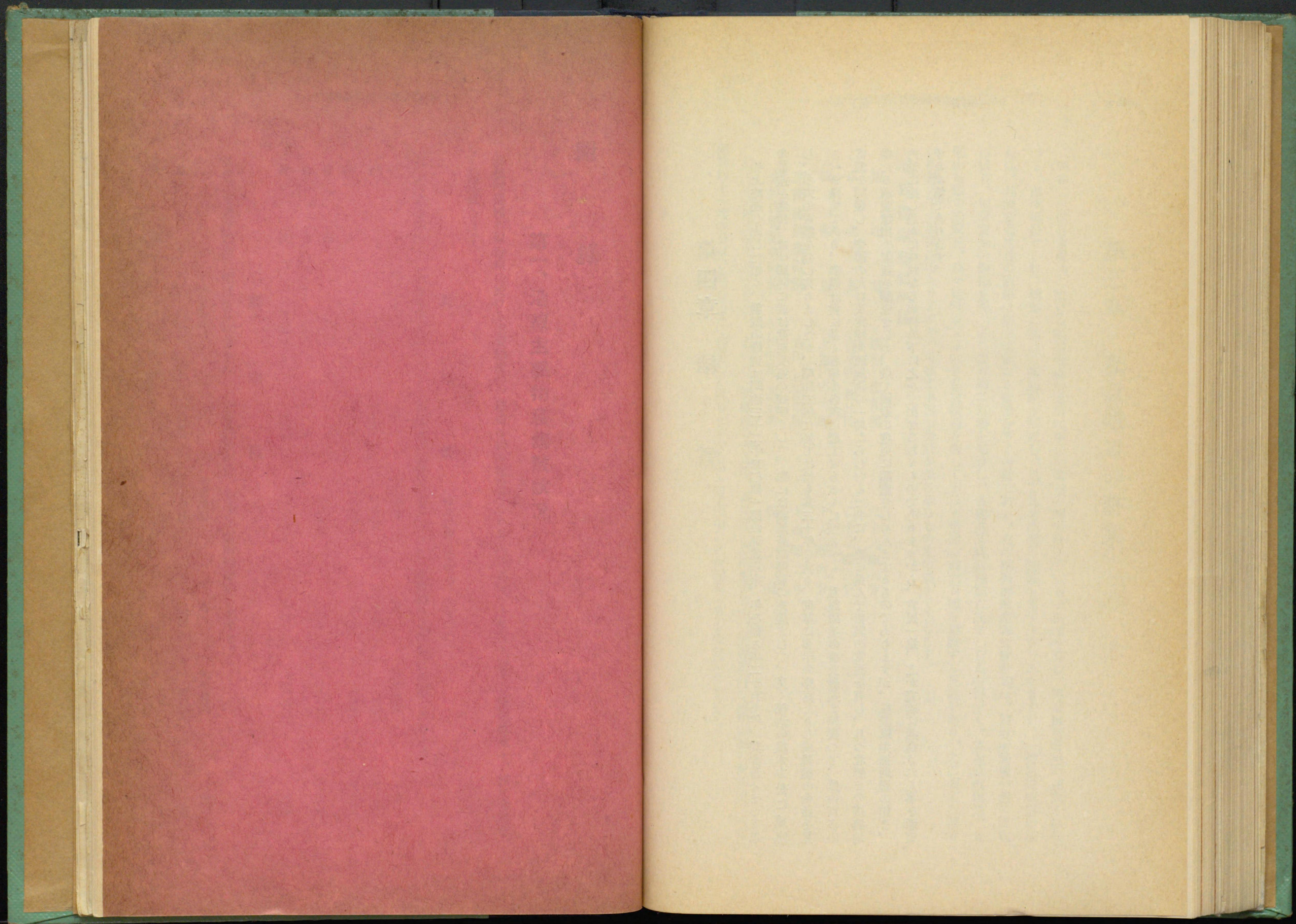
忠北線	清州、忠州間	二十八哩六分
咸北線	古茂山、新站間	二十二哩二分
咸南線	上通、古土間	十六哩九分
京南鐵道會社線	竹山、長湖院間	十四哩二分
金剛山電鐵會社線	炭甘里、昌道間	五哩

計八十六哩九分でありまして、右の内、朝鐵線の古茂山、新站間、京南線の竹山、長湖院間、金剛山線の炭甘里、昌道間計四十一哩四分は、既に工事に着手して居りますから、二年度中に之が開業を見る豫定であります。

第四章 結 言

如上略述しました如く、朝鮮の鐵道は明治三十二年京仁間一部の開通以來、年を経る事二十有五年、其間着々として進歩發達を遂げ、或は國防に或は歐亞交通の捷徑として、殊には朝鮮産業開發の先驅として、克く統治の根本方針に適應し、多大の貢獻を爲し來りましたが、昭和三年に於ては恰も其三十年に當り、同時に多年の懸案たりし咸鏡線の全通を見るべき豫定であり、新規計畫に基く各線亦各所に起工せらるゝに至るべく、私設鐵道の普及發達に相俟つて、鮮内巨多の富源を開發し、帝國の人口及食糧問題解決の一助ならしむるに共に、更に進んで無限の富源を有し、且つ北鮮との接壤地帯たる滿蒙進出の氣運を醸成せしめ、以て國家の進運に順應せしめんとするものであります。私設鐵道補助費の如き、内地に比し遙かに有利なる條件の下に之を支出せらるゝものでありますから、官民一途、之が完成に邁進されん事を希望する次第であります。

53



附 録

第一、沿線主要物産集散状況

朝鮮鐵道國有線沿線に於ける主要物産の、鐵道に依り輸送せられた大正元年、十年及十四年の發送數量を、茲に參考として記述致します。

釜 山 驛 (發着數量の單位噸、以下同じ)

品名	十四年度發	十年度發	元年度發	着
米	六三六五	二六、八六七	一〇、五五	八〇、五五六
鮮魚	一〇、八九四	二七	一〇、七九五	五
鹽魚	五、八九九	一四	七、七四三	一〇三
干魚	一、五七五	五	二八、二七三	二一、三四
肥料	五、二四六	二〇、八	一三四	一一一

慶 山 驛

東北、琴湖江沿岸に肥沃なる平野を有し、農産物に富む、主なる搬出物を示します。

品名	十四年度發	十年度發	元年度發	着
米	六、三六一	一〇、七三	七、三四九	一一四
大豆	五八一	一	八四三	一

密 陽 驛

南方密陽江に沿ふて遠く沃野開け、地味豊穰農産物豊であります。

米	十四年度發	八二四二	着	十年度發	七九八二	着	元年度發	二、八六九	着	二、三九
煙草	十四年度發	四二	着	十年度發	一〇二	着	元年度發	二四九	着	二二

金 泉 驛

附近耕地多く、農産物豊で、朝鮮鐵道會社慶北線は玉山、青里、尙州、咸昌を経て店村に達し、又扶桑、金山、居昌、洛東、比安等の各邑との交通も至極便利で貨客の集散頻繁に行はれて居ます。

米	十四年度發	九、三三六	着	十年度發	二、四八五九	着	元年度發	二、二三三	着	一、五二
大豆	十四年度發	六八九	着	十年度發	六三三	着	元年度發	五一九	着	一〇
粟	十四年度發	二六〇	着	十年度發	三四	着	元年度發	—	着	—
石炭	十四年度發	—	着	十年度發	八	着	元年度發	—	着	—
鹽	十四年度發	四五	着	十年度發	二〇	着	元年度發	九二	着	二、六二〇

大 邱 驛

附近一帯平野で土味肥豊至る處農事に適し米、麥、大豆及蔬菜類の耕作盛に行はれ、尙近來内地人の移住する者旺盛となり果樹の栽培、苺、桑園の耕作に従事する者多く成績亦優秀であります、主要貨物の發着を示します。

米	十四年度發	四、一九三	着	十年度發	三、五八九一	着	元年度發	一、四五〇	着	九六二
---	-------	-------	---	------	--------	---	------	-------	---	-----

大 田 驛

南方一帯は沃野で農産物豊であります、此地湖南線の分岐點でありまして交通繁多商業盛んに行はれ、亦石粉、製革、製肥、精米及土管、煉瓦、石灰等各製造工場もありますが、製品は主に此の地方の需用を充すに止まり、搬出の数は微々たるものであります。

麥	十四年度發	一、五二〇	着	十年度發	一、六四	着	元年度發	二、五二	着	一、二八
大豆	十四年度發	二、五四三	着	十年度發	二、七六六	着	元年度發	五、五四	着	九四
果實	十四年度發	一、四八九	着	十年度發	四〇〇	着	元年度發	八	着	三、七四
煙草	十四年度發	一、三三七	着	十年度發	二、〇八三	着	元年度發	六〇五	着	五、三五
鹽	十四年度發	八四	着	十年度發	二、二〇	着	元年度發	七六	着	三、四八一

鳥 致 院 驛

附近廣潤なる平野でありまして地味肥沃農産物に富んで居ります、朝鮮鐵道忠北線は東方清州を經清安に、西方公州街道は又各邑と連絡が出来、物資集散地として商業亦盛んであります。

米	十四年度發	六、九五八	着	十年度發	五、八二九	着	元年度發	一、八四五	着	—
粟	十四年度發	六七三	着	十年度發	四四一	着	元年度發	—	着	—
木材	十四年度發	一、〇二二	着	十年度發	八六三	着	元年度發	三、七九	着	一、九二〇
石炭	十四年度發	二二九	着	十年度發	一六九	着	元年度發	六四	着	六、三六
セメント	十四年度發	二八〇	着	十年度發	八九八	着	元年度發	四	着	一、〇二

品名	十四年度發	十年度發	元年度發	着
米	七,三三〇	九四三	一五,五〇一	一,四一七
大豆	七四六	二八	三,二四〇	一五四
粟	一,一九二	四,五三三	三九	二八〇
木材	二,三九	二,一五〇	三,八七	六,六四四
石灰	四四	四,六八三	四一	一,八六〇
セメント	六五	一,五六九	一九	一,八〇四

天安驛

當驛附近に於ける鎮川郡一圓及牙山、禮山の兩郡は廣濶なる平野で、穀類の産出に富み、京南鐵道會社線は東、安城西、廣川に走る等、交通の要路に當り物資の集散地として、亦地方商業市場として知られて居ります、主なる發着貨物を示します。

品名	十四年度發	十年度發	元年度發	着
米	七,三三〇	六六七	八,三九〇	一六七
大豆	一,五〇四	一一	二,八四九	三七
粟	七七八	五,一七二	五五	四〇一
木材	二,三三	二,五四三	一,一三	四,〇七三
石灰	四〇	三,九一六	三四	四,七二二
金屬類	五五	一,八〇四	一一	一,五四五

成歡驛

牙山に通ずる要路でありまして附近一帶は水田で米の産出多く次驛平澤の如き昨年度約一萬六千六百餘噸の搬出を取扱つて居ります、尙良堡には稜山金礦があり雲山に亞ぐ大規模で最近一年間の産額約二百貫云はれてゐます。

品名	十四年度發	十年度發	元年度發	着
米	三,六一三	一四	四,五八三	一一一
				一,〇七五
				八

水原驛

附近廣漠なる沃野で地味肥え農産物豊であり、亦此地農事經營に最も適し、勸業模範場の外東拓、東山、國武等の農場もあります、染織、製紙、製絲、各工場も近時隆盛に赴いて居ります。

品名	十四年度發	十年度發	元年度發	着
米	一八,三三	三,七三三	一七,〇三	三,〇二五
大豆	二,四六一	三五	二,四二四	六〇
				一,二七七

永登浦驛

漢江に沿ふ平野は地味肥え好箇の農耕地であります、然も京城龍山に供給する蔬菜の栽培地として農業盛に行はれて居ります、又附近一帶の土質は製陶に適し煉瓦、瓦、土管の産出多く且つ皮革會社を始め醬油釀造、製布業等各種工業も行はれて居ります。

品名	十四年度發	十年度發	元年度發	着
煉瓦	一三,五六六	一	一九八六	一
土管	二六七	一	六六九九	一

綿	布	四五〇	七	二	一
牛	皮	二二六	一七八	二二三	四五八
					五三
					二八八

京城驛

李朝以來五百年の首府であり、且つ朝鮮總督府の所在地として政治及一般經濟上の中心地で、交通亦此處を起點として各地に通ずる鐵道及道路があり加ふるに漢江水運等の交通機關亦完備して居ます。

府内に於ける工業は未だ盛んとは云はれませんが煙草製造、精米、酒、醬油、味噌の醸造、石鹼、肥料製造業等相當見られるべきものがあり、其他清涼飲料製造、鐵工、製織、製紐業等ありますが概して小規模で又金銀細工、製革等各種の手工的工業も比較的盛んに行はれて居ますが、何れも個人經營に過ぎません、然し近時諸種の工業勃興し漸く家庭工業から工場組織に改むる者多く、逐年發展の傾向を示して居ます。人口約二十八萬。

米	十四年度發	九四八〇	着	十年度發	七三九七	着	元年度發	三、一〇三	着	三九七九六
粟		六五五三			二、二三四			二、七八九		—
木	材	一、三八〇			二、二五三			二、七六一		一、五八四
石	炭	一、七〇五			二、二二五			二、四一三		三、四二
煉	炭	七一			一、五八四			四、七三五		七、六九六
肥	料	八四七四			一、三六〇			九、七一〇		二、〇五七
刻	卷煙草	八六二四			五九			六、九九二		三、八二二
										三、五二八

仁川驛

仁川は京畿道の西端に在り、内外の貿易最も盛で釜山と共に半島一大貿易港として並稱せられて居ます。此地は精米業

盛んに行はれ輸移出の首位を占め、其他再製鹽、醸造、鐵工業、製麵、製粉、硝子、洋蠟、染料各製造業等相當見るべきものがあり、仁川水産會社及朝鮮人魚組合の取扱に係る魚類又年額三、四十萬圓に上つて居ます。

米	十四年度發	二七、八四二	着	十年度發	二、二二七	着	元年度發	八、〇六六	着	七、三二五
大	豆	一五二			三、八三七			六、三三九		二〇四
石	炭	三六、三三〇			一〇、六八五			三、四四八		八、九四四
鹽	魚	四八、〇八			一、二二			三、三九七		—
鮮	魚	一、九七七			二、九〇			三、一七〇		一〇
鹽	干魚	三七八			六五			一、九五二		六八
金	屬類	一、五五八			一、三三六			九、四九〇		七五
								二、二〇六		—

朱安驛

西北近く朱安灣に臨み專賣支局經營に依る天日製鹽田あり、一ヶ年の産額千百餘萬斤に達し、尙附近一帶果樹の栽培盛んに行はれ成績又良好であります。

鹽	十四年度發	四、六三三	着	十年度發	七、一五七	着	元年度發	一、六五五	着	—
果	實	四一			七六			—		—

馬山驛

市街は新馬山舊馬山の二區に分れて居り醸造、精米業は盛に行はれて居ります。和酒は多く鮮内各地に搬出され近海に於て收獲されたる魚類の發送亦夥しいものであります。

鮮魚	十四年度發	一四七八	着	十年度發	一〇一八	着	元年度發	八七	着
鹽魚	十四年度發	一七三二	着	十年度發	一五二八	着	元年度發	一九三	着
干魚	十四年度發	七四〇	着	十年度發	九三五	着	元年度發	一五八	着
酒	十四年度發	四九七	着	十年度發	二六三	着	元年度發	二九	着

東南一帯は平地でありまして野菜果實の栽培に適し就中藥用朝鮮人蓼の産地として知られて居ります。人口約四萬。

開城驛

米	十四年度發	一、三九一	着	十年度發	一、二九〇	着	元年度發	八九六	着
粟	十四年度發	一、五三五	着	十年度發	九八三〇	着	元年度發	三九七	着
野菜	十四年度發	五四九	着	十年度發	一三九	着	元年度發	一三八	着
藥品	十四年度發	一六九	着	十年度發	一三七	着	元年度發	三二	着
藥材	十四年度發	一六九	着	十年度發	六〇	着	元年度發	二七七	着

附近の地勢山岳四周するも奥地に耕地多く、大豆薪炭の産地として知られて居ります。

南川驛

米	十四年度發	一、三八四	着	十年度發	一、二九	着	元年度發	四七	着
大豆	十四年度發	三、六四八	着	十年度發	一六	着	元年度發	一、三四八	着
木炭	十四年度發	七、七二七	着	十年度發	二九	着	元年度發	一、七三二	着
薪	十四年度發	三、八七	着	十年度發	二	着	元年度發	一四	着

新幕驛

大豆	十四年度發	一、七二五	着	十年度發	三六	着	元年度發	二八〇	着
木炭	十四年度發	九、六四	着	十年度發	一六	着	元年度發	一、二三三	着

附近耕地多く大豆薪炭の産出多量なり。

沙里院驛

米	十四年度發	六〇三九	着	十年度發	五八七	着	元年度發	三、一五四	着
麥	十四年度發	二、四六三	着	十年度發	七二	着	元年度發	二四四	着
粟	十四年度發	一、四一七	着	十年度發	九、七七六	着	元年度發	一、七八〇	着

西北南は一望際涯なき廣漠なる沃野でありまして、著名の農産地とせられて居ります。附近亦鑛物の産出多量で、十五年十二月一日同驛馬洞間に新鳳山驛を設け鳳山炭の搬出を計つて居ります。尙私設鐵道黄海線は信川内土、下聖に達し沿線物資の搬出に努めて居ります。

平壤驛

東南大同江に沿ひ附近一帯の平野は概ね土地肥え農耕地であり、且つ地下一帯無煙炭層は面積百二十四方に互り埋没量無盡藏と稱せられて居ります。

平南線の分岐點とし又大同江の水運に依り、西鮮地方の物資集散地として商業殷盛を極め、煙草製造、醬油、煉瓦、土管製造、及機業等の各工業が盛で、尙川を隔てた船橋里には日本製糖支社の工場がありまして昨年度船橋里驛より搬出

せる分にも一萬九千百三十七噸の多量に上つて居ます。

米	十四年度發	一八三四五	着	十年度發	一一,一三七	着	元年度發	一一,〇六七	着	元年度發	二,六三二	着	元年度發	一一,二五三
粟	十四年度發	二,二六八	着	十年度發	二,〇五二	着	元年度發	三,六五	着	元年度發	一,二〇九	着	元年度發	—
石	十四年度發	一八,三三三	着	十年度發	一四,四三三	着	元年度發	三,五七一	着	元年度發	三六,八四二	着	元年度發	一七,五三〇
炭	十四年度發	四,三五六	着	十年度發	二,三三三	着	元年度發	二,五九九	着	元年度發	五,六七	着	元年度發	六,五四四
酒類	十四年度發	—	着	十年度發	—	着	元年度發	—	着	元年度發	—	着	元年度發	五〇九

新安州驛

清川江に沿ひ附近平野肥沃農産物豊であります、尙奥地には亞鉛金鑛等の鑛物多量に藏し亦安州炭の産出地として知られて居ります、輕便鐵道は此地を起點として价川より鐵鑛石を運んで居ります。

鐵	十四年度發	六,三五二	着	十年度發	七	着	元年度發	三,五六三	着	元年度發	—	着	元年度發	—
石	十四年度發	一,二四五	着	十年度發	四九七	着	元年度發	七三	着	元年度發	一八三	着	元年度發	五〇八
鉛	十四年度發	—	着	十年度發	—	着	元年度發	—	着	元年度發	—	着	元年度發	—
炭	十四年度發	五,七二六	着	十年度發	一,八六〇	着	元年度發	八,一九〇	着	元年度發	一,八四四	着	元年度發	—

嶺美驛

此地大寧江に沿ひ平野多く土地肥沃農産物豊であります。

米	十四年度發	六,二〇一	着	十年度發	三,三四	着	元年度發	四,〇六三	着	元年度發	三,七三	着	元年度發	三,七〇
木	十四年度發	一,八八〇	着	十年度發	二,五〇	着	元年度發	五,五四〇	着	元年度發	六二	着	元年度發	四四〇
材	十四年度發	—	着	十年度發	—	着	元年度發	—	着	元年度發	—	着	元年度發	—

宣川驛

南方平野は多く農産物に富み、東北山野は多量の鑛物を埋藏して居ます。

米	十四年度發	四,六一七	着	十年度發	一,三四六	着	元年度發	二,四三三	着	元年度發	六二二	着	元年度發	二,二四
黒	十四年度發	二,五六	着	十年度發	九五	着	元年度發	二〇一	着	元年度發	六一	着	元年度發	二九一
鉛	十四年度發	—	着	十年度發	—	着	元年度發	—	着	元年度發	—	着	元年度發	—
鑛石	十四年度發	三,六三七	着	十年度發	—	着	元年度發	六八	着	元年度發	—	着	元年度發	—

南市驛

附近一帯平野で農産物豊かであります。

米	十四年度發	一,六五四六	着	十年度發	一一七	着	元年度發	八,三三七	着	元年度發	三,八三	着	元年度發	一,五八九
---	-------	--------	---	------	-----	---	------	-------	---	------	------	---	------	-------

新義州驛

國境第一の物資集散地にて鴨綠江上流百數十里域流一帯に對する木材其他物資の吞吐盛であります。

米	十四年度發	一五,〇一八	着	十年度發	一,二九四	着	元年度發	六,〇一七	着	元年度發	二,五八六	着	元年度發	一,六〇九
雜	十四年度發	七,六五〇	着	十年度發	二,七五	着	元年度發	七三六	着	元年度發	一,四九九	着	元年度發	二,一三八
木	十四年度發	七五,八八八	着	十年度發	二,七二七	着	元年度發	九,四〇四	着	元年度發	三五,六七八	着	元年度發	—
坑	十四年度發	一六,八〇七	着	十年度發	一六〇	着	元年度發	八六,二〇三	着	元年度發	九,四〇四	着	元年度發	二,一六七

鎮南浦驛

此地載寧大同兩江一帯の農産地を控え黃海、平安南北道に對する物資の集散地であります。人口約二萬。

米	十四年度發	一六七四	着	十年度發	二〇一九	着	元年度發	四六二〇	着	五、七五
大豆		一八			五			四四		四六七五
果物		一九三六			九二五			六二		九六
鑛石		二、三三〇			—			—		—
鹽		二、九〇二			—			—		—
炭		三、三一九			四三、七五六			—		三五三
勝湖里驛		一〇、二七五			五〇二			二、四五三		一、一、一、四〇九

晩達山麓の豊富な石灰石及粘土は品質優良でセメント原料に適し、小野田セメント會社平壤支社は當所に工場を設け年々三十餘萬樽石灰二千五百噸を生産し、尙驛北方里餘に大成里炭田があり炭量約二千萬噸云はれて居ます。

石炭	十四年度發	一三、九四六	着	十年度發	四六	着	元年度發	—	着	—
セメント		一、三、〇五九			一八			三五、〇一一		—
石灰		八、八七九			五八、三六三			一、三一一		—

木 浦 驛

前面一帶魚族海草に富める多嶋海があり米穀、棉花の生産饒多なる全南の平野を控え、南鮮樞要の開港場であります、然も練綿業、精米業、鐵工業、醸造業等盛んに行はれ、製麵、製鹽、製油等小規模ながら亦見るべきものがあります。發着貨物の主なるものは、

米	十四年度發	二、八五六	着	十年度發	八〇一	着	元年度發	—	着	—
綿		四一三			三三二			一、三六五		—

金 堤 驛

四望廣潤なる平野で半島屈指の農業地として知られ、精米業亦盛んに行はれて居ます。

米	十四年度發	一六、二四八	着	十年度發	一〇〇、九一	着	元年度發	一、三三	着	三七
---	-------	--------	---	------	--------	---	------	------	---	----

裡 里 驛

萬頃江流域なる全州平野を控え、土地肥沃農産物に富み全北鐵道は全州に延び地方物資の集散地であります。

米	十四年度發	一、一三六	着	十年度發	一三、一、七	着	元年度發	一、二、六〇	着	三、九二
粟		一、二八六			三六			—		—

群 山 驛

錦江萬頃江、東津江の諸流に米穀の産出多く尙諸流沿岸各地との航運至便、貨物の集散繁く商業盛んであります。

米	十四年度發	二、一、三七	着	十年度發	一、七、四一	着	元年度發	一、六、二九	着	一、一〇、四
鹽		一〇、四〇三			一			四、二七		—
肥料		四、五二八			二、四六			四、一		七〇
繩		六、八四一			四、五、六〇			二、〇、九四		一、一〇

附近一帯山岳重疊耕地少きも大豆の産地として知られ、薪炭亦多量に産します。

大	豆	着	十年度發	二八〇〇	一六二	元年度發	着
薪		一	一、六五四		五	1,041	一八
						七九七	五八

鐵原驛

附近は高原地帯で地味概ね肥沃農産豊であります、亦京元の中間に於ける物資集散地として商業盛んに行はれ、金剛山電氣鐵道は此處を起點として炭甘里に通じて居ります。

米	着	十年度發	九二七	五八	元年度發	着			
大	豆	一	一、六六一	二〇	四八〇三	九六	六二〇	四九二	五

元山驛

東海岸に於ける良港でありまして、近次漸く商業繁榮に赴いて参りました。附近一帯平野乏しく農産物としては大豆及小量の米を産して居るに過ぎませんが、魚族の收獲夥く又、港に依る米豆の移出年々相當額に達して居ります。

米	着	十年度發	二七三	五〇二八	元年度發	着		
大	豆	一	一、六六六	七、七三六	九九	一、六三六	未開通	一
魚	類	一	一、八六三	一四一				一

永興驛

附近一帯は山地でありまして耕地少く只大豆の收獲があるのみであります。山野には木、炭類の生産、及黒鉛の搬出せらるゝもの相當あります。

大	豆	着	十年度發	三、五七九	二	元年度發	着
黒	鉛	一	六、五〇一	三、八三九			
木	炭	一	八三六	五	三四二		

咸興驛

朝鮮三大平野の一たる咸興平野の中央に位置し附近一帯米、大豆等農産物豊で亦諸種の鑛脈を存じ、就中咸興炭の採掘近時盛んであります。

石	炭	着	十年度發	七五	四六七	元年度發	着
米		一	一、四五六	二、五九二	二、〇〇五	八二一	
大	豆	一	三、九二六	一八四	三、一七三	七	

清津驛

間島、琿春國境方面の物資を吸集するに同時に、我産物を此方面に輸出する等、北鮮地方唯一の開港場であります。尙近時水産業盛んに行はれ北鮮沿岸の新魚場開設せらるゝに従ひ附近漁業は長足の進歩をなし、年々共に漁獲物の激増を見る様になりました。

大豆	十四年度發	四八、三五一	十年度發	一九、七二〇	元年度發	着
木材	十四年度發	四九六	十年度發	二四五	元年度發	着
炭	十四年度發	二〇一	十年度發	一六	元年度發	着
鮮魚	十四年度發	五二二	十年度發	四、八八二	元年度發	着
鹽魚	十四年度發	二二八	十年度發	一、二四六	元年度發	着
羅南驛	十四年度發	七〇四	十年度發	一、二四六	元年度發	着

羅北川近く貫流し土味又肥沃でありますが人口密度の關係に依り農産物の見るべきものなく、醬油、味噌の醸造、煉瓦土管製造工場等あるも製品は未だ他方面に搬出するに至らず、併し附近一帯は炭田でありますから、其の將來相當囑目に價すべきであります。

石炭	十四年度發	一	十年度發	三	元年度發	着
會寧驛	十四年度發	二、九六五	十年度發	四、六〇〇	元年度發	着

西南一帯は會寧川の流域及豆滿江岸の平野を擁しては居ますが鮮内物産少く當驛發貨物の主たる農産物は殆んゞ對岸地方の生産にて大豆は首位を占め又附近鶏林炭坑があります。

大豆	十四年度發	一一、一五七	十年度發	一八、七七六	元年度發	着
石炭	十四年度發	二九、三三九	十年度發	五、六一七	元年度發	着

城津驛

元山、清津間に於ける開港場にして大正十三年開通し吉州、端川間沿線物資集散地であります、尙附近に專賣支局經營に依る鹽田あり、多量の製鹽を輸送して居ります。

鹽	十四年度發	二、五二二	十年度發	一	元年度發	着
大豆	十四年度發	一	十年度發	二、四七九	元年度發	着

備考 大正元年度數量の記載なきは線路未開通に依る。

53

營業哩、停車場、從事員累年統計

年次	營業哩	停車場	場數		從事員 (國鐵)		
			私設	員數	給料月額	平均額	
22.0	33.0		1	—	—	—	
23.0	33.0		11	—	—	—	
24.0	36.0		11	—	—	—	
25.0	36.0		11	—	—	—	
26.0	36.0		11	—	—	—	
27.0	36.0		11	—	—	—	
28.0	36.0		11	—	—	—	
29.0	36.0		11	—	—	—	
30.0	36.0		11	—	—	—	
31.0	36.0		11	—	—	—	
32.0	36.0		11	—	—	—	
33.0	36.0		11	—	—	—	
34.0	36.0		11	—	—	—	
35.0	36.0		11	—	—	—	
36.0	36.0		11	—	—	—	
37.0	36.0		11	—	—	—	
38.0	36.0		11	—	—	—	
39.0	36.0		11	—	—	—	
40.0	36.0		11	—	—	—	
41.0	36.0		11	—	—	—	
42.0	36.0		11	—	—	—	
43.0	36.0		11	—	—	—	
44.0	36.0		11	—	—	—	
45.0	36.0		11	—	—	—	
46.0	36.0		11	—	—	—	
47.0	36.0		11	—	—	—	
48.0	36.0		11	—	—	—	
49.0	36.0		11	—	—	—	
50.0	36.0		11	—	—	—	
51.0	36.0		11	—	—	—	
52.0	36.0		11	—	—	—	
53.0	36.0		11	—	—	—	
54.0	36.0		11	—	—	—	
55.0	36.0		11	—	—	—	
56.0	36.0		11	—	—	—	
57.0	36.0		11	—	—	—	
58.0	36.0		11	—	—	—	
59.0	36.0		11	—	—	—	
60.0	36.0		11	—	—	—	
61.0	36.0		11	—	—	—	
62.0	36.0		11	—	—	—	
63.0	36.0		11	—	—	—	
64.0	36.0		11	—	—	—	
65.0	36.0		11	—	—	—	
66.0	36.0		11	—	—	—	
67.0	36.0		11	—	—	—	
68.0	36.0		11	—	—	—	
69.0	36.0		11	—	—	—	
70.0	36.0		11	—	—	—	
71.0	36.0		11	—	—	—	
72.0	36.0		11	—	—	—	
73.0	36.0		11	—	—	—	
74.0	36.0		11	—	—	—	
75.0	36.0		11	—	—	—	
76.0	36.0		11	—	—	—	
77.0	36.0		11	—	—	—	
78.0	36.0		11	—	—	—	
79.0	36.0		11	—	—	—	
80.0	36.0		11	—	—	—	
81.0	36.0		11	—	—	—	
82.0	36.0		11	—	—	—	
83.0	36.0		11	—	—	—	
84.0	36.0		11	—	—	—	
85.0	36.0		11	—	—	—	
86.0	36.0		11	—	—	—	
87.0	36.0		11	—	—	—	
88.0	36.0		11	—	—	—	
89.0	36.0		11	—	—	—	
90.0	36.0		11	—	—	—	
91.0	36.0		11	—	—	—	
92.0	36.0		11	—	—	—	
93.0	36.0		11	—	—	—	
94.0	36.0		11	—	—	—	
95.0	36.0		11	—	—	—	
96.0	36.0		11	—	—	—	
97.0	36.0		11	—	—	—	
98.0	36.0		11	—	—	—	
99.0	36.0		11	—	—	—	
100.0	36.0		11	—	—	—	

線5哩8分アリ

營業哩、停車場、従事員累年統計

附録第一表

年度	線路延長			停車場數		従事員 (國鐵)		
	國有	私設	軌道	國有	私設	員數	給料月額	平均額
	哩分	哩分	哩分	哩分	個	人	円	円
明治32	22.0	—	—	—	—	—	—	—
33	23.3	—	—	11	—	—	—	—
34	26.3	—	—	11	—	—	—	—
35	26.3	—	—	11	—	—	—	—
36	26.3	—	—	11	—	—	—	—
37	294.2	—	—	2	—	—	—	—
38	637.9	—	—	2	—	—	—	—
39	637.9	—	—	98	—	6,559	200,083.80	30.05
40	641.5	—	—	102	—	6,933	190,473.29	27.47
41	641.5	—	—	103	—	7,152	199,787.97	27.93
42	640.5	5.8	—	103	5	6,592	179,020.08	27.15
43	674.6	5.8	14.5	108	5	6,908	186,123.34	26.94
44	767.6	5.8	14.7	120	5	7,631	203,791.44	26.76
大正 1	837.0	5.8	16.5	131	4	8,320	216,935.00	26.07
2	970.2	5.8	17.9	154	4	9,251	235,802.00	25.49
3	994.0	21.3	23.2	158	11	8,962	230,851.00	25.76
4	1,016.5	30.1	34.8	162	17	9,234	238,098.00	25.78
5	1,066.1	49.7	34.7	172	24	9,303	241,083.00	25.91
6	1,093.0	79.7	28.1	177	24	9,592	255,612.80	25.65
7	1,102.1	142.1	28.4	180	43	10,323	286,815.00	27.78
8	1,153.2	177.5	35.1	187	57	12,097	700,143.43	57.88
9	1,157.4	190.9	31.6	189	64	12,148	711,419.86	58.50
10	1,165.0	232.8	33.0	191	69	11,927	717,001.89	60.12
11	1,177.6	276.6	33.0	194	100	12,651	761,843.58	60.22
12	1,189.0	333.5	36.8	206	124	13,111	794,963.00	60.63
13	1,300.3	383.4	36.8	231	146	13,165	812,585.00	61.72
14	1,309.1	450.6	39.2	240	178	12,819	852,542.00	66.51
15	1,341.6	487.3	43.1	252	174	—	—	—

備考 外=私設鐵道ノ扱ヲ受ケル釜山瓦斯電氣會社線5哩8分アリ

57
39

營業收支並運輸收入累年表

附錄第三表

年度	營業收支			運輸收入		
	收入	支出	差額	旅客收入	貨物收入	計
明治 32	—	—	—	12,368	3,157	15,525
33	—	—	—	76,764	32,523	109,287
34	—	—	—	116,098	80,453	196,551
35	—	—	—	105,677	102,915	208,592
36	—	—	—	141,308	134,906	276,214
37	—	—	—	335,559	330,596	666,155
38	—	—	—	1,054,990	370,627	1,425,617
39	1,775,134	1,555,874	219,260	1,323,578	691,616	2,014,194
40	3,522,720	3,599,708	76,988	2,119,658	1,143,028	3,262,686
41	4,504,196	4,685,776	181,579	2,336,532	1,620,322	3,956,854
42	2,293,530	2,293,043	487	2,103,131	1,714,173	3,817,304
43	5,142,446	4,804,066	338,380	2,352,523	2,210,381	4,562,904
44	4,922,476,319	4,922,220,391	255,928	2,719,489	2,471,240	5,190,729
大正 1	5,865,580	5,012,712	852,868	3,542,379	2,270,470	5,812,799
2	6,717,433	5,149,207	1,568,226	3,812,513	2,518,140	6,330,653
3	6,605,815	5,373,487	1,232,328	3,657,106	2,740,400	6,397,566
4	7,471,584	5,693,021	1,778,563	3,957,300	3,339,165	7,296,465
5	8,777,269	6,141,237	2,636,032	4,320,340	4,335,383	8,655,723
6	13,168,949	7,375,794	5,793,155	6,007,149	5,973,488	11,980,637
7	17,977,336	14,257,025	3,720,311	8,939,399	8,100,359	17,039,758
8	23,966,388	20,725,734	3,240,654	11,434,229	10,822,676	22,256,905
9	27,173,855	23,328,749	3,845,106	12,668,192	12,347,393	25,015,585
10	28,109,695	21,629,879	6,479,816	13,361,903	12,794,296	26,156,199
11	20,686,112	23,863,296	6,822,817	14,219,086	14,194,338	28,413,424
12	33,075,554	25,481,707	7,590,847	15,155,938	15,215,170	30,371,108
13	31,434,506	24,709,008	6,725,498	14,935,945	14,091,921	29,027,866
14	32,299,278	24,135,939	8,163,339	15,298,879	15,409,943	30,708,822

Blank ledger page with faint grid lines and some illegible handwritten notes.

57
39

月	支				入			
	支	支	支	支	入	入	入	入
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

中華民國二十六年六月三十日以前之帳目

營業收支帳目

月	支		入	
	支	支	入	入
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

305,174	1,666,372	5,978,208	3,780,978	9,759,186	494,819	507,593	689,256	945,126	141,857	152,682	322,635	210,267	532,902	1,705,733	1,708,713	433,328	6,271,639	2,14,198	282,948	1,974,665	571,227	1,845,892
926,634	1,316,039	6,724,897	3,579,010	10,313,907	771,361	780,880	1,079,734	1,652,203	209,619	172,118	514,679	306,769	821,448	1,795,301	1,708,041	5,637,156	5,685,601	203,625	253,378	1,448,073	556,433	2,004,506
992,021	1,502,954	7,183,597	3,673,849	10,857,446	876,521	882,216	1,052,037	1,512,114	237,619	220,250	578,614	382,129	970,743	1,870,117	1,873,639	4,525,844	4,762,569	231,564	321,576	1,500,412	597,770	2,098,182
104,341	1,665,079	7,868,619	4,006,810	11,875,429	1,118,571	1,125,027	1,176,190	1,752,238	282,983	279,643	724,666	438,164	1,162,83	2,118,957	2,122,053	4,480,962	4,042,595	279,924	378,524	1,654,862	686,218	2,341,080
220,841	1,821,993	8,046,356	4,619,324	12,665,680	1,391,676	1,397,562	1,316,024	1,880,177	264,873	34,536	878,591	647,383	1,525,974	2,342,041	2,349,996	4,254,576	4,651,349	288,878	416,807	1,705,101	821,828	2,526,929
1,003,087	1,616,417	8,031,490	4,212,934	12,244,424	1,886,861	1,893,562	1,633,575	2,030,952	348,952	310,240	1,107,361	877,009	1,897,370	2,355,714	2,357,887	4,209,237	4,556,760	251,798	369,060	1,738,655	743,897	2,482,552
1,047,444	2,714,616	7,854,804	4,320,536	12,175,340	2,203,325	2,303,843	2,049,687	2,215,304	433,081	424,403	1,264,868	1,061,025	2,325,893	2,527,851	2,541,295	4,278,036	4,814,987	307,255	449,352	1,793,029	834,570	2,628,599

義 線					京 元 線								全 線 合 計									
貨 物		收 入			乘 客		手 小 荷 物		貨 物		收 入			乘 客		手 小 荷 物		貨 物		收 入		
發送噸數	到着噸數	客車收入	貨車收入	計	乘車人員	降車人員	發送斤量	到着斤量	發送噸數	到着噸數	客車收入	貨車收入	計	乘車人員	降車人員	發送斤量	到着斤量	發送噸數	到着噸數	客車收入	貨車收入	計
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	38,415	38,415	-	-	1,247	1,247	12,368	3,157	15,525
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	215,752	215,752	-	-	10,885	10,885	76,764	32,523	109,287
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	354,625	354,625	-	-	28,977	28,975	116,098	80,453	196,551
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	337,919	337,919	-	-	56,263	56,261	105,677	102,915	208,592
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	484,358	484,358	-	-	71,807	71,807	141,305	134,906	276,211
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	924,973	924,973	-	-	196,927	196,927	335,559	330,596	666,155
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,397,280	1,397,280	-	-	171,496	171,496	1,054,990	370,627	1,425,617
24,837	-	367,725	121,857	489,582	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,607,086	1,607,086	4,497,463	4,497,463	224,410	224,410	1,322,588	691,616	2,014,204
67,676	-	654,602	278,749	933,351	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,319,475	1,319,475	6,594,395	6,594,395	391,175	391,175	2,119,658	1,143,028	3,262,686
-	-	694,619	556,660	1,251,279	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2,336,532	1,620,322	3,956,854
249,456	239,122	565,422	560,882	1,126,304	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,993,536	1,897,854	4,131	4,541	685,045	692,691	2,117,995	1,746,751	3,864,746
853,542	866,791	2,353,004	2,221,601	4,574,605	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,975,576	1,930,504	7,501,367	8,531,801	853,742	866,791	2,353,004	2,229,60	4,582,605
478,948	453,551	751,500	974,066	1,725,566	22,341	23,392	11,729	15,777	2,370	15,919	8,923	2,760	11,683	2,360,056	2,369,186	8,339,393	9,609,89	10,15,767	1,044,371	2,679,332	2,515,494	5,194,826
364,084	351,129	874,855	945,364	1,820,219	162,002	172,630	44,191	11,997	36,886	76,457	76,241	36,379	112,620	4,291,374	4,289,983	9,398,556	10,786,781	10,22,739	1,081,396	3,464,643	2,610,186	6,074,832
320,808	319,526	910,475	984,710	1,895,185	324,523	330,491	109,831	192,110	160,828	161,873	169,829	101,29	271,227	4,872,672	4,877,624	10,788,958	12,070,819	1,248,213	1,340,460	3,716,976	2,995,637	6,712,613
348,245	339,015	819,729	1,078,352	1,898,081	319,281	324,590	240,696	329,521	181,398	183,751	203,849	194,557	398,407	4,646,180	4,650,056	11,061,761	12,422,139	1,223,010	1,303,810	3,584,906	3,130,465	6,715,371
465,723	437,901	850,436	1,442,153	2,292,589	321,695	327,036	84,405	415,157	112,119	99,594	251,195	328,241	579,436	4,925,479	4,932,405	12,430,031	13,647,672	1,443,285	1,544,415	3,867,447	3,964,043	7,831,490
515,274	416,327	941,908	1,980,363	2,922,271	382,065	387,776	1,024,224	564,179	106,612	112,630	295,486	325,577	621,063	5,187,514	5,183,936	13,655,543	14,409,603	1,571,733	1,631,504	4,220,009	4,914,609	9,134,618
668,422	552,660	1,389,957	2,377,554	3,767,511	513,005	514,718	1,459,919	650,994	42,194	157,132	404,244	460,544	864,788	6,909,730	6,901,035	16,452,490	16,656,780	2,046,093	2,146,993	5,917,287	6,544,046	12,461,333
513,648	633,351	1,932,140	3,422,629	5,355,769	675,289	679,340	2,444,589	1,797,583	164,471	151,659	540,748	484,291	1,025,039	9,126,490	9,084,028	27,369,870	30,352,944	2,144,580	2,288,729	8,414,853	8,759,170	17,174,023
1,424,953	1,002,578	2,705,026	5,306,208	8,011,234	901,247	908,059	4,256,374	2,251,117	250,991	223,018	750,064	670,546	1,420,610	11,975,812	11,958,322	40,447,490	43,974,137	3,347,173	3,327,598	11,030,598	10,539,226	21,569,824
1,354,935	1,062,514	2,844,541	5,229,709	8,074,252	910,977	912,917	3,176,991	1,979,825	217,251	198,731	841,938	674,324	1,516,262	12,199,419	12,207,213	39,672,589	43,416,803	2,942,064	3,022,744	12,334,130	10,346,245	22,730,375
1,320,472	949,618	3,019,952	5,277,011	8,296,963	1,023,944	1,022,788	3,331,559	1,633,298	254,70	201,967	877,026	625,948	1,502,974	13,557,849	13,578,952	35,955,207	42,077,154	3,035,880	3,196,365	13,159,601	10,566,707	23,726,308
1,357,216	1,058,064	3,217,389	5,152,48	8,369,869	1,072,318	1,063,227	4,092,595	1,878,049	256,017	235,321	1,000,266	599,412	1,601,678	14,906,156	14,597,108	37,767,763	44,314,922	3,280,481	3,616,631	14,467,802	10,833,084	25,350,886
1,461,796	1,158,576	3,361,681	5,974,858	9,336,542	1,203,132	1,203,671	4,820,701	2,025,252	274,788	291,220	1,149,282	647,300	1,796,582	16,317,497	16,340,796	40,935,360	44,250,401	3,545,715	3,992,980	15,141,014	12,710,697	27,851,707
1,184,057	1,015,630	3,402,087	4,763,432	8,165,519	1,225,914	1,232,757	4,553,434	1,912,789	197,223	241,025	1,077,634	710,832	1,788,486	17,034,126	17,025,320	39,551,205	40,508,219	29,850,97	3,552,375	15,300,227	11,248,124	26,578,351
1,403,644	1,195,713	4,396,037	5,329,081	9,725,118	1,166,766	1,179,239	4,444,079	1,833,809	215,225	239,075	1,011,390	724,659	1,733,035	17,729,081	17,757,384	39,536,232	39,792,972	3,406,649	4,023,159	15,421,134	12,269,811	27,690,945

京仁線ノミ三十四年ヨリ三十七年迄ハ京釜線區間營業ヲ含ミ同三十八年四月二十八日ヨリ京義線ノ便乗便載及同十月ヨリ馬山線開通ノ分ノ合計精算ヲ示シ三十九年以降ハ各驛取扱收入ナリ
降京釜線京仁線ハ七月以降ヨリヲ記載ス

各線別運輸成績累年表

附錄第四表

年度	京 釜 線									咸 鏡 線									湖 線				
	乘 客		手 小 荷 物		貨 物		收 入			乘 客		手 小 荷 物		貨 物		收 入			乘 客		手 小 荷 物		
	乘車人員	降車人員	發送斤量	到着斤量	發送噸數	到着噸數	客車收入	貨車收入	計	乘車人員	降車人員	發送斤量	到着斤量	發送噸數	到着噸數	客車收入	貨車收入	計	乘車人員	降車人員	發送斤量	到着斤量	發送
明治32	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
34	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
35	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
36	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
37	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
38	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
39	1,359,455 ^A	-	4,032,802 ^斤	-	199,573 ^噸	-	954,863 ^円	569,759 ^円	1,524,622 ^円	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40	2,247,527	-	660,259	-	355,573	-	1,465,656	864,279	2,329,935	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
41	-	-	-	-	-	-	1,641,913	1,063,662	2,705,575	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
42	1,470,097	1,430,000 ^A	3,740 ^噸	3,574 ^噸	435,589	453,569 ^噸	1,552,573	1,185,869	2,738,442	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
43	1,435,137	1,437,137	6,000,861 ^斤	6,455,245 ^斤	414,876	415,598	1,656,056	1,390,330	3,046,386	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
44	1,681,586	1,687,850	7,499,382	7,398,819	479,025	499,188	1,873,350	1,511,989	3,384,339	-	-	-	-	-	-	-	-	-	34,317 ^A	34,738 ^A	33,951 ^斤	82,160 ^斤	-
大正 1	2,536,477	2,515,238	8,198,903	7,989,598	523,192	558,378	2,247,475	1,536,448	3,828,923	-	-	-	-	-	-	-	-	-	330,225	332,141	394,656	351,348	-
2	2,676,036	2,675,200	8,396,466	8,559,144	641,423	721,069	2,295,542	1,632,531	3,928,073	-	-	-	-	-	-	-	-	-	515,957	516,192	1,313,253	837,095	1
3	2,525,168	2,523,652	8,945,788	8,778,063	517,115	571,104	2,166,167	1,607,031	3,766,248	-	-	-	-	-	-	-	-	-	574,838	585,195	1,024,576	1,081,302	1
4	2,786,118	2,789,916	9,445,258	9,632,233	616,615	763,894	2,309,539	1,876,132	4,165,671	27,619 ^A	20,543 ^A	9,505 ^斤	17,787 ^斤	5,857 ^噸	4,582 ^噸	6,342 ^円	2,416 ^円	8,758 ^円	587,591	586,160	1,188,311	1,108,136	2
5	2,699,043	2,696,108	9,924,170	9,728,912	645,927	800,874	2,496,273	2,209,909	4,706,282	99,099	99,091	95,185	103,674	34,631	27,246	39,658	27,212	66,870	640,040	638,353	1,384,815	1,145,520	2
6	3,367,033	3,351,335	11,262,949	10,946,174	833,629	1,079,290	3,335,255	2,987,453	6,372,708	215,939	219,500	201,615	256,442	115,105	102,431	110,575	105,760	216,335	865,564	862,833	1,679,044	1,343,245	2
7	4,351,656	4,297,120	18,271,638	17,869,306	957,188	1,190,639	4,845,844	4,044,069	8,889,913	303,888	313,193	319,837	456,960	107,678	103,260	184,459	147,800	335,262	1,216,581	1,215,682	2,716,786	3,707,474	2
8	5,054,047	5,635,986	24,646,843	23,165,450	1,305,174	1,666,372	5,978,208	3,780,978	9,759,186	494,819	507,593	689,256	945,126	141,857	152,682	322,635	210,267	532,902	1,705,733	1,708,713	433,328	6,271,639	2
9	5,648,179	5,642,968	24,296,892	23,666,755	926,634	1,316,039	6,724,897	3,579,010	10,313,907	771,361	780,880	1,079,734	1,652,203	209,619	172,118	514,679	306,769	821,448	1,795,301	1,793,041	5,637,156	5,685,601	2
10	6,272,510	6,292,539	22,200,379	24,745,290	992,021	1,502,954	7,183,597	3,673,849	10,857,446	876,521	882,216	1,052,037	1,512,114	237,619	220,250	578,614	382,129	970,743	1,870,117	1,873,639	4,525,844	4,762,569	2
11	6,820,431	6,813,831	22,312,928	26,888,249	1,104,341	1,665,079	7,868,619	4,006,810	11,875,429	1,118,571	1,125,027	1,176,190	1,752,338	282,983	279,643	724,666	438,164	1,162,830	2,118,957	2,122,052	4,480,962	4,042,595	2
12	7,210,779	7,221,932	24,779,629	26,430,585	1,220,841	1,821,993	8,046,356	4,619,324	12,665,680	1,391,676	1,397,562	1,316,024	1,880,177	264,873	34,536	878,591	647,383	1,525,974	2,342,041	2,349,996	4,254,576	4,651,349	2
13	7,133,584	7,111,190	22,873,039	22,869,531	1,003,087	1,616,417	8,031,490	4,212,934	12,244,424	1,886,861	1,893,562	1,633,575	2,030,952	348,952	310,240	1,107,361	877,099	1,897,370	2,355,714	2,355,887	4,209,237	4,556,760	2
14	7,122,529	7,114,144	22,503,174	22,133,980	1,047,444	2,714,616	7,854,804	4,320,536	12,175,340	2,303,225	2,303,843	2,049,687	2,215,304	433,081	424,403	1,264,868	1,061,025	2,325,893	2,527,850	2,541,295	4,278,036	4,814,987	2

年度	京 義 線									京 元 線									全 線			
	乘 客		手 小 荷 物		貨 物		收 入			乘 客		手 小 荷 物		貨 物		收 入			乘 客		手 小 荷 物	
	乘車人員	降車人員	發送斤量	到着斤量	發送噸數	到着噸數	客車收入	貨車收入	計	乘車人員	降車人員	發送斤量	到着斤量	發送噸數	到着噸數	客車收入	貨車收入	計	乘車人員	降車人員	發送斤量	到着斤量
明治32	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	38,415 ^A	38,415 ^A	-	-
33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	215,752	215,752	-	-
34	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	354,625	354,625	-	-

8	5,054,047	5,635,986	24,646,843	23,165,450	1,305,174	1,666,372	5,978,208	3,780,978	9,759,186	494,819	507,593	689,256	945,126	141,857	152,682	322,635	210,267	532,902	1,703,738	1,708,718	433,328	6,271,639	2
9	5,648,179	5,642,968	24,296,892	23,666,755	926,634	1,316,039	6,724,897	3,579,010	10,313,907	771,361	780,880	1,079,734	1,652,203	209,619	172,118	514,679	306,769	821,448	1,795,301	1,708,041	5,637,156	5,685,601	2
10	6,272,510	6,292,539	22,200,379	24,745,290	992,021	1,502,954	7,183,597	3,673,849	10,857,446	876,521	882,216	1,052,037	1,512,114	237,619	220,250	578,614	382,129	970,743	1,870,117	1,873,639	4,525,844	4,762,569	2
11	6,820,431	6,813,531	22,312,928	26,888,249	1,104,341	1,665,079	7,868,619	4,006,810	11,875,429	1,118,571	1,125,027	1,176,190	1,752,238	282,983	279,643	724,666	438,164	1,162,833	2,118,957	2,122,052	4,480,962	4,042,595	2
12	7,210,779	7,231,932	24,779,629	26,430,585	1,220,841	1,821,993	8,046,356	4,619,324	12,665,680	1,391,676	1,397,562	1,316,024	1,880,177	264,873	34,536	878,591	647,383	1,525,974	2,342,041	2,349,996	4,254,576	4,651,349	2
13	7,133,584	7,111,190	22,873,039	22,869,531	1,003,087	1,616,417	8,031,490	4,212,934	12,244,424	1,886,861	1,893,562	1,633,575	2,030,052	348,952	310,240	1,107,361	87,009	1,897,370	2,355,714	2,355,887	4,209,237	4,556,760	2
14	7,122,529	7,114,144	22,502,174	22,133,980	1,047,444	2,714,616	7,854,804	4,320,536	12,175,340	2,303,225	2,303,843	2,049,687	2,215,304	433,081	424,403	1,264,868	1,061,025	2,325,893	2,527,851	2,541,295	4,278,036	4,814,987	2

年度	京 義 線									京 元 線									全 線			
	乗 客		手 小 荷 物		貨 物		收 入			乗 客		手 小 荷 物		貨 物		收 入			乗 客		手 小 荷 物	
	乗車人員	降車人員	發送斤量	到着斤量	發送噸數	到着噸數	客車收入	貨車收入	計	乗車人員	降車人員	發送斤量	到着斤量	發送噸數	到着噸數	客車收入	貨車收入	計	乗車人員	降車人員	發送斤量	到着斤量
明治32	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	38,415	38,415	-	-
33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	215,752	215,752	-	-
34	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	354,625	354,625	-	-
35	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	337,919	337,919	-	-
36	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	484,358	484,358	-	-
37	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	924,973	924,973	-	-
38	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,397,280	1,397,280	-	-
39	247,631 ^人	-	464,661 ^斤	-	24,837 ^噸	-	367,725 ^円	121,857 ^円	489,582 ^円	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,607,086	1,607,086	4,497,463 ^斤	4,497,463 ^斤
40	488,850	-	1,159,706	-	67,676	-	654,602	278,749	933,351	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,319,475	1,319,475	6,594,395	6,594,395
41	-	-	-	-	-	-	694,619	556,660	1,251,279	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
42	463,439	467,851 ^人	391 ^噸	969 ^噸	249,456	239,122	565,422	560,882	1,126,304	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,593,536	1,897,854	4,131 ^噸	4,541 ^噸
43	1,975,576	1,980,504	7,501,367 ^斤	8,531,801	853,542	866,791	2,353,004	2,221,601	4,574,605	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,975,576	1,980,504	7,501,367	8,531,801
44	671,812	673,636	794,331	2,113,138	478,948	453,551	751,500	974,060	1,725,560	22,341 ^人	23,392 ^人	11,729 ^斤	15,777 ^斤	2,370 ^噸	15,919 ^噸	8,923 ^円	2,760 ^円	11,683 ^円	2,360,056	2,369,186	8,339,393	9,609,89
大正 1	1,262,670	1,269,974	760,198	2,151,838	364,084	351,129	874,855	945,364	1,820,219	162,002	172,630	44,191	11,997	36,886	76,457	76,241	36,379	112,620	4,291,374	4,389,983	9,398,556	10,786,781
2	1,356,156	1,355,741	939,408	2,462,400	320,808	319,526	910,475	984,710	1,895,185	324,523	330,491	109,831	192,180	160,828	161,878	169,829	101,59	271,223	4,872,672	4,877,624	10,788,958	12,070,819
3	1,216,843	1,213,619	850,701	2,242,253	348,245	339,015	819,729	1,078,352	1,898,081	319,281	324,590	240,696	320,521	181,398	183,751	203,849	194,55	398,407	4,646,180	4,650,056	11,061,761	12,422,139
4	1,210,456	1,208,750	942,904	2,474,359	465,723	437,901	850,436	1,442,152	2,292,588	321,695	327,036	844,053	415,157	112,119	99,594	251,195	338,241	579,436	4,925,479	4,932,405	12,430,031	13,647,672
5	1,367,260	1,362,608	1,217,149	2,862,335	515,274	416,327	941,908	1,980,362	2,922,271	382,065	387,770	1,034,224	564,179	106,612	112,630	295,486	323,577	621,063	5,187,514	5,183,936	13,655,543	14,409,603
6	1,948,179	1,952,619	1,848,963	3,460,015	668,422	552,660	1,389,957	2,377,554	3,767,511	513,005	514,718	1,459,919	650,904	42,194	157,132	404,244	460,544	864,788	6,909,730	6,901,035	16,452,490	16,656,780
7	2,579,076	2,578,693	3,566,920	6,821,319	513,648	633,351	1,932,140	3,422,629	5,355,769	675,289	679,340	2,444,589	1,797,883	164,471	151,650	540,748	484,291	1,025,039	9,126,490	9,084,028	27,369,870	30,252,944
8	3,219,966	3,197,971	6,911,689	11,340,805	1,424,953	1,002,578	2,705,026	5,306,208	8,011,234	901,247	938,059	4,256,374	2,251,117	250,991	223,018	750,064	670,546	1,420,610	11,975,812	11,958,322	40,447,490	43,974,137
9	3,073,601	3,072,497	5,481,816	10,432,269	1,354,935	1,062,514	2,844,541	5,229,709	8,074,252	910,977	912,917	3,176,991	1,979,825	247,251	198,731	841,938	674,324	1,516,262	12,199,419	12,207,213	39,672,589	43,416,803
10	3,514,757	3,507,720	4,845,388	9,423,883	1,320,472	949,618	3,019,952	5,277,011	8,296,963	1,023,944	1,022,788	3,331,559	1,633,298	254,20	201,907	877,026	625,948	1,502,974	13,557,849	13,578,952	35,955,207	42,077,154
11	3,775,879	3,772,970	5,705,088	8,753,798	1,357,216	1,058,064	3,217,389	5,152,48	8,369,869	1,072,318	1,063,227	4,092,595	1,878,042	256,017	235,321	1,002,266	599,412	1,601,678	14,906,156	14,897,108	37,767,763	44,314,922
12	4,166,869	4,167,635	5,734,430	9,263,037	1,461,796	1,158,506	3,361,684	5,974,858	9,336,542	1,203,132	1,203,671	4,820,701	2,025,252	274,788	291,220	1,149,282	647,300	1,796,582	16,317,497	16,340,796	40,935,360	44,250,401
13	4,432,053	4,431,924	6,272,020	9,139,287	1,184,057	1,015,630	3,402,087	4,763,432	8,165,519	1,225,914	1,232,757	4,553,434	1,912,789	197,223	241,028	1,077,634	710,852	1,788,486	17,034,126	17,025,320	39,551,205	40,508,219
14	4,608,702	4,615,863	6,292,256	8,784,892	1,403,644	1,195,713	4,396,037	5,329,081	8,825,118	1,166,766	1,179,239	4,444,079	1,833,809	215,225	239,075	1,011,392	724,659	1,733,035	17,729,081	17,757,384	39,536,232	39,792,972

備考 (1) 合計欄中明治三十二年、三十三年ハ京仁線ノミ三十四年ヨリ三十七年迄ハ京釜線區間營業ヲ含ミ同三十八年四月二十八日ヨリ京義線ノ便乗便載及同十月ヨリ馬山線開通ノ分ノ合計精算ヲ示シ三十九年以降ハ各驛取扱收入ナリ
(2) 三十九年度ハ京義線馬山線ハ九月以降京釜線京仁線ハ七月以降ヨリヲ記載ス

客車成績累年表

附錄第五表

年度	乘車人員	延人員	一日平均人員	一人平均乘車哩	一日平均收入	一人平均運賃	一日平均客車收入
明治 32	38,415	—	366	—	1,177.90	30.5	117.79
33	215,752	—	674	—	2,398.88	32.8	239.88
34	354,625	—	972	—	3,180.77	30.3	318.07
35	337,919	—	926	—	2,895.26	29.3	289.52
36	484,358	—	1,327	—	3,871.45	27.6	387.14
37	924,973	—	8,894	—	32,265.39	34.5	3,226.52
38	1,397,280	—	7,206	38.8	54,408.97	70.5	5,440.89
39	1,607,086	61,908,001	5,889	41.6	53,231.26	84.9	1,323.12
40	2,625,772	98,832,574	7,174	37.6	5,794.15	75.8	5,791.41
41	2,172,741	89,126,178	5,953	41.0	64,014.58	100.6	6,401.45
42	1,930,442	81,123,407	5,289	42.0	5,762.00	101.0	5,762.00
43	2,024,490	92,247,005	5,704	45.6	6,629.00	107.0	6,629.00
44	2,429,687	104,996,040	7,178	43.2	8,034.00	103.0	8,034.00
大正 1	4,399,022	165,034,551	12,547	37.5	10,111.88	74.0	10,111.88
2	4,995,441	173,743,488	14,577	34.8	11,134.54	70.0	11,134.54
3	4,768,251	166,791,631	13,168	35.0	10,109.95	69.0	10,109.95
4	5,040,471	186,998,752	13,828	37.1	10,868.57	71.0	10,868.57
5	5,258,871	195,280,788	14,953	36.9	12,239.30	73.0	12,214.70
6	7,064,972	270,256,511	19,625	38.3	16,715.26	76.0	16,636.53
7	9,367,023	410,052,547	25,684	43.8	24,546.33	85.0	24,511.65
8	12,184,485	461,407,499	34,381	37.9	32,263.63	82.0	32,263.63
9	12,421,441	445,674,350	31,057	35.9	34,764.52	89.0	34,764.52
10	13,821,144	478,988,532	38,022	24.7	36,759.02	83.0	36,759.02
11	15,252,426	520,553,751	42,052	34.1	39,203.44	80.0	39,203.44
12	16,760,483	567,320,126	46,007	33.8	41,602.90	73.0	41,602.90
13	17,487,874	568,081,216	50,195	32.5	42,870.11	74.0	42,870.11
14	18,241,062	503,302,225	50,168	32.5	42,076.12	73.0	42,076.12

客車成績累年表

年度	乘車人員	延人員	一日平均人員	一人平均乘車哩	一日平均收入	一人平均運賃	一日平均客車收入
明治 32	38,415	—	366	—	1,177.90	30.5	117.79
33	215,752	—	674	—	2,398.88	32.8	239.88
34	354,625	—	972	—	3,180.77	30.3	318.07
35	337,919	—	926	—	2,895.26	29.3	289.52
36	484,358	—	1,327	—	3,871.45	27.6	387.14
37	924,973	—	8,894	—	32,265.39	34.5	3,226.52
38	1,397,280	—	7,206	38.8	54,408.97	70.5	5,440.89
39	1,607,086	61,908,001	5,889	41.6	53,231.26	84.9	1,323.12
40	2,625,772	98,832,574	7,174	37.6	5,794.15	75.8	5,791.41
41	2,172,741	89,126,178	5,953	41.0	64,014.58	100.6	6,401.45
42	1,930,442	81,123,407	5,289	42.0	5,762.00	101.0	5,762.00
43	2,024,490	92,247,005	5,704	45.6	6,629.00	107.0	6,629.00
44	2,429,687	104,996,040	7,178	43.2	8,034.00	103.0	8,034.00
大正 1	4,399,022	165,034,551	12,547	37.5	10,111.88	74.0	10,111.88
2	4,995,441	173,743,488	14,577	34.8	11,134.54	70.0	11,134.54
3	4,768,251	166,791,631	13,168	35.0	10,109.95	69.0	10,109.95
4	5,040,471	186,998,752	13,828	37.1	10,868.57	71.0	10,868.57
5	5,258,871	195,280,788	14,953	36.9	12,239.30	73.0	12,214.70
6	7,064,972	270,256,511	19,625	38.3	16,715.26	76.0	16,636.53
7	9,367,023	410,052,547	25,684	43.8	24,546.33	85.0	24,511.65
8	12,184,485	461,407,499	34,381	37.9	32,263.63	82.0	32,263.63
9	12,421,441	445,674,350	31,057	35.9	34,764.52	89.0	34,764.52
10	13,821,144	478,988,532	38,022	24.7	36,759.02	83.0	36,759.02
11	15,252,426	520,553,751	42,052	34.1	39,203.44	80.0	39,203.44
12	16,760,483	567,320,126	46,007	33.8	41,602.90	73.0	41,602.90
13	17,487,874	568,081,216	50,195	32.5	42,870.11	74.0	42,870.11
14	18,241,062	503,302,225	50,168	32.5	42,076.12	73.0	42,076.12

貨車成績累年表

附錄第六表

年度	貨物噸數	延噸哩	月平均噸數	列車平均噸數	哩平均收入	噸平均運賃	日平均收入
	噸	噸	噸分	噸分	円 圓	円 圓	円 圓
明治 32	1,247	—	11.9	—	157.85	2.532	30.06
22	10,885	—	34.0	—	1,407.92	2.998	101.63
34	28,975	—	79.4	—	3,059.05	2.777	220.42
35	56,263	—	154.1	—	3,913.12	1.830	281.96
36	71,807	—	196.7	—	5,129.51	1.766	369.60
37	196,927	—	1,893.5	—	3,954.50	1.590	3,178.81
38	171,496	7,794,371	884.5	—	1,093.62	2.005	1,911.13
39	224,410	14,077,839	920.5	—	1,236.17	2.700	2,878.40
40	391,175	24,777,710	1,072.3	30.3	1,787.65	2.510	3,133.30
41	737,693	53,199,851	2,021.1	44.9	2,525.83	1.813	4,439.24
42	712,137	57,436,725	1,951.1	52.9	2,675.88	1.982	4,696.36
43	888,723	80,517,056	2,503.0	61.9	3,369.00	2.050	6,226.00
44	1,063,111	90,428,325	3,118.0	65.6	3,486.00	1.910	7,247.00
大正 1	1,105,362	100,282,500	3,154.0	62.9	2,861.84	1.880	6,509.97
2	1,388,915	123,427,673	4,052.0	63.1	2,781.30	1.700	7,392.19
3	1,386,614	139,797,759	3,829.0	75.8	2,795.24	1.840	7,613.00
4	1,656,640	179,945,269	4,545.0	91.6	3,348.50	1.880	9,207.68
5	1,896,888	2,827,88,103	5,363.0	115.6	3,970.41	2.160	11,598.05
6	2,474,173	398,381,249	6,873.0	133.9	5,266.59	2.290	15,755.89
7	2,608,466	461,282,188	7,152.0	146.8	7,052.74	2.980	21,295.52
8	3,642,829	566,703,007	10,279.0	163.7	9,134.79	2.800	28,785.95
9	3,186,073	423,269,533	8,743.0	161.0	10,685.76	3.880	33,884.17
10	3,331,381	439,843,733	9,165.0	165.2	11,026.95	3.840	35,197.51
11	2,791,571	516,168,747	10,462.0	169.9	12,141.25	3.740	39,167.60
12	4,237,183	596,175,532	11,631.0	182.4	12,856.08	3.590	41,765.50
13	3,794,337	548,566,512	10,888.0	185.4	11,351.64	3.710	40,435.93
14	4,297,266	581,713,389	11,819.0	188.2	11,818.35	3.590	42,381.58

年度	貨物噸數	延噸哩	月平均噸數	列車平均噸數	哩平均收入	噸平均運賃	日平均收入
32	1,247	—	11.9	—	157.85	2.532	30.06
22	10,885	—	34.0	—	1,407.92	2.998	101.63
34	28,975	—	79.4	—	3,059.05	2.777	220.42
35	56,263	—	154.1	—	3,913.12	1.830	281.96
36	71,807	—	196.7	—	5,129.51	1.766	369.60
37	196,927	—	1,893.5	—	3,954.50	1.590	3,178.81
38	171,496	7,794,371	884.5	—	1,093.62	2.005	1,911.13
39	224,410	14,077,839	920.5	—	1,236.17	2.700	2,878.40
40	391,175	24,777,710	1,072.3	30.3	1,787.65	2.510	3,133.30
41	737,693	53,199,851	2,021.1	44.9	2,525.83	1.813	4,439.24
42	712,137	57,436,725	1,951.1	52.9	2,675.88	1.982	4,696.36
43	888,723	80,517,056	2,503.0	61.9	3,369.00	2.050	6,226.00
44	1,063,111	90,428,325	3,118.0	65.6	3,486.00	1.910	7,247.00
大正 1	1,105,362	100,282,500	3,154.0	62.9	2,861.84	1.880	6,509.97
2	1,388,915	123,427,673	4,052.0	63.1	2,781.30	1.700	7,392.19
3	1,386,614	139,797,759	3,829.0	75.8	2,795.24	1.840	7,613.00
4	1,656,640	179,945,269	4,545.0	91.6	3,348.50	1.880	9,207.68
5	1,896,888	2,827,88,103	5,363.0	115.6	3,970.41	2.160	11,598.05
6	2,474,173	398,381,249	6,873.0	133.9	5,266.59	2.290	15,755.89
7	2,608,466	461,282,188	7,152.0	146.8	7,052.74	2.980	21,295.52
8	3,642,829	566,703,007	10,279.0	163.7	9,134.79	2.800	28,785.95
9	3,186,073	423,269,533	8,743.0	161.0	10,685.76	3.880	33,884.17
10	3,331,381	439,843,733	9,165.0	165.2	11,026.95	3.840	35,197.51
11	2,791,571	516,168,747	10,462.0	169.9	12,141.25	3.740	39,167.60
12	4,237,183	596,175,532	11,631.0	182.4	12,856.08	3.590	41,765.50
13	3,794,337	548,566,512	10,888.0	185.4	11,351.64	3.710	40,435.93
14	4,297,266	581,713,389	11,819.0	188.2	11,818.35	3.590	42,381.58

57
39

30	14.06	9.11	48.70	5.97	4.72	100
31	15.35	11.55	51.70	6.90	7.31	101
32	16.05	12.08	57.05	7.93	7.83	102
33	17.24	10.67	53.55	9.04	7.12	103
34	18.43	11.69	58.05	9.14	7.37	104
35	19.62	12.71	62.55	9.24	7.62	105
36	20.81	13.73	67.05	9.34	7.87	106
37	22.00	14.75	71.55	9.44	8.12	107
38	23.19	15.77	76.05	9.54	8.37	108
39	24.38	16.79	80.55	9.64	8.62	109
40	25.57	17.81	85.05	9.74	8.87	110
41	26.76	18.83	89.55	9.84	9.12	111
42	27.95	19.85	94.05	9.94	9.37	112
43	29.14	20.87	98.55	10.04	9.62	113
44	30.33	21.89	103.05	10.14	9.87	114
45	31.52	22.91	107.55	10.24	10.12	115
46	32.71	23.93	112.05	10.34	10.37	116
47	33.90	24.95	116.55	10.44	10.62	117
48	35.09	25.97	121.05	10.54	10.87	118
49	36.28	26.99	125.55	10.64	11.12	119
50	37.47	28.01	130.05	10.74	11.37	120
51	38.66	29.03	134.55	10.84	11.62	121
52	39.85	30.05	139.05	10.94	11.87	122
53	41.04	31.07	143.55	11.04	12.12	123
54	42.23	32.09	148.05	11.14	12.37	124
55	43.42	33.11	152.55	11.24	12.62	125
56	44.61	34.13	157.05	11.34	12.87	126
57	45.80	35.15	161.55	11.44	13.12	127
58	47.00	36.17	166.05	11.54	13.37	128
59	48.19	37.19	170.55	11.64	13.62	129
60	49.38	38.21	175.05	11.74	13.87	130
61	50.57	39.23	179.55	11.84	14.12	131
62	51.76	40.25	184.05	11.94	14.37	132
63	52.95	41.27	188.55	12.04	14.62	133
64	54.14	42.29	193.05	12.14	14.87	134
65	55.33	43.31	197.55	12.24	15.12	135
66	56.52	44.33	202.05	12.34	15.37	136
67	57.71	45.35	206.55	12.44	15.62	137
68	58.90	46.37	211.05	12.54	15.87	138
69	60.09	47.39	215.55	12.64	16.12	139
70	61.28	48.41	220.05	12.74	16.37	140
71	62.47	49.43	224.55	12.84	16.62	141
72	63.66	50.45	229.05	12.94	16.87	142
73	64.85	51.47	233.55	13.04	17.12	143
74	66.04	52.49	238.05	13.14	17.37	144
75	67.23	53.51	242.55	13.24	17.62	145
76	68.42	54.53	247.05	13.34	17.87	146
77	69.61	55.55	251.55	13.44	18.12	147
78	70.80	56.57	256.05	13.54	18.37	148
79	72.00	57.59	260.55	13.64	18.62	149
80	73.19	58.61	265.05	13.74	18.87	150
81	74.38	59.63	269.55	13.84	19.12	151
82	75.57	60.65	274.05	13.94	19.37	152
83	76.76	61.67	278.55	14.04	19.62	153
84	77.95	62.69	283.05	14.14	19.87	154
85	79.14	63.71	287.55	14.24	20.12	155
86	80.33	64.73	292.05	14.34	20.37	156
87	81.52	65.75	296.55	14.44	20.62	157
88	82.71	66.77	301.05	14.54	20.87	158
89	83.90	67.79	305.55	14.64	21.12	159
90	85.09	68.81	310.05	14.74	21.37	160
91	86.28	69.83	314.55	14.84	21.62	161
92	87.47	70.85	319.05	14.94	21.87	162
93	88.66	71.87	323.55	15.04	22.12	163
94	89.85	72.89	328.05	15.14	22.37	164
95	91.04	73.91	332.55	15.24	22.62	165
96	92.23	74.93	337.05	15.34	22.87	166
97	93.42	75.95	341.55	15.44	23.12	167
98	94.61	76.97	346.05	15.54	23.37	168
99	95.80	77.99	350.55	15.64	23.62	169
100	97.00	79.01	355.05	15.74	23.87	170
101	98.19	80.03	359.55	15.84	24.12	171
102	99.38	81.05	364.05	15.94	24.37	172
103	100.57	82.07	368.55	16.04	24.62	173
104	101.76	83.09	373.05	16.14	24.87	174
105	102.95	84.11	377.55	16.24	25.12	175
106	104.14	85.13	382.05	16.34	25.37	176
107	105.33	86.15	386.55	16.44	25.62	177
108	106.52	87.17	391.05	16.54	25.87	178
109	107.71	88.19	395.55	16.64	26.12	179
110	108.90	89.21	400.05	16.74	26.37	180
111	110.09	90.23	404.55	16.84	26.62	181
112	111.28	91.25	409.05	16.94	26.87	182
113	112.47	92.27	413.55	17.04	27.12	183
114	113.66	93.29	418.05	17.14	27.37	184
115	114.85	94.31	422.55	17.24	27.62	185
116	116.04	95.33	427.05	17.34	27.87	186
117	117.23	96.35	431.55	17.44	28.12	187
118	118.42	97.37	436.05	17.54	28.37	188
119	119.61	98.39	440.55	17.64	28.62	189
120	120.80	99.41	445.05	17.74	28.87	190
121	122.00	100.43	449.55	17.84	29.12	191
122	123.19	101.45	454.05	17.94	29.37	192
123	124.38	102.47	458.55	18.04	29.62	193
124	125.57	103.49	463.05	18.14	29.87	194
125	126.76	104.51	467.55	18.24	30.12	195
126	127.95	105.53	472.05	18.34	30.37	196
127	129.14	106.55	476.55	18.44	30.62	197
128	130.33	107.57	481.05	18.54	30.87	198
129	131.52	108.59	485.55	18.64	31.12	199
130	132.71	109.61	490.05	18.74	31.37	200

15年4月以降ノ各線合計ハ便宜上旅客貨物ノ合計ヲ計

101	200.2	22.706.1	0.10		
102	777.2	20.860.2	1.70		
103	022.1	21.210.2	—		
104	337.1	12.827.6	—		
105	022.1	20.160.2	—		
106	300.2	23.220.1	—		
107	2.700	21.220.1	—		
108	2.210	22.727.1	0.02		
109	1.210	22.227.2	0.24		
110	222.1	22.279.2	0.22		
111	2.020	22.222.2	0.10		
112	1.210	22.222.2	0.20		
113	1.222.1	22.122.2	0.20		
114	1.222.1	22.122.2	0.20		
115	1.222.1	22.122.2	0.20		
116	1.222.1	22.122.2	0.20		
117	1.222.1	22.122.2	0.20		
118	1.222.1	22.122.2	0.20		
119	1.222.1	22.122.2	0.20		
120	1.222.1	22.122.2	0.20		
121	1.222.1	22.122.2	0.20		
122	1.222.1	22.122.2	0.20		
123	1.222.1	22.122.2	0.20		
124	1.222.1	22.122.2	0.20		
125	1.222.1	22.122.2	0.20		
126	1.222.1	22.122.2	0.20		
127	1.222.1	22.122.2	0.20		
128	1.222.1	22.122.2	0.20		
129	1.222.1	22.122.2	0.20		
130	1.222.1	22.122.2	0.20		